

科目名		労働市場のしくみと制度					
教員名		井出 多加子					
科目No.	121033020	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>授業計画や準備学習等は変更される場合があるので、適時変更の有無と詳細を確認すること。 <先進諸国の雇用システムと労働市場の比較> 世界的な感染症拡大のため、働き方の変化が加速されその対応が最重要課題となっています。 個人がどのように努力しても、情報の非対称性や制度などから市場メカニズムのもとで解決しない多くの問題がふくらみ、個々の利害が真正面からぶつかり合うのが労働市場です。 今年度は、特に以下の4つの大きなテーマのもとに、先進国を比較します。 ①働き方改革と関連法制度、テレワークで迫られる日本の新しい働き方 ②世界に広がる失業と雇用保護、非正規労働者の雇用 ③新しい働き方と同一労働同一賃金、人材育成 ④国境を超えて働くこと（移民、技能実習生制度など） アメリカやオランダをはじめとする欧米諸国では、成果主義やワークシェアリングなどさまざまな特徴的仕組みを工夫しています。しかし各国雇用慣行は、仕事の配分、労働管理、評価などがセットになって一つのシステムを形成しているため、特定の制度のみを日本に導入しても成功しません。この授業ではシステムの違いをもたらすものはないか、その根源を歴史的経緯や法制度を含めて学びます。今後グローバルズムがさらに進展し、日本でも外国籍の労働者が増加し、日本の学生が海外で就職することは珍しくなくなっています。 この授業では、日本の雇用慣行と政策を限られた資料ですが諸外国と比較し、時間に管理されない日本のホワイトカラー労働者をめぐる将来の方向性を皆と考えていきます。また今年度は特に、外国人労働者の受け入れと技能形成について学び、関係する外部講師に講演を行っていただき、日本への受入と共生を考えます。</p>							
<p>[到達目標]</p> <p>DP6（専門分野の知識・理解）、DP2（課題の発見と解決）、DP5（表現力、発信力）を実現するため、以下を到達目標とする。 ①働き方改革に関連して労働基準法や法制度の変更を正確に理解する。 ②各国の労働法制度を、歴史的経緯や制度の影響、インセンティブな調整費用など経済学の視点で比較する。 ③働き方改革がもたらす労働生産性や労働市場の流動化などの影響をマクロ経済学の視点から理解する。 ④日本経済と企業にとって、成長のための外国人労働者の活用について、データをもとに客観的でグローバルな視点から自分の意見を述べるができる。</p>							
[授業の計画と準備学習]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	1-14回まで以下の内容で講義する。経済動向などで順序が変更になる可能性もある。ポータルで連絡するので、適時確認すること。 <ガイダンス> ・学習スケジュール、中間・期末課題、欠席時の対応、評価などについて説明する。 ・働き方改革をうけて、日本で急速に進展するジョブ型の働き方を紹介する。			授業資料は、原則として1週間前までにCoursePowerにアップする。 ポータルの授業資料と参考資料を読み、考えをまとめて質問などを考えておく。		60	
第2回	<ジョブ型と雇用のポートフォリオ> ・ジョブ型と伝統的日本的な働き方を比較し、多様な労働者を紹介する。 ・組織全体を管理する雇用のポートフォリオについて、仕事の内容や賃金体系について学ぶ			ポータルの授業資料と参考資料を読み、考えをまとめて質問などを考えておく。		60	
第3回	<働き方改革と労働生産性> ・働き方改革法の内容と、テレワークの課題。 ・それらの背景にある日本の労働生産性の課題、労働市場とマクロ経済の関係を学ぶ。			ポータルの授業資料と参考資料を読み、考えをまとめて質問などを考えておく。		60	
第4回	<世界の失業> ・世界の失業と不完全就業を比較し、非正規労働者の置かれた環境や労働市場の流動性について学ぶ。			ポータルの授業資料と参考資料を読み、考えをまとめて質問などを考えておく。		60	
第5回	<国境を超えて働くこと> 多文化共生と、日本の異文化対応能力の課題に関する研究を紹介する。 また、国境を超えて働くことに関する日本の制度「技能実習」と「特定技能」の理想と現実のギャップを確認し、建設業労働者における受け入れ体制とキャリアアップシステムを紹介する。			これまでの授業資料を確認、関連資料を読んでおく。		120	
第6回	<国境を超えて働くこと> 先進諸国における3段階の受け入れ体制の変化を概観し、外国人労働者の受け入れ国への影響（労働力、出生率、社会保障負担など）を学びながら、日本の受け入れ制度の課題をともに考える。			ポータルの授業資料と参考資料を読み、考えをまとめて質問などを考えておく。		60	
第7回	<多様な雇用契約> 働くことに関する多様な雇用契約について学び、請負契約や派遣契約の課題について紹介する。また、近年拡大しつつあるUberEatsなどの「ギグエコノミー」における労働者の働く環境の課題を検討する。			ポータルの授業資料と参考資料を読み、考えをまとめて質問などを考えておく。		60	
第8回	<同一労働同一賃金とは> 働き方改革関連法で導入された、同一労働同一賃金について、「誰と」「何が」同一なのか、またどうすればその環境を確保できるのかを検討する。 <中間課題のフィードバック> 中間課題について全体的フィードバックを行い、期末課題に向けてポイントを紹介する。			ポータルの授業資料と参考資料を読み、考えをまとめて質問などを考えておく。		60	

第9回	<長時間労働とテレワーク> 感染症拡大で進展するテレワークの種類や課題を紹介し、長時間労働が発生するメカニズムを研究者の開設動画をもとに学ぶ。	ポータル授業資料と参考資料を読み、考えをまとめて質問などを考えておく。	60
第10回	<雇用システムとアメリカの労働者> 先任権や集団解雇など雇用保護の弱いアメリカの労働者の働き方の特徴やホワイトカラーのジョブ型について紹介する。また、日本で導入された「高度プロフェッショナル制度」について、アメリカのホワイトカラーエグゼンプションをもとに、導入の背景と問題点を検討する。	ポータル授業資料と参考資料を読み、考えをまとめて質問などを考えておく。	120
第11回	<同一労働同一賃金とオランダモデル> オランダの労働市場改革を学び、ワークシェアリング、ワークライフバランス、そして同一労働同一賃金を支える制度や働き方を検討する。日本における同一労働と同一賃金の課題を紹介する。	ポータル授業資料と参考資料を読み、考えをまとめて質問などを考えておく。	60
第12回	<ドイツにおける職業教育訓練制度と労働市場> ドイツのデュアルシステムと呼ばれる制度を紹介し、職業訓練と教育とのつながりを知る。また、解雇を前提としないドイツのジョブ型について学ぶ。	ポータル授業資料と参考資料を読み、考えをまとめて質問などを考えておく。	60
第13回	<人材育成と人的資本論> 人的資本論を学び、日本の雇用における人材育成の特徴と賃金プロファイルのメカニズムと限界を知る。	ポータル授業資料と参考資料を読み、考えをまとめて質問などを考えておく。	60
第14回	<SDGsからみる雇用システムの課題とまとめ> アメリカ、ドイツ、イギリス、日本の雇用システムを比較して研究を紹介し、これまで学んだ個々のトピックを統合しながら、日本における新しい働き方の方向性と課題を検討する。	課題に向けて、これまでの資料を確認し、疑問点などをまとめておく。	120
〔授業の方法〕 授業は講義形式で、配布した授業資料や関連資料をもとにすすめる。授業では外国の労働環境に関する動画を、複数回紹介して、受講者の意見を求めることがある。また外部講師を招いて、生産性を高める働き方の改革、人事評価制度におけるポイントなどについて、講演をいただく予定である。スケジュールについては、事前にポータルを通じて受講者に連絡する。			
〔成績評価の方法〕 学期末試験および期末レポートは実施しない。 以下の項目にもとづき、上記のDPと到達目標の達成度に応じて、総合的に成績を評価する。 1. 授業中のミニクイズ（合計を100点満点の値に換算） 50% 2. 中間課題（40点満点）と期末課題（60点満点） 50% 授業内容に関する有意義な質問や提案は、加点することがある。 中間課題は、期末課題の一部とする。 提出内容にコメントをつけてフィードバックするので、それをもとに期末課題に取り組むこと。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠し、上記、到達目標の達成度に基づいて評価します。 /Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 以下の授業に関連しているが、特に予備知識や先修科目は設けない。 労働経済学、情報の経済学、人的資源管理			
〔テキスト〕 特に指定しない。授業資料は、担当者からポータルなどを通じて配布する。			
〔参考書〕 トピックごとに関連する資料を授業で適時紹介する。 『グローバル時代の日本の働き方—経済学から見る労働市場の制度』出版社：銀河書籍（2015/9/1） ISBN-10: 4434210920 ISBN-13: 978-4434210921			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。			
〔特記事項〕			

科目名		エリア・スタディーズA					
教員名		鴨野 洋一郎					
科目No.	121222000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕							
<p>ヨーロッパの南に位置する「長靴の国」イタリアは、ローマ帝国や中世の都市国家が繁栄した古い歴史をもち、その歴史が色濃く残る景観は世界中の観光客をひきつけている。私たちにもなじみ深い国であるが、ニュースで取り上げられるヨーロッパの国はイギリスやドイツ、フランスが中心で、今のイタリアを知る機会は意外にも少ない。この授業では、イタリアの現在の姿について、政治・経済・社会の観点から丁寧に学んでいく。この授業を通じ、長い歴史を経て成熟しつつも、さまざまな問題を抱えて奮闘する今日のイタリアを知ることになるだろう。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP1-1【専門分野の知識・技能】、DP3-1【課題の発見と解決】(情報の調査収集+分析・解釈+論理的思考)、DP4-1【表現力、発信力】を実現するため、つぎの3点を到達目標とする。</p> <p>①現代イタリアの政治を歴史とともに学び、それが抱える問題について理解する。 ②現代イタリアの経済構造を学び、経済におけるさまざまな課題について理解する。 ③現代イタリアの社会を移民や家族などの観点から、その問題点とともに理解する。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス ・授業の概要、到達目標、授業内容、成績評価等を説明する。			【復習】授業の流れをイメージできるようにする。		60	
第2回	第I部 現代イタリアの政治① —イタリア統一から現代まで— ・統一後、イタリアの政治機構が整備されてきた状況について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第3回	第I部 現代イタリアの政治② —政治のしくみ— ・イタリアの憲法や議会、直接民主主義について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第4回	第I部 現代イタリアの政治③ —近年の政治の混迷— ・戦後の政治体制が崩壊したのちの政治の混迷について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第5回	第I部のまとめ ・第I部の授業内容についてまとめる。 ・小レポートについて理解する。			【復習】第I部の内容をまとめ、小レポートを作成する。		120	
第6回	第II部 現代イタリアの経済① —イタリア=モデル— ・中小企業を中心とするイタリアの経済構造について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第7回	第II部 現代イタリアの経済② —南北格差と地下経済— ・イタリア経済の問題である南北格差と地下経済について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第8回	第II部 現代イタリアの経済③ —EUとの関係— ・イタリアとEUとの関係および緊縮財政について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第9回	第II部のまとめ ・第II部の授業内容についてまとめる。 ・小レポートについて理解する。			【復習】第II部の内容をまとめ、小レポートを作成する。		120	
第10回	第III部 現代イタリアの社会① —移民、格差、社会保障— ・イタリアの社会が抱えるさまざまな問題について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第11回	第III部 現代イタリアの社会② —家族のあり方— ・イタリアの特徴的な家族像およびその変化について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第12回	第III部 現代イタリアの社会③ —人びとの暮らし— ・人びとの日々の生活について、さまざまな観点から学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第13回	第III部のまとめ ・第III部の授業内容についてまとめる。			【復習】第III部の内容をまとめる。		60	
第14回	授業のまとめ ・授業内容全体についてまとめる。 ・期末レポートについて理解する。			【復習】授業全体の内容をまとめ、期末レポートを作成する。		120	
〔授業の方法〕							
<p>授業は講義形式で行われる。レジュメを配布し、それにもとづき解説を行う。また適宜スライドを映し、イメージを共有する。授業全体を3つのパートに分け、第I部および第II部の終了後に小レポート、授業全体の最後に期末レポートを課す。 各レポートの概要については、以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小レポート：第I部および第II部の内容について理解し、考察できているかを確認する。 ・期末レポート：授業全体の内容について理解し、考察できているかを確認する。 							
〔成績評価の方法〕							

小レポート（2回：各20%）、期末レポート（50%）、授業への積極的な参加（10%）による総合評価。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
つぎの点に着目し、その達成度により評価する。

- ①現代イタリアの政治を歴史とともに知っており、それが抱える問題について説明できる。
- ②現代イタリアの経済構造を知っており、経済におけるさまざまな課題について説明できる。
- ③現代イタリアの社会を移民や家族などの観点から、その問題点とともに説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

必要な予備知識はとくにない。

〔テキスト〕

とくになし。

〔参考書〕

とくになし。参考文献については、授業中に指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		エリア・スタディーズB					
教員名		永野 護					
科目No.	121222100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕							
<p>アジア太平洋地域の経済を理論・データ面双方から学習します。経済学の理論に対し、現実のアジアの貿易・資本取引がどのように推移しているのか、そしてそれは各国通商政策、通貨政策、貿易協定により影響を受けているのか否かを確認し、理解を深めます。経済理論のデータ面からの確認では、日本企業の貿易取引、直接投資を通じた進出状況を中心とする講義を進めます。世界銀行、国際連合、国際通貨基金他の国際機関データベースへAPI (Application Programming Interface) 接続することで、マクロ経済データを取得し、経済理論を実装するデモを各回行います。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP1 (専門分野の知識・技能)、DP3 (課題の発見と解決)、DP4 (表現力、発信力) を実現するため、以下を到達目標とします。マクロ経済学、ミクロ経済学をベースとして、アジア太平洋地域の経済を、データを踏まえて理解することを目標とします。世界貿易機関 (WTO) や経済連携協定 (EPA)、環太平洋戦略的経済連携協定 (TPP) などの用語を正しく理解し、これらの協定締結交渉へ至る経緯やその意義、協定がもたらす締結国への影響の理解が到達目標です。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の目安 (分)	
第1回	第1回 イントロダクション/東アジア・オセアニア地域諸国の全体像			ハンドアウトを予習・復習に参照してください。		120分	
第2回	第2回 インドネシアの経済・産業・政治システム			ハンドアウトを予習・復習に参照してください。		120分	
第3回	第3回 マレーシアの経済・産業・政治システム			ハンドアウトを予習・復習に参照してください。		120分	
第4回	第4回 フィリピンの経済・産業・政治システム			参考書を予習として参照し、講義配布資料を復習に用いて確認してください。		120分	
第5回	第5回 タイの経済・産業・政治システム			参考書を予習として参照し、講義配布資料を復習に用いて確認してください。		120分	
第6回	第6回 台湾の経済・産業・政治システム			参考書を予習として参照し、講義配布資料を復習に用いて確認してください。		120分	
第7回	第7回 中国の経済・産業・政治システム			参考書を予習として参照し、講義配布資料を復習に用いて確認してください。		120分	
第8回	第8回 香港の経済・産業・政治システム			参考書を予習として参照し、講義配布資料を復習に用いて確認してください。		120分	
第9回	第9回 中間到達度確認および解説			参考書、講義配布資料を復習に用いて確認してください。		120分	
第10回	第10回 北朝鮮の経済・産業・政治システム			参考書を予習として参照し、講義配布資料を復習に用いて確認してください。		120分	
第11回	第11回 韓国の経済・産業・政治システム			参考書を予習として参照し、講義配布資料を復習に用いて確認してください。		120分	
第12回	第12回 インドの経済・産業・政治システム			参考書を予習として参照し、講義配布資料を復習に用いて確認してください。		120分	
第13回	第13回 総まとめ			参考書を予習として参照し、講義配布資料を復習に用いて確認してください。		120分	
第14回	第14回 到達度確認および解説			参考書を予習として参照し、講義配布資料を復習に用いて確認してください。		120分	
〔授業の方法〕							
<p>講義では最後 15 分間に簡単な Quiz を実施します。100 分の講義では冒頭 15 分が前回 Quiz の解答、60 分が経済学理論の説明、25 分が統計データの説明と R を用いた分析と解釈の仕方について講義します。QUIZ の回答を以て出席とし、対面教室では出席は採りません。QUIZ の回答期限は講義実施後、一週間。第 1 回オリエンテーションにおいて履修者の希望が多ければ、MS Stream による収録動画の配信も検討します。</p>							
〔成績評価の方法〕							
<p>学期末試験および期末レポートは実施しない。 毎回 MS Forms を通じて実施される QUIZ への回答を以て出席とする。(対面講義には PC は必携のこと。尚、対面教室では出席は採らない。) ◆成績評価方法 (A) 平常点 40% 1QUIZ 4点×10回 (B) レポート (3回程度) 60% 1レポート (1頁) 20点×3回 R による各課題の実証分析 (各 1 頁+表紙・図表) を MS Teams を通じて提出すること。</p>							

R の使用方法は第 2 ～ 5 回講義にて詳しく説明する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。
上記、到達目標の達成度に基づいて評価します。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

本講座は、①QUIZ の回答、②レポート（1 頁/回）×3 回、が成績評価の全てである。
R の使用方法は第 2 ～ 5 回講義において詳細を説明する。OS は Windows が望ましいが、自分でコードエラーを解決できるのであれば Mac でも受講可。
レポートのテーマは R を用いた（1）ASEAN の通商政策の分析、（2）中国・インド・韓国の通商政策の分析
を予定。QUIZ、レポートの実証データは世界銀行 WDI を用いる。

〔テキスト〕

特になし。ハンドアウトを Course Power から毎回配布。

〔参考書〕

適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

コンサルティング企業、国際機関の勤務経験を持つ教員によるアクティブ・ラーニング授業。

科目名		文化と経済 / (アジア世界)					
教員名		抜本 佳代					
科目No.	121222210	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
[テーマ・概要]							
<p>テーマ：絹織物という文化とその経済を考える</p> <p>この授業では、日本国内における絹織物をめぐる文化と経済を展開していきます。</p> <p>単に、絹織物に関するある事象がいつ起こったのかという歴史だけにこだわるのではなく、絹織物産業の発展によってモノの流れがどのように変化し、社会にどのような影響を及ぼしていったのか、ライフスタイルがどのような変化を遂げたのか——に注目していきます。</p>							
[到達目標]							
<p>DP1 (専門分野の知識・技能)、DP3 (課題の発見と解決)、DP4 (表現力、発信力) を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <p>①明治期の殖産興業であった製糸業の背景とその実態はどのようなものだったのかについて、明確に理解することができる。</p> <p>②絹織物の誕生が人間社会にどのような影響を及ぼしたのかを明確に分析し、理解し、提示することができる。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の目安 (分)	
第1回	イントロダクション ・授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 ・読んでおくべき参考文献についての解説をする。			【予習】 シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】 提示された参考文献を調べておく。		60	
第2回	絹織物、生糸、製糸の起源 / 神話 (1) ・絹織物、生糸、製糸の製造工程について解説をする。			【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第3回	絹織物、生糸、製糸の起源 / 神話 (2) ・絹織物、蚕にまつわる神話について解説をする。			【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第4回	国内における養蚕業と桑栽培の推移 ・養蚕業と桑栽培の関連性とその生産推移について解説をする。			【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第5回	横浜開港と蚕糸業の発展 (1) ・横浜開港までの歴史を解説する。			【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第6回	横浜開港と蚕糸業の発展 (2) ・横浜開港以降の蚕糸業との関連性、発展経緯を解説する。			【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		90	
第7回	中間テスト ・これまでの授業で学修してきた理解度を確認するため のテストを行う。			【予習】 これまでの授業で学修してきたことを、自分の言葉で解説することができるようにしておく。		60	
第8回	富岡製糸場を基軸とした製糸技術の発展 (1) ・明治期の殖産興業の中心地としての富岡製糸場を解説する。			【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第9回	富岡製糸場を基軸とした製糸技術の発展 (2) ・海外技術者による製糸技術の伝播、国内独自の生産体制を編み出すまでの過程について解説をする。			【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第10回	富岡製糸場を基軸とした製糸技術の発展 (3) ・世界遺産としての富岡製糸場および絹産業遺産群の価値について解説をする。			【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第11回	世界恐慌、他国の人絹工業からの影響 (1) ・世界恐慌によっていかに国内製糸業が打撃を受けたかについて解説をする。			【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第12回	世界恐慌、他国の人絹工業からの影響 (2) ・世界的にも質の高い製糸業の中心地であった富岡製糸場が、人絹工業によって浸食されていく過程を解説する。			【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第13回	化学繊維、化学染料の発展 ・戦後、天然繊維である絹が下火になり、化学繊維と化学染料が発展していく過程を解説する。			【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第14回	総括 ・国内養蚕業・絹織物業のいまを解説する。 ・絹織物という文化と経済を考える。			【予習】 到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		120	
[授業の方法]							

基本的に、配布プリントなどをもとに、内容を詳説していく講義形式で行う。
随時授業の中で、与えられた課題に対する解答／コメントを作成する。
上で示された準備学習の時間は目安であるので、各自の理解度に応じて取り組むことが求められる。

- なお、各テスト、課題の狙いは以下の通りである。
- ・ 中間テスト：第1回～6回までの学修内容についての基礎的な理解度と、キーワードの理解を確認する。
 - ・ 課題に対する解答／コメント：授業ごとの到達度を確認する。
 - ・ 到達度確認テスト：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。

〔成績評価の方法〕

随時行う課題への解答／コメント（15%）、中間テスト（15%）、到達度確認テスト（70%）による総合評価を基本とし、質問など授業への積極的な参加をプラスに評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度によって評価する。

- ・ 基礎的なキーワード、鍵概念的な理解。
- ・ 絹の歴史、文化に対する正確な理解。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし。

〔テキスト〕

特になし。適宜指示をする。

〔参考書〕

特になし。適宜指示をする。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		Special Lectures on International Communications					
教員名		抜本 佳代					
科目No.	121222400	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>テーマ：「日本を語るための国際的な教養を身につける」</p> <p>この授業は、日本人が外国人とコミュニケーションを円滑かつ深く行っていく場合に必要になる知識と教養を習得するためのものです。外国人とのコミュニケーションは、単に英語が上手く話せるということだけでは不十分です。表面的な日常会話のレベルを脱し、豊かな内容を相手に伝えていくためには、まず自分自身が興味を抱いて、その豊かな内容そのものを知らなければなりません。</p> <p>この授業では、外国人の関心の高い能楽や狂言や歌舞伎、アニメやKAWAIIというサブカルチャー、日本の美おもてなし文化、日本映画などについての深いコミュニケーションをとるための知識を、ゲストスピーカーとのオムニバス形式で解説をしていきます。</p>							
<p>[到達目標]</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）、DP4（表現力、発信力）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <p>①「コミュニケーションのための国際的な教養力」の必要性を的確に理解する。</p> <p>②奥行きのある日本文化を理解して、他人に伝えることができる。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、予習・復習の仕方を説明する。 イントロダクション ・外国人との円滑なコミュニケーションのために必要なものは何かを説明する。			【予習】 シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】 国際的な教養力について理解しておく。		60分	
第2回	日本を語り世界を理解するための国際的な教養力（1）：歌舞伎 テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。			【予習】 事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60分	
第3回	日本を語り世界を理解するための国際的な教養力（2）：能楽／狂言 テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。			【予習】 事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60分	
第4回	日本を語り世界を理解するための国際的な教養力（3）：仏像 テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。			【予習】 事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60分	
第5回	日本を語り世界を理解するための国際的な教養力（4）：日本の美 テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。			【予習】 事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60分	
第6回	日本を語り世界を理解するための国際的な教養力（5）：古典文学 テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。			【予習】 事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60分	
第7回	日本を語り世界を理解するための国際的な教養力（6）：現代文学 テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。			【予習】 事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60分	
第8回	日本を語り世界を理解するための国際的な教養力（7）：サブカルチャー テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。			【予習】 事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60分	
第9回	日本を語り世界を理解するための国際的な教養力（8）：映画 テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。			【予習】 事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60分	
第10回	日本を語り世界を理解するための国際的な教養力（9）：音楽 テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。			【予習】 事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60分	
第11回	日本を語り世界を理解するための国際的な教養力（10）：アメリカ テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。			【予習】 事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60分	
第12回	日本を語り世界を理解するための国際的な教養力（11）：ヨーロッパ テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。			【予習】 事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60分	
第13回	日本を語り世界を理解するための国際的な教養力（12）：日本食／おもてなし テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。			【予習】 事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60分	
第14回	総括 ・授業のまとめ キーワード、キー概念等を確認する。			【予習】 これまでの授業で学んできた内容を振り返り、確認しておく。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができ		60分	

	<p>・期末レポート提出</p>	<p>るようしておく。</p>	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>基本的に、配布プリントなどをもとに、内容を詳説していく講義形式で行う。 随時授業の中で、与えられた課題に対する解答／コメントを作成する。 上で示された準備学習の時間は目安であるので、各自の理解度に応じて取り組むことが求められる。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>随時行う課題への解答／コメント（40%）、期末レポート（60%）による総合評価を基本とし、質問など授業への積極的な参加をプラスに評価する。</p>			
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。</p>			
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>特になし。</p>			
<p>〔テキスト〕</p> <p>特になし。適宜紹介する。</p>			
<p>〔参考書〕</p> <p>特になし。適宜紹介する。</p>			
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトで周知する。</p>			
<p>〔特記事項〕</p>			

科目名		Special Lecture on Global Economy					
教員名		永野 護					
科目No.	121222500	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>This course is designed to develop students' ability to understand international economics theories and practices in the real world of business. Participating students will analyze automobile firms (Toyota vs. Tesla), electronics firms (Sony vs. Samsung), financial firms (MUFG vs. JP Morgan Chase), Pharmaceutical firms (Takeda vs. Pfizer), and other industries. By analyzing and comparing successful and unsuccessful strategic managements of these international firms, students will be able to understand the world competitiveness of the Japanese firms. In this class, students will give a five-minute presentation on the above firms 2-3 times throughout the semester. A weekly QUIZ will be held with the purpose of increasing the TOEIC score by 100 points in the last 30 minutes of the class. Students will respond the weekly QUIZ through MS Forms (Office 365).</p>							
<p>[到達目標]</p> <p>The goals of this course are not only to understand the Japanese firms, but also to be able to</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) know basic research skills required for corporate analyzes. 2) know basic English/Japanese expressions required for presentation. 3) increase the TOEIC score. <p>The above goals are in line with the Seikei University Diploma Policy, DP1, DP3, and DP4.</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の目安 (分)	
第1回	Introduction			Course work review and preparation for the next class		60	
第2回	Autmobile Industry 1 (Toyota vs. Tesla)			Course work review and preparation for the next class		60	
第3回	Autmobile Industry 2 (Toyota vs. Tesla)			Course work review and preparation for the next class		60	
第4回	Research Work and Presentation 1			Course work review and preparation for the next class		60 - 120	
第5回	Electronics Industry 1 (Sony vs. Samsung)			Course work review and preparation for the next class		60 - 120	
第6回	Electronics Industry 2 (Sony vs. Samsung)			Course work review and preparation for the next class		60	
第7回	Research Work and Presentation 2			Course work review and preparation for the next class		60	
第8回	Guest Speaker Workshop 1			Course work review and preparation for the next class		60	
第9回	Financial Industry 1 (MUFG vs. JP Morgan Chase)			Course work review and preparation for the next class		60	
第10回	Financial Industry 2 (MUFG vs. JP Morgan Chase)			Course work review and preparation for the next class		60	
第11回	Research Work and Presentation 3			Course work review and preparation for the next class		60	
第12回	Guest Speaker Workshop 2			Course work review and preparation for the next class		60	
第13回	Course Wrap-up 1			Course work review and preparation for the next class		60 - 120	
第14回	Course Wrap-up 2			Course work review		60 - 120	
<p>[授業の方法]</p> <p>A detailed course work plan will be provided by the instructor at the beginning of the course. The course work plan may be modified depending on participants' actual progress.</p> <p>In each course work, the instructor will first explain theory and practices in corporate/international economics. Then, students will be expected to participate discussions, corporate analysis, and so on.</p> <p>Students will be also expected to give 5 minute presentations about the firm analysis in the 4th, 7th, and 11th class.</p> <p>A weekly QUIZ will be held in the last 30 minutes of the class.</p> <p>The class will be conducted in English when at least one student from foreign country participates the class.</p> <p>Otherwise, the class will be held in Japanese.</p>							

〔成績評価の方法〕

The final grade will be based on the following criteria:

- 1) 5 Minutes Presentation 60% (20% x 3 times)
- 2) Quizzes 40%

〔成績評価の基準〕

Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. Grading is also based on how well you have accomplished the objectives described above, such as completing three types of mini-projects in which students experience primary data collection.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

N.A.

〔テキスト〕

Handouts will be distributed through the Course Power.

〔参考書〕

Relevant resources or books will be introduced as needed.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

The class will be conducted in English when at least one student from foreign country participates the class.
Otherwise, the class will be held in Japanese.

科目名		グローバル特殊講義 / (国際労働市場)					
教員名		井出 多加子					
科目No.	121222600	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>授業計画や準備学習等は変更される場合があるので、適時変更の有無と詳細を確認すること。 <先進諸国の雇用システムと労働市場の比較> 世界的な感染症拡大のため、働き方の変化が加速されその対応が最重要課題となっています。 個人がどのように努力しても、情報の非対称性や制度などから市場メカニズムのもとで解決しない多くの問題がふくらみ、個々の利害が真正面からぶつかり合うのが労働市場です。 今年度は、特に以下の4つの大きなテーマのもとに、先進国を比較します。 ①働き方改革と関連法制度、テレワークで迫られる日本の新しい働き方 ②世界に広がる失業と雇用保護、非正規労働者の雇用 ③新しい働き方と同一労働同一賃金、人材育成 ④国境を超えて働くこと(移民、技能実習生制度など) アメリカやオランダをはじめとする欧米諸国では、成果主義やワークシェアリングなどさまざまな特徴的仕組みを工夫しています。しかし各国雇用慣行は、仕事の配分、労働管理、評価などがセットになって一つのシステムを形成しているため、特定の制度のみを日本に導入しても成功しません。この授業ではシステムの違いをもたらすものはないか、その根源を歴史的経緯や法制度を含めて学びます。今後グローバル化がさらに進展し、日本でも外国籍の労働者が増加し、日本の学生が海外で就職することは珍しくなくなっています。 この授業では、日本の雇用慣行と政策を限られた資料ですが諸外国と比較し、時間に管理されない日本のホワイトカラー労働者をめぐる将来の方向性を皆と考えていきます。また今年度は特に、外国人労働者の受け入れと技能形成について学び、関係する外部講師に講演を行っていただき、日本への受入と共生を考えます。</p>							
<p>[到達目標]</p> <p>DP1(専門分野の知識・技能)、DP3(課題の発見と解決)、DP4(表現力、発信力)を実現するため、以下を到達目標とする。 ①働き方改革に関連して労働基準法や法制度の変更を正確に理解する。 ②各国の労働法制度を、歴史的経緯や制度の影響、インセンティブな調整費用など経済学の視点で比較する。 ③働き方改革がもたらす労働生産性などの影響をマクロ経済学の視点から理解する ④日本経済と企業にとって、成長のための外国人労働者の活用について、データをもとに客観的でグローバルな視点から自分の意見を述べるができる。</p>							
[授業の計画と準備学習]							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	1-14回まで以下の内容で講義する。経済動向などで順序が変更になる可能性もある。ポータルで連絡するので、適時確認すること。 <ガイダンス> ・学習スケジュール、中間・期末課題、欠席時の対応、評価などについて説明する。 ・働き方改革をうけて、日本で急速に進展するジョブ型の働き方を紹介する。			授業資料は、原則として1週間前までにCoursePowerにアップする。 ポータルの授業資料と参考資料を読み、考えをまとめて質問などを考えておく。		60	
第2回	<ジョブ型と雇用のポートフォリオ> ・ジョブ型と伝統的日本的な働き方を比較し、多様な労働者を紹介する。 ・組織全体を管理する雇用のポートフォリオについて、仕事の内容や賃金体系について学ぶ			ポータルの授業資料と参考資料を読み、考えをまとめて質問などを考えておく。		60	
第3回	<働き方改革と労働生産性> ・働き方改革法の内容と、テレワークの課題。 ・それらの背景にある日本の労働生産性の課題、労働市場とマクロ経済の関係を学ぶ。			ポータルの授業資料と参考資料を読み、考えをまとめて質問などを考えておく。		60	
第4回	<世界の失業> ・世界の失業と不完全就業を比較し、非正規労働者の置かれた環境や労働市場の流動性について学ぶ。			ポータルの授業資料と参考資料を読み、考えをまとめて質問などを考えておく。		60	
第5回	<国境を超えて働くこと> 多文化共生と、日本の異文化対応能力の課題に関する研究を紹介する。 また、国境を超えて働くことに関する日本の制度「技能実習」と「特定技能」の理想と現実のギャップを確認し、建設業労働者における受け入れ体制とキャリアアップシステムを紹介する。			これまでの授業資料を確認、関連資料を読んでおく。		120	
第6回	<国境を超えて働くこと> 先進諸国における3段階の受け入れ体制の変化を概観し、外国人労働者の受け入れ国への影響(労働力、出生率、社会保障負担など)を学びながら、日本の受け入れ制度の課題をともに考える。			ポータルの授業資料と参考資料を読み、考えをまとめて質問などを考えておく。		60	
第7回	<多様な雇用契約> 働くことに関する多様な雇用契約について学び、請負契約や派遣契約の課題について紹介する。また、近年拡大しつつあるUberEatsなどの「ギグエコノミー」における労働者の働く環境の課題を検討する。			ポータルの授業資料と参考資料を読み、考えをまとめて質問などを考えておく。		60	
第8回	<同一労働同一賃金とは> 働き方改革関連法で導入された、同一労働同一賃金について、「誰と」「何が」同一なのか、またどうすればその環境を確保できるのか検討する。 <中間課題のフィードバック> 中間課題について全体的フィードバックを行い、期末課題に向けてポイントを紹介する。			ポータルの授業資料と参考資料を読み、考えをまとめて質問などを考えておく。		60	

第9回	<長時間労働とテレワーク> 感染症拡大で進展するテレワークの種類や課題を紹介し、長時間労働が発生するメカニズムを研究者の開設動画をもとに学ぶ。	ポータル授業資料と参考資料を読み、考えをまとめて質問などを考えておく。	60
第10回	<雇用システムとアメリカの労働者> 先任権や集団解雇など雇用保護の弱いアメリカの労働者の働き方の特徴やホワイトカラーのジョブ型について紹介する。また、日本で導入された「高度プロフェッショナル制度」について、アメリカのホワイトカラーエグゼンプションをもとに、導入の背景と問題点を検討する。	ポータル授業資料と参考資料を読み、考えをまとめて質問などを考えておく。	120
第11回	<同一労働同一賃金とオランダモデル> オランダの労働市場改革を学び、ワークシェアリング、ワークライフバランス、そして同一労働同一賃金を支える制度や働き方を検討する。日本における同一労働と同一賃金の課題を紹介する。	ポータル授業資料と参考資料を読み、考えをまとめて質問などを考えておく。	60
第12回	<ドイツにおける職業教育訓練制度と労働市場> ドイツのデュアルシステムと呼ばれる制度を紹介し、職業訓練と教育とのつながりを知る。また、解雇を前提としないドイツのジョブ型について学ぶ。	ポータル授業資料と参考資料を読み、考えをまとめて質問などを考えておく。	60
第13回	<人材育成と人的資本論> 人的資本論を学び、日本的雇用における人材育成の特徴と賃金プロファイルのメカニズムと限界を知る。	ポータル授業資料と参考資料を読み、考えをまとめて質問などを考えておく。	60
第14回	<SDGsからみる雇用システムの課題とまとめ> アメリカ、ドイツ、イギリス、日本の雇用システムを比較して研究を紹介し、これまで学んだ個々のトピックを統合しながら、日本における新しい働き方の方向性と課題を検討する。	課題に向けて、これまでの資料を確認し、疑問点などをまとめておく。	120
〔授業の方法〕 授業は講義形式で、配布した授業資料や関連資料をもとにすすめる。授業では外国の労働環境に関する動画を、複数回紹介して、受講者の意見を求めることがある。また外部講師を招いて、生産性を高める働き方の改革、人事評価制度におけるポイントなどについて、講演をいただく予定である。スケジュールについては、事前にポータルを通じて受講者に連絡する。			
〔成績評価の方法〕 学期末試験および期末レポートは実施しない。 以下の項目にもとづき、上記のDPと到達目標の達成度に応じて、総合的に成績を評価する。 1. 授業中のミニクイズ（合計を100点満点の値に換算） 50% 2. 中間課題（40点満点）と期末課題（60点満点） 50% 授業内容に関する有意義な質問や提案は、加点することがある。 中間課題は、期末課題の一部とする。 提出内容にコメントをつけてフィードバックするので、それをもとに期末課題に取り組むこと。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠し、上記、到達目標の達成度に基づいて評価します。 /Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 以下の授業に関連しているが、特に予備知識や先修科目は設けない。 労働経済学、情報の経済学、人的資源管理			
〔テキスト〕 特に指定しない。授業資料は、担当者からポータルなどを通じて配布する。			
〔参考書〕 トピックごとに関連する資料を授業で適時紹介する。 『グローバル時代の日本の働き方—経済学から見る労働市場の制度』出版社：銀河書籍（2015/9/1） ISBN-10: 4434210920 ISBN-13: 978-4434210921			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。			
〔特記事項〕			

科目名		グローバル特殊講義 / (グローバル歴史と現代的な諸課題)					
教員名		二井 正浩					
科目No.	121222650	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>SDGs に代表される現代的な諸課題の歴史的な経緯を考察するためには、グローバルな歴史的視点が求められる。そして、それは日本史・世界史の枠組みをこえたグローバル歴史としてのアプローチとなる。本授業では、このような視点から現代的な諸課題を歴史的に探究する。</p>							
<p>[到達目標]</p> <p>①現代的な諸課題の形成に関わる歴史について、情報を収集し適切かつ効果的に調べてまとめることができる。 ②現代的な諸課題の形成に関わる歴史について、課題を見つけ、多面的・多角的に考察したり、解決を視野に入れて構想したり説明したりできる。 ③よりよい社会の実現を視野に、課題をグローバルな視点から主体的に追究、解決しようとすることができる。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の目安 (分)	
第1回	オリエンテーション① ～SDGs の目標から探究するテーマを設定しよう～			復習：自己とのレリバンスを意識しながらテーマを設定する。		60	
第2回	オリエンテーション② ～グループ分け・問いの設定～			復習：探究のための問いを設定する。		60	
第3回	グローバル歴史の視点の検討～人新世とは何か～			復習：授業で紹介した文献等を確認する。		60	
第4回	仮説を立てる (グループで話し合う・発表する)			復習：仮説を確定する。		60	
第5回	情報を収集する (グループで協力する)			復習：資料 (史料) 収集を行う		60	
第6回	時代区分する (グループで話し合う・発表する)			復習：課題の探究と説明にふさわしい時代区分を確定する。		60	
第7回	資料 (史料) に基づいて論述する (論をまとめる)			復習：探究してきたことを文章等にまとめる。		60 加えて、レポート作成	
第8回	発表の準備をする			復習：プレゼンテーションの準備を行う。		60 加えて、プレゼン準備	
第9回	探究結果のプレゼンテーションと討議①			事前：プレゼン担当者は発表準備 事後：討議内容についての検討・レポート作成		60 加えて、プレゼン準備・レポート作成	
第10回	探究結果のプレゼンテーションと討議②			事前：プレゼン担当者は発表準備 事後：討議内容についての検討・レポート作成		60 加えて、プレゼン準備・レポート作成	
第11回	探究結果のプレゼンテーションと討議③			事前：プレゼン担当者は発表準備 事後：討議内容についての検討・レポート作成		60 加えて、プレゼン準備・レポート作成	
第12回	探究結果のプレゼンテーションと討議④			事前：プレゼン担当者は発表準備 事後：討議内容についての検討・レポート作成		60 加えて、プレゼン準備・レポート作成	
第13回	探究結果のプレゼンテーションと討議⑤			事前：プレゼン担当者は発表準備 事後：討議内容についての検討・レポート作成		60 加えて、プレゼン準備・レポート作成	
第14回	まとめ～講義の振り返りとプレゼンテーション・レポートの講評～			事後：授業全体の振り返り		60	
<p>[授業の方法]</p> <p>講義・ディスカッション・パフォーマンス (発表・報告書作成) を実施する予定。 毎時間ごとに提出する報告書、授業への参加状況、パフォーマンスをもとに評価する。</p>							
<p>[成績評価の方法]</p> <p>毎時間ごとに提出する報告書 (授業への参加状況) 30% パフォーマンス (発表) 35% パフォーマンス (報告書) 35%</p>							

※提出物は期限厳守

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
次の点に着目し、その到達度により評価する。

- ①現代的な諸課題の形成に関わる歴史について、情報を収集し適切かつ効果的に調べてまとめているか。
- ②現代的な諸課題の形成に関わる歴史について、課題を見つけ、多面的・多角的に考察したり、解決を視野に入れて構想したり説明したりできているか。
- ③よりよい社会の実現を視野に、課題をグローバルな視点から主体的に追究、解決しようとしていることができるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特に無し

〔テキスト〕

特に無し

〔参考書〕

特に無し

高校「世界史」「日本史」の教科書持参

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

アクティブラーニング

科目名		中級マイクロ経済学					
教員名		矢作 健					
科目No.	121232000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>中級マイクロ経済学では1年次に履修した「初級マイクロ経済学Ⅰ/初級マイクロ経済学Ⅱ」の内容をもとに、マイクロ経済学の分析手法をさらに深く学んでいきます。まずは家計の消費行動から需要曲線、企業の生産行動から供給曲線を導出し、市場において価格が決定されていく過程を分析していきます。こうした市場メカニズムの社会的な望ましさや、それが成立している条件について改めて考えます。そして、こうした健全な市場が機能しない「市場の失敗」とよばれる状況についても紹介し、現実の社会を分析する枠組みを学んでいきたいと思ひます。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>本科目では、DP1（専門分野の知識・理解）DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下の到達目標の達成を目指します</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家計の効用最大化行動から需要曲線、企業の利潤最大化行動から供給曲線を導く ・完全競争市場での均衡を導出できる ・市場のメカニズムが十分に機能していない状況を分析できる 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション ・授業の進め方、概要の説明			予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習		60分	
第2回	完全競争市場（1） ・完全競争市場とは ・余剰分析の紹介			予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習		60分	
第3回	完全競争市場（2） ・価格弾力性とは、価格規制の与える影響とは			予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習		60分	
第4回	消費者の行動（1） ・予算制約下での効用最大化行動とは			予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習		60分	
第5回	消費者の行動（2） ・需要曲線と財の価格・所得との関係			予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習		60分	
第6回	生産者の行動（1） ・生産関数、費用関数の考え方を紹介			予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習		60分	
第7回	生産者の行動（2） ・短期での利潤最大化行動			予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習		60分	
第8回	生産者の行動（3） ・長期での利潤最大化行動			予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習		60分	
第9回	部分均衡分析 ・均衡とは何か、その社会への影響を余剰の観点から分析			予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習		60分	
第10回	一般均衡分析（1） ・交換経済の競争均衡を導出する			予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習		60分	
第11回	一般均衡分析（2） ・パレート効率性と厚生経済学の基本定理について学ぶ			予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習		60分	
第12回	市場の失敗（1） ・完全競争市場が成立しない要因とは ・不完全競争として、独占市場の紹介			予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習		60分	
第13回	市場の失敗（2） ・外部性と何か、その解決方法を考える			予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習		60分	
第14回	市場の失敗（3） ・公共財の特徴と、その問題点を考える ・情報の非対称性の問題を考える			予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習		60分	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>授業は講義形式で進めます。配布資料は担当教員が作成します。学生の理解の到達度を確保するため、宿題や学期末試験を実施します。内容や順序については受講者の要望や進捗に応じて変更することがあります</p>							
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>課題（宿題・レポートの提出）30%、学期末試験70%で総合的に評価します。</p>							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。また、次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・家計の効用最大化行動から需要曲線、企業の利潤最大化行動から供給曲線を導く
- ・完全競争市場での均衡を導出できる
- ・市場のメカニズムが十分に機能していない状況を分析できる

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

ミクロ経済学系の科目を履修していることが望ましいです。

〔テキスト〕

教員が作成する配布資料をもとに講義を進めるので、テキストの購入は必要ないです

〔参考書〕

『ミクロ経済学の力』 神取道宏 日本評論社 (ISBN 978-4535557567)

『ミクロ経済学』 奥野正寛 東京大学出版会 (ISBN 978-4130421270)

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する

〔特記事項〕

科目名		中級マクロ経済学					
教員名		庄司 俊章					
科目No.	121232100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>本講義では、学部中級レベルのマクロ経済学について学習します。まず、マクロ経済学の基本モデルについて学び、国内総生産や金利、物価などの決まり方を考察します。次に、発展的トピックス（為替レート、経済成長、資産価格の決まり方）について検討します。なお、授業の進捗状況によって、内容を一部変更する場合があります。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデルを用いて、国内総生産や金利などがどのように決まるか説明できる。 ・モデルを用いて、インフレや為替レートが経済に与える影響について説明できる。 ・経済成長のメカニズム、雇用状況の動き、資産価格の決まり方について説明できる。 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション			【予習】シラバスを熟読する。 【復習】授業の全体像や進め方、評価基準などについて確認する。		90	
第2回	国内総生産と金利の決まり方（1）			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		90	
第3回	国内総生産と金利の決まり方（2）			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		90	
第4回	総需要・総供給と物価の決まり方（1）			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		90	
第5回	総需要・総供給と物価の決まり方（2）			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		90	
第6回	インフレとデフレ（1）			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		90	
第7回	インフレとデフレ（2）			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		90	
第8回	為替レートの決まり方（1）			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		90	
第9回	為替レートの決まり方（2）			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		90	
第10回	経済成長（1）			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		90	
第11回	経済成長（2）			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		90	
第12回	資産価格の決まり方（1）			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		90	
第13回	資産価格の決まり方（2）			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		90	
第14回	授業の総括・質疑応答			【復習】期末試験に向けて、授業中の演習問題等を復習する。		90	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>授業資料や板書に基づいて、講義形式で授業を行います。授業内で到達度確認テストを数回行い、授業内容の理解度を確認します。なお、到達度確認テストの実施日程・回数は変更する可能性があります。</p>							
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>平常点（授業内の到達度確認テスト）30%、期末試験70%を基本とし、授業での積極的な発言・質問をプラスに評価する。</p>							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
入門的なマイクロ経済学・マクロ経済学の知識を前提とします。

〔テキスト〕
『マクロ経済学 入門の「一歩前」から応用まで 新版』、平口良司・稲葉大、2020 年、有斐閣ストゥディア

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		中級経済数学					
教員名		井上 潔司					
科目No.	121232200	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
〔テーマ・概要〕							
現代経済学科の学生が、更に進んで「経済数学の基礎知識」を修得することを目的とする。1年次にすでに学んだ初級経済数学の内容を前提とし、1変数関数の微分法に加え、多変数関数の微分法、ベクトル、行列の基礎事項を講義し、数学的諸概念の習熟を目指す。さらには講義で学んだ知識を活用し、経済学のような応用問題を解決できる能力の育成を目指す。							
〔到達目標〕							
DP1(専門分野の知識・技能)、DP2(教養の修得、(広い視野での思考・判断))、DP3【課題の発見と解決】(情報の調査収集+分析・解釈+論理的思考)を実現するため、以下を到達目標とする。 ・1変数関数の微分法の基礎概念の習得。 ・多変数関数の微分法の基礎概念の習得。 ・極値問題、最適化問題の考え方を学び、経済学に応用できる力を身につける。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ・中級経済数学を学修する上での基本的な考え方を説明する。			【予習】学生への序文、テキストを熟読。		60分	
第2回	微分法の基礎 ・平均変化率・微分係数・導関数の定義について理解する。 ・接線の方程式の導出方法を学ぶ。			【予習】テキスト熟読し、内容を把握する。 【復習】微分法の定義を理解し、導関数の導出方法を修得しておく。		90分	
第3回	微分法の諸公式1 ・微分法の基礎公式(積の微分公式、商の微分公式、等)を理解する。 ・実例を通して微分公式の適用方法を学ぶ。			【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】微分法の諸公式(積の微分公式、商の微分公式、等)を修得しておく。		90分	
第4回	微分法の諸公式2 ・合成関数の微分法について学ぶ。 ・指数・対数関数の微分法を修得する。			【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】合成関数の微分法を修得しておくこと。		90分	
第5回	関数の増減と極大極小 ・導関数を用いた関数の増減の調べ方、極値の求め方を学ぶ。 ・導関数を用いた関数の凹凸の調べ方、変曲点の求め方を学ぶ。			【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】第1次導関数、第2次導関数の利用方法について確認しておく		90分	
第6回	微分法を用いた応用問題 ・微分法を用いた様々な応用問題の考え方について学ぶ。 ・関数のグラフを用いて応用問題の解き方を修得する。			【予習】テキストを読み、微分法を用いた様々な応用問題を解いておく。 【復習】最大・最小問題の基本的な解き方について確認しておく。		90分	
第7回	2変数関数の微分法 ・2変数関数に関する基本事項・用語について学ぶ。 ・偏微分と全微分について学ぶ。			【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】2変数関数の微分法を習得する		90分	
第8回	2変数関数のグラフと極値 ・2変数関数にの扱い方について学ぶ。 ・2変数関数の極値問題に関する基本事項・用語について学ぶ。			【予習】テキストを熟読し、<まとめ>の内容を把握する。 【復習】2変数関数のグラフの概形を把握できるようにする。2変数関数の極値を求められるようにする。		90分	
第9回	最適化問題1 ・2変数関数の最大・最小問題 ・制約のない2変数関数の最適化問題について学ぶ。			【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】2変数関数の最適化問題を理解する。2変数関数の最大値、最小値を求められるようにする。		90分	
第10回	最適化問題2 ・2変数関数の最大・最小問題 ・制約のある2変数関数の最適化問題について学ぶ。 ・ラグランジュ関数 ・ラグランジュの乗数法			【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】ラグランジュ関数を理解し、制約のある2変数関数の最適化問題を理解する。2変数関数の最大値、最小値を求められるようにする。		90分	
第11回	ベクトルの基礎 ・ベクトルの定義 ・ベクトルの演算			【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】ベクトルの基礎事項を理解し、諸演算を理解する。		90分	
第12回	ベクトルの応用 ・ベクトルの平面図形への応用 ・ベクトルの空間図形への応用			【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】平面・空間問題への様々な応用方法を学ぶ。		90分	
第13回	行列とその応用 ・行列の定義 ・行列の演算			【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】行列の基礎事項を理解し、諸問題への応用を学ぶ。		90分	
第14回	まとめ等 ・授業のまとめ ・学期末試験への諸注意			【復習】この授業を振り返り、到達目標と自分の理解度とを点検し、不足している知識等を確認し、学修する。		60分	
〔授業の方法〕							
講義と演習を並行して行う。							
〔成績評価の方法〕							

平常点（授業への参加状況や積極性）25%
授業内確認テスト 25%
学期末試験 50%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
・微分法の諸概念を理解できているか。
・多変数関数の扱いを修得しているか
・多変数関数を用いて、さまざまな応用問題が解けるか。
・数学的手法を経済学へ応用できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

・初級経済数学
・高校数学 IA・IIB の知識があれば、理解の助けとなる。

〔テキスト〕

尾山大輔・安田洋祐編著『[改訂版]経済学で出る数学』日本評論社 ISBN978-4-535-55659-1

〔参考書〕

特にないが、高校時代の教科書「数学 IA, IIB, III」が役立つ。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

アクティブ・ラーニング

科目名		中級計量経済学					
教員名		内藤 朋枝					
科目No.	121232300	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>本講義はこれまでに統計学の理論を学んだ学生が、実際にデータを用いて統計的に分析する際に必要な手法について学修することを目的としている。前半はExcelを用いた平均、分散などの集計方法を学び、さらにそれらを可視化する方法を演習を通じて学修する。後半は統計ソフトのRの、インストールを含めた、基本的な利用方法について学び、Rを用いた回帰分析の手法および、結果の見方などを含めた手法を演習を通じて学修する。本講義はExcelおよびRの利用経験が全くない方を対象としております。統計学および計量経済学などを学んで、この分野に興味をお持ちになった方はどなたでも歓迎致します。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1(専門分野の知識・技能)、DP3(課題の発見と解決)を実現するため、以下の3点の到達目標を掲げる。</p> <p>① ExcelおよびRの基本的な手法について理解し、操作できる。 ② ExcelおよびRで得られた結果の見方を理解し、説明できる。 ③ 実際にデータを用いたExcelおよびRの基本的な操作ができる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス 授業のスケジュール、進め方、予習・復習の仕方および必要なPC環境について説明する。			【予習・復習】シラバスを確認し、予習、復習などイメージしづらい所をピックアップしておく。PCの環境などを確認しておく		60	
第2回	Excelの実習1 Excelの基本操作および関数などを学修する。 課題に取り組む			【予習】Course Powerに挙げられた資料を確認する 【復習】課題を確実にこなせるようにしておく		60	
第3回	Excelの実習2 Excelの基本操作および関数などを学修する。 課題に取り組む			【予習】Course Powerに挙げられた資料を確認する 【復習】課題を確実にこなせるようにしておく		60	
第4回	Excelの実習3 Excelを用いた可視化、主にグラフの作成方法などを学修する。 課題に取り組む			【予習】Course Powerに挙げられた資料を確認する 【復習】課題を確実にこなせるようにしておく		60	
第5回	Excelの実習4 Excelのデータを用いた操作などを学修する。 課題に取り組む			【予習】Course Powerに挙げられた資料、これまでおこなった課題を確認する 【復習】復習課題1にて到達度を確認する		120	
第6回	統計または実証分析に関わる資料を読む			【予習】Course Powerに挙げられた資料を確認する 【復習】資料についてのレポートを作成する		60	
第7回	Rの実習1 Rstudioのインストール、基本操作などを学修する。			【予習】第4章を熟読する。Course Powerに挙げられた資料を確認する 【復習】課題を確実にこなせるようにしておく		60	
第8回	Rの実習2 Rstudioの基本操作などを学修する。			【予習】第4章を熟読する。Course Powerに挙げられた資料を確認する 【復習】課題を確実にこなせるようにしておく		60	
第9回	Rの実習3 Rを用いて記述統計、変数の関連性を見る。			【予習】第5章を熟読する。Course Powerに挙げられた資料を確認する 【復習】課題を確実にこなせるようにしておく		60	
第10回	Rの実習4 Rを用いて記述統計、変数の関連性を見る。			【予習】第5章を熟読する。Course Powerに挙げられた資料を確認する 【復習】課題を確実にこなせるようにしておく		60	
第11回	Rの実習5 単回帰分析、重回帰分析の基本的操作を学修する。			【予習】第10章を熟読する。Course Powerに挙げられた資料を確認する 【復習】課題を確実にこなせるようにしておく		60	
第12回	Rの実習6 単回帰分析、重回帰分析の基本的操作を学修する。			【予習】第10章を熟読する。Course Powerに挙げられた資料を確認する 【復習】課題を確実にこなせるようにしておく		60	
第13回	Rの実習7 単回帰分析、重回帰分析の基本的操作を学修する。			【予習】第10章を熟読する。Course Powerに挙げられた資料、これまでおこなった課題を確認する 【復習】復習課題2にて到達度を確認する		120	
第14回	復習課題1, 2の解説をおこなう。 フォローできていない課題をピックアップして取り組む			【予習】復習課題1, 2を再確認する 【復習】復習課題1, 2を確実にこなせるようする		60	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>授業の形式は講義および課題の演習である。 学生は、授業中に組み込んだ演習を提出することが求められる。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解に応じて取り組むこと。 なお、演習・レポートおよび復習課題1, 2の狙いは以下のとおりである。 演習：授業で学んだ内容を実際に手を動かして行うことができるかについて確認する。 レポート：現在自分たちが行っている演習がどのようなことに使えるのか確認する。 復習課題1・2：ExcelおよびRの基本操作を習得できたかについて確認する。</p>							
〔成績評価の方法〕							

復習課題1・2、Course Power 等を用いた演習課題の提出など、学生の受講状況および授業進捗に応じた方法を用いて評価する。
復習課題1 (25%)、復習課題2 (30%)、レポート課題 (20%)、平常点 (演習課題の提出、授業への参加状況など) (25%) による総合評価。
なお、演習課題等についてグループで話し合う事は歓迎されるが、必ず一度は自分自身で手を動かしておくこと。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準 (学則第 39 条) に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕

統計学、計量経済学など

〔テキスト〕

浅野正彦・矢内勇生『R による計量政治学』オーム社 3200 円 ISBN:978-4-274-2213-6
購入の必要なし

〔参考書〕

『ビジネスこれだけ!Excel データ分析・資料作成 & Power Point』マイナビ 925 円 ISBN:978-4-8339-6754-3
星野匡郎 田中久稔 『R による実証分析-回帰分析から因果分析へ』オーム社 2700 円 ISBN:978-4-274-21947-4
購入の必要なし

〔質問・相談方法等 (オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

科目名		日本経済史A					
教員名		松本 貴典					
科目No.	121241000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕							
<p>日本は、後進国から先進国にまで、どのような軌跡を描いて経済発展を遂げてきたのだろうか。そして、これから先、日本はどういった進路を採るべきなのだろうか。「歴史に学び、歴史の理解をもって未来を解く鍵にする」ことによって、日本経済の過去と現在と未来を考えていこうというのが、本講義のテーマである。本講義では、江戸時代における日本経済の動向から第一次世界大戦期までの日本経済の発展過程を、最新の学会の成果をふんだんに取り入れつつ講義する。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP2（教養の修得）を実現するため、以下を到達目標とする。 受講者諸君には、経済成長によって、何が達成され、そして何が取り残されたのかについて幅広い知識を持ってもらいたいと考えている。これからの日本経済の進む道と諸君が生きて行く時代は、この「取り残されたもの」を補いながら進んで行かなければならないからである。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	江戸期の日本経済（1）：マクロ変数の動き—歴史人口学が語る新しい江戸時代像—			復習として、参考書(1)[自ら築き上げた歴史人口学をやさしく解説している本]の当該箇所を読んでみる。		復習に60分。	
第2回	江戸期の日本経済（2）：マクロ変数の動き—歴史人口学が語る新しい江戸時代像—			予習として、不明点や追加説明を求める点を確認しておくこと。 ここまでの講義の総復習を、要点をしばって行うこと。		予習に30分、復習に60分。	
第3回	江戸期の日本経済（3）：教育—国際比較の観点から見た、その水準の高さと広範な普及— 筆跡鑑定法による識字率の測定 来日外国人の残した、彼らの驚嘆の記述			予習としては、前回の授業の見直し。 復習としては授業の要点整理と、参考書(2-1)(2-2)の当該箇所を読んでみる。		予習に30分、復習に60分。	
第4回	江戸期の日本経済（4）：市場経済—世界で最も古くから機能していた日本の市場機構—			予習としては、前回の授業の見直し。 復習としては授業の要点整理と、参考書(3)の当該箇所を読んでみる。		予習に30分、復習に60分。	
第5回	江戸期の日本経済（5）：流通システム—サテライト構造からネットワーク構造へ—			予習としては、前回の授業の見直し。 復習としては授業の要点整理と、参考書(4)の第1巻の最終章を読んでみる。		予習に60分、復習に60分。	
第6回	第1回～第5回の授業の内容補足と質疑応答			予習として、不明点や追加説明を求める点を確認しておくこと。 ここまでの講義の総復習を、要点をしばって行うこと。		予習に30分、復習に90分。	
第7回	明治維新（1）：革新と連続 明治維新の実像—断絶と非断絶—			予習と復習両方のために、参考書(5)の当該箇所を読んで見ること。		予習に30分、復習に60分。	
第8回	明治維新（2）：近代経済成長の基盤整備			予習としては、前回の授業の見直し。 復習として、参考書(6)の当該箇所を読んでみる。		予習に30分、復習に60分。	
第9回	明治維新（3）：殖産興業と軌道修正—前田正名という男— 日本の近代化の実態は「日本の西洋化」ではなく「西洋の日本化」であった。			予習としては、前回の授業の見直し。 復習としては授業の要点整理と、参考書(7)の当該箇所を読んでみる。		予習に30分、復習に60分。	
第10回	明治維新（4）：断絶か連続か：その数量的実証分析—幕末～明治中期の激動期における企業家・起業家の盛衰— 経済から見れば、明治維新は、断絶なのか、それとも連続性の中で捉えるべきか—			予習としては、前回の授業の見直し。 復習としては授業の要点整理と、参考書(8)の第1章を読んでみる		予習に30分、復習に60分。	
第11回	第7回～第10回の授業の内容補足と質疑応答			予習として、不明点や追加説明を求める点を確認しておくこと。 ここまでの講義の総復習を、要点をしばって行うこと。		予習に30分、復習に60分。	
第12回	産業化(1)：近代日本における工業化の開始			復習としてはこれまでの授業の要点整理と、参考書(4)の第4巻第1章および第5巻第1章を読んでみる。		予習に30分、復習に90分。	
第13回	産業化(2)：近代工業と在来産業—在来産業の大海に浮かぶ小島としての近代工業—			予習としては、前回の授業の見直し。 復習としては授業の要点整理と、参考書(9-1)の当該箇所および(9-2)第1章を読んでみる。		予習に30分、復習に60分。	
第14回	第12回～第13回の授業の内容補足と質疑応答			予習としては、疑問点の洗い出し。 復習としては授業全体の総復習。		予習に30分、復習に60分。	
〔授業の方法〕							
多くの図表をプリントで配布して、論拠を示しながら、講義形式で進める。							
〔成績評価の方法〕							
学期末試験もしくは期末レポート（80%）および平常点（20%）による成績評価を行う。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
必要な予備知識はとくにない。また先修科目もとくにない。

〔テキスト〕
特に用いない。

〔参考書〕
(1) 速水 融『歴史人口学で見た日本(文春新書)』文藝春秋社、2001 年
(2-1) 大石 学『江戸の教育力—近代日本の知的基盤』東京学芸大学出版会、2007 年
(2-2) 高橋 敏『江戸の教育力(ちくま新書)』筑摩書店、2007 年
(3) 宮本又郎『近世日本の市場経済』有斐閣、1990 年
(4) 宮本又郎ほか『日本経済史』第 1 巻～第 8 巻、岩波書店
(5) 西川俊作『日本経済の成長史』東洋経済新報社、1985 年
(6) 南亮進・牧野文夫『日本の経済発展〔第 3 版〕』東洋経済新報社、2002 年
(7)

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕
I C T 教育科目
I C T 活用

科目名		日本経済史B					
教員名		松本 貴典					
科目No.	121241100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
〔テーマ・概要〕							
近代化に成功した日本は、現在、世界屈指の経済大国に成長した。日本はどのような軌跡を描いて経済発展を遂げてきたのか。この問題に関して、最新の学会の成果に基づき、第一次世界大戦期からバブル経済崩壊までの、約100年間の日本の経済発展を、最新の研究成果をふんだんに盛り込みながら講義する。							
〔到達目標〕							
DP2（教養の修得）を実現するため、以下を到達目標とする。 受講者諸君には、経済成長によって、何が達成され、そして何が取り残されたのかについて幅広い知識を持ってもらいたいと考えている。これからの日本経済の進む道と君達が生きて行く時代は、この「取り残されたもの」を補いながら進んで行かなければならないからである。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	現代日本経済史序章：両大戦間期の日本経済（1）：現代の日本経済の原型 第一次世界大戦期のバブル経済とその崩壊 1920年代の長期不況 重化学工業化と都市化			復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。また、参考書(1)の該当部分を読んで見ること。		予習に30分、復習に60分。	
第2回	現代日本経済史序章：両大戦間期の日本経済（2）：現代の日本経済の原型 重化学工業化と都市化 二重構造の生成 高橋財政と景気回復			予習として、前回の授業内容のポイントを確認しておくこと。復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。また、参考書(1)の該当部分を読んで見ること。		予習に30分、復習に60分。	
第3回	第1回～第2回の授業の内容補足と質疑応答			予習として、不明点や追加説明を求める点を確認しておくこと。 ここまでの講義の総復習を、要点をしぼって行うこと。		予習に30分、復習に90分。	
第4回	戦時統制期の日本経済（1） 被害と遺産—潰えたものと引き継がれたもの—			予習として、前回の授業内容のポイントを確認しておくこと。復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。また、参考書(2)の該当部分を読んで見ること。		予習に30分、復習に60分。	
第5回	戦時統制期の日本経済（2） 現代日本経済システムの源流—自由主義的で政府の介入が少なかった戦前の日本経済が、なぜ戦後は政府の経済介入が多くなったのか— 実験国家としての満州国			予習として、前回の授業内容のポイントを確認しておくこと。復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。また、参考書(3)の該当部分を読んで見ること。		予習に30分、復習に60分。	
第6回	戦時統制期の日本経済（3） 革新官僚と企画院：公職追放されなかった人びとによる敗戦からの復興—企画院と復興期の経済安定本部の連続性—			予習として、前回の授業内容のポイントを確認しておくこと。復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。また、参考書(4)の該当部分を読んで見ること。		予習に30分、復習に60分。	
第7回	第4回～第6回の授業の内容補足と質疑応答			予習として、不明点や追加説明を求める点を確認しておくこと。 ここまでの講義の総復習を、要点をしぼって行うこと。		予習に30分、復習に90分。	
第8回	戦後復興期の日本経済（1） 経済民主化—その功と罪—			予習として、前回の授業内容のポイントを確認しておくこと。復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。また、参考書(2)の該当部分を読んで見ること。		予習に30分、復習に60分。	
第9回	戦後復興期の日本経済（2） 冷戦と経済復興—「アジアのスイス」から「反共の防壁」への転換—			予習として、前回の授業内容のポイントを確認しておくこと。復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。また、参考書(2)の該当部分を読んで見ること。		予習に30分、復習に60分。	
第10回	第8回～第9回の授業の内容補足と質疑応答			予習として、不明点や追加説明を求める点を確認しておくこと。 ここまでの講義の総復習を、要点をしぼって行うこと。		予習に30分、復習に90分。	
第11回	高度成長期の日本経済（1） 10%以上の高い経済成長率が続く時代 年20%以上のペースで進む企業設備投資			復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。また、参考書(5)(6)の該当部分を読んで見ること。		予習に30分、復習に60分。	
第12回	高度経済成長期の日本経済（2）：高度成長の成果 所得の急上昇 大衆消費社会の到来 国民生活の改善の急速な進展 ほか			予習として、前回の授業内容のポイントを確認しておくこと。復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。また、参考書(7)の該当部分を読んで見ること。		予習に30分、復習に60分。	
第13回	戦後から現代の日本における産業の盛衰—連続繁栄型・斜陽型・成長型・安定型・景気循環型—			予習として、前回の授業内容のポイントを確認しておくこと。復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。また、参考書(8)の該当部分を読んで見ること。		予習に30分、復習に60分。	
第14回	第11回～第13回の授業の内容補足と質疑応答			予習として、不明点や追加説明を求める点を確認しておくこと。 ここまでの講義の総復習を、要点をしぼって行うこと。		予習に30分、復習に60分。	
〔授業の方法〕							
多くの図表をプリントで配布して、論拠を示しながら、講義形式で進める。							
〔成績評価の方法〕							

学期末試験もしくは期末レポート（80％）および平常点（20％）による成績評価を行う。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

必要な予備知識はとくにない。また先修科目もとくにない。

〔テキスト〕

とくに定めない。

〔参考書〕

- (1) 西川俊作ほか『産業化の時代（下）』岩波書店、1990 年
- (2) 中村隆英ほか『「計画化」と「民主化」』岩波書店、1989 年
- (3) NHK 取材班『「日本株式会社」の昭和史—官僚支配の構造—』創元社、1995 年
- (4) 小林英夫『超官僚—日本株式会社をグランドデザインした男たち 宮崎正義・石原莞爾・岸信介—』小学館、1995 年
- (5) 安場保吉ほか『高度成長』岩波書店、1989 年
- (6) 吉川 洋『高度成長（中公文庫）』中央公論新社、2012 年
- (7) 武田晴人『シ

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

I C T 活用

※ 授業進行の都合上、シラバスの記載内容が多少前後する可能性があるかもしれない。

科目名		西洋経済史A					
教員名		鴨野 洋一郎					
科目No.	121241200	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>今日の私たちの経済システムである資本主義経済の基盤は、ヨーロッパにおいて長い時間をかけて形成されてきた。つまり資本主義経済の特徴を深く理解するためには、ヨーロッパ経済の歴史を学ぶことが必要になる。そこでこの授業では、古代ギリシア・ローマから中世ヨーロッパ、そして近世イギリスやオランダへといたるヨーロッパ経済の歴史を、丁寧に学んでいく。そのさい、経済的な事項のみならず、政治や社会、文化についても触れていきたい。それにより、ヨーロッパにおける経済の歴史を、その背景もふくめて理解する。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP2-1【教養の修得】(広い視野での思考・判断)を実現するため、つぎの3点を到達目標とする。</p> <p>①古代から中世にかけてヨーロッパ経済が成立していったプロセスを理解する。 ②中世後期にヨーロッパ経済が大きく再編されたプロセスを理解する。 ③近世にヨーロッパ経済が世界と結びついて発展していったプロセスを理解する。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス ・授業の概要、到達目標、授業内容、成績評価等を説明する。			【復習】授業の流れをイメージできるようにする。		60	
第2回	第I部 ヨーロッパ経済圏の成立① —古代地中海世界の成立と崩壊— ・古代ギリシア・ローマの経済について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第3回	第I部 ヨーロッパ経済圏の成立② —中世ヨーロッパ世界の成立— ・中世封建社会の成立について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第4回	第I部 ヨーロッパ経済圏の成立③ —「商業の復活」と中世都市— ・11世紀以降におけるヨーロッパ経済の発展について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第5回	第I部のまとめ ・第I部の授業内容についてまとめる。 ・小レポートについて理解する。			【復習】第I部の内容をまとめ、小レポートを作成する。		120	
第6回	第II部 ヨーロッパ経済圏の再編① —封建社会の動揺— ・14世紀半ば以降における危機や変化について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第7回	第II部 ヨーロッパ経済圏の再編② —ルネサンスとヨーロッパ経済— ・イタリア商人の活動について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第8回	第II部 ヨーロッパ経済圏の再編③ —大航海時代とヨーロッパの拡大— ・大航海時代の背景および結果について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第9回	第II部のまとめ ・第II部の授業内容についてまとめる。 ・小レポートについて理解する。			【復習】第II部の内容をまとめ、小レポートを作成する。		120	
第10回	第III部 ヨーロッパ経済圏の発展① —オランダの躍進と衰退— ・近世オランダの経済構造について理解する。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第11回	第III部 ヨーロッパ経済圏の発展② —イギリスの重商主義と市民革命— ・イギリス絶対王政や議会による重商主義政策について理解する。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第12回	第III部 ヨーロッパ経済圏の発展③ —フランスの重商主義と市民革命— ・フランス絶対王政による重商主義政策について理解する。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第13回	第III部のまとめ ・第III部の授業内容についてまとめる。			【復習】第III部の内容をまとめる。		60	
第14回	授業のまとめ ・授業内容全体についてまとめる。 ・期末レポートについて理解する。			【復習】授業全体の内容をまとめ、期末レポートを作成する。		120	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>授業は講義形式で行われる。レジュメを配布し、それにもとづき解説を行う。また適宜スライドを映し、イメージを共有する。授業全体を3つのパートに分け、第I部および第II部の終了後に小レポート、授業全体の最後に期末レポートを課す。</p> <p>各レポートの概要については、以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小レポート：第I部および第II部の内容について理解し、考察できているかを確認する。 ・期末レポート：授業全体の内容について理解し、考察できているかを確認する。 							
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>小レポート(2回：各20%)、期末レポート(50%)、授業への積極的な参加(10%)による総合評価。</p>							

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. つぎの点に着目し、その達成度により評価する。

- ①古代から中世にかけてヨーロッパ経済が成立していったプロセスを説明できる。
- ②中世後期にヨーロッパ経済が大きく再編されたプロセスを説明できる。
- ③近世にヨーロッパ経済が世界と結びついて発展していったプロセスを説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

必要な予備知識はとくにない。

関連科目：「経済史の基礎」「西洋経済史B」「比較経済史」「地域経済史」

〔テキスト〕

とくになし。

〔参考書〕

とくになし。参考文献については、授業中に指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		西洋経済史B					
教員名		鴨野 洋一郎					
科目No.	121241300	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
〔テーマ・概要〕							
<p>今日の私たちの経済システムである資本主義経済は、近世までにヨーロッパで形成された基盤の上に、産業革命以降の工業化を経て完成された。資本主義経済を理解するために、この工業化の歴史を学ぶことは不可欠である。そこでこの授業では、産業革命以降のヨーロッパ（とりわけイギリス・ドイツ）およびアメリカの経済の歴史を、丁寧に学んでいく。そのさい、経済的な事項のみならず、政治や社会、文化についても触れていきたい。それにより、近現代における欧米の工業化の歴史を、その背景もふくめて理解する。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP2-1【教養の修得】（広い視野での思考・判断）を実現するため、つぎの3点を到達目標とする。</p> <p>①イギリスをはじめとする各国が工業化を達成していくプロセスを理解する。 ②19世紀後半から各国が産業構造を大きく転換していくプロセスを理解する。 ③2度の世界大戦を経て今日の経済システムが確立されたプロセスを理解する。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業の概要、到達目標、授業内容、成績評価等を説明する。			【復習】授業の流れをイメージできるようにする。		60	
第2回	第I部 産業革命による工業化① —イギリス産業革命— ・イギリス産業革命の過程および結果について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第3回	第I部 産業革命による工業化② —ドイツおよびアメリカの工業化— ・特徴あるドイツとアメリカの工業化について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第4回	第I部 産業革命による工業化③ —「バクス・ブリタニカ」の時代— ・19世紀半ばにおけるイギリス経済について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第5回	第I部のまとめ ・第I部の授業内容についてまとめる。 ・小レポートについて理解する。			【復習】第I部の内容をまとめ、小レポートを作成する。		120	
第6回	第II部 産業構造の転換① —第2次産業革命— ・第2次産業革命における技術革新について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第7回	第II部 産業構造の転換② —ドイツ経済の発展— ・重工業を中心に独占が進んだドイツ経済について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第8回	第II部 産業構造の転換③ —アメリカ経済の発展— ・国内市場と結び付いて発展したアメリカ経済について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第9回	第II部のまとめ ・第II部の授業内容についてまとめる。 ・小レポートについて理解する。			【復習】第II部の内容をまとめ、小レポートを作成する。		120	
第10回	第III部 現代の欧米経済① —第1次世界大戦後の復興— ・大戦後におけるアメリカを中心とする復興について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第11回	第III部 現代の欧米経済② —世界恐慌後の経済— ・世界恐慌後における各国の対応について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第12回	第III部 現代の欧米経済③ —第2次大戦後の欧米経済— ・今日にいたるまでの欧米経済の歩みについて学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第13回	第III部のまとめ ・第III部の授業内容についてまとめる。			【復習】第III部の内容をまとめる。		60	
第14回	授業のまとめ ・授業内容全体についてまとめる。 ・期末レポートについて理解する。			【復習】授業全体の内容をまとめ、期末レポートを作成する。		120	
〔授業の方法〕							
<p>授業は講義形式で行われる。レジュメを配布し、それにもとづき解説を行う。また適宜スライドを映し、イメージを共有する。授業全体を3つのパートに分け、第I部および第II部の終了後に小レポート、授業全体の最後に期末レポートを課す。</p> <p>各レポートの概要については、以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小レポート：第I部および第II部の内容について理解し、考察できているかを確認する。 ・期末レポート：授業全体の内容について理解し、考察できているかを確認する。 							
〔成績評価の方法〕							
小レポート（2回：各20%）、期末レポート（50%）、授業への積極的な参加（10%）による総合評価。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

つぎの点に着目し、その達成度により評価する。

- ①イギリスをはじめとする各国が工業化を達成していくプロセスを説明できる。
- ②19 世紀後半から各国が産業構造を大きく転換していくプロセスを説明できる。
- ③2 度の世界大戦を経て今日の経済システムが確立されたプロセスを説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

必要な予備知識はとくにない。

関連科目：「経済史の基礎」「西洋経済史A」「比較経済史」「地域経済史」

〔テキスト〕

とくになし。

〔参考書〕

とくになし。参考文献については、授業中に指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		比較経済史					
教員名		鴨野 洋一郎					
科目No.	121241400	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕							
<p>人類がこれまでどのように生き延びてきたのかを解明することは、経済史の重要な課題の1つである。これを解明するために、ある特定の時代や地域の経済システムを観察する方法もあるが、それぞれ特徴をもついくつかの経済システムを比較することで、それらのシステムをよりよく理解できることもある。この授業では、全体を3つのパートに分け、各パートで複数の経済システムの比較を行っていく。これにより、どのような経済システムも、その背景にあるさまざまな状況からの影響を受けながら形成されていったことを理解する。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP2-1【教養の修得】(広い視野での思考・判断)を実現するため、つぎの3点を到達目標とする。</p> <p>①先史における狩猟採集生活と農耕牧畜生活の特徴を、比較を通じて理解する。 ②古代オリエント世界で興亡したさまざまな経済システムの特徴を、比較を通じて理解する。 ③前近代におけるヨーロッパ経済圏とイスラーム経済圏の特徴を、比較を通じて理解する。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス ・授業の概要、到達目標、授業内容、成績評価等を説明する。			【復習】授業の流れをイメージできるようにする。		60	
第2回	第I部 狩猟採集生活と農耕牧畜生活① —狩猟採集民の世界— ・人類が長いあいだ続けた狩猟採集生活について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第3回	第I部 狩猟採集生活と農耕牧畜生活② —グラヴェット文化— ・寒冷地で開花したグラヴェット文化の特徴について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第4回	第I部 狩猟採集生活と農耕牧畜生活③ —農耕牧畜の開始— ・農耕牧畜が人類の生活に与えた影響について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第5回	第I部のまとめ ・第I部の授業内容についてまとめる。 ・小レポートについて理解する。			【復習】第I部の内容をまとめ、小レポートを作成する。		120	
第6回	第II部 古代オリエント世界の諸経済① —農耕の開始とメソポタミア文明— ・農耕の開始とともに形成されたメソポタミア文明について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第7回	第II部 古代オリエント世界の諸経済② —地中海世界における興亡— ・地中海世界で展開されたさまざまな経済活動について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第8回	第II部 古代オリエント世界の諸経済③ —古代ギリシアおよびローマ— ・オリエント世界から影響を受けて形成されたギリシア・ローマの経済について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第9回	第II部のまとめ ・第II部の授業内容についてまとめる。 ・小レポートについて理解する。			【復習】第II部の内容をまとめ、小レポートを作成する。		120	
第10回	第III部 ヨーロッパとイスラーム① —ヨーロッパ経済圏の形成— ・中世に形成されたヨーロッパ経済圏の特徴について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第11回	第III部 ヨーロッパとイスラーム② —イスラーム経済圏の形成— ・中世に形成されたイスラーム経済圏の特徴について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第12回	第III部 ヨーロッパとイスラーム③ —「ヨーロッパの成長」をめぐって— ・ヨーロッパ成長の原因についてイスラームと比較しつつ学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第13回	第III部のまとめ ・第III部の授業内容についてまとめる。			【復習】第III部の内容をまとめる。		60	
第14回	授業のまとめ ・授業内容全体についてまとめる。 ・期末レポートについて理解する。			【復習】授業全体の内容をまとめ、期末レポートを作成する。		120	
〔授業の方法〕							
<p>授業は講義形式で行われる。レジュメを配布し、それにもとづき解説を行う。また適宜スライドを映し、イメージを共有する。授業全体を3つのパートに分け、第I部および第II部の終了後に小レポート、授業全体の最後に期末レポートを課す。</p> <p>各レポートの概要については、以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小レポート：第I部および第II部の内容について理解し、考察できているかを確認する。 ・期末レポート：授業全体の内容について理解し、考察できているかを確認する。 							
〔成績評価の方法〕							

小レポート（2回：各20%）、期末レポート（50%）、授業への積極的な参加（10%）による総合評価。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. つぎの点に着目し、その達成度により評価する。

- ①先史における狩猟採集生活と農耕牧畜生活の特徴を、比較を通じて説明できる。
- ②古代オリエント世界で興亡したさまざまな経済システムの特徴を、比較を通じて説明できる。
- ③前近代におけるヨーロッパ経済圏とイスラーム経済圏の特徴を、比較を通じて説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

必要な予備知識はとくにない。

関連科目：「経済史の基礎」「西洋経済史A」「西洋経済史B」「地域経済史」

〔テキスト〕

とくになし。

〔参考書〕

とくになし。参考文献については、授業中に指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		地域経済史					
教員名		鴨野 洋一郎					
科目No.	121241500	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>今日の私たちの経済システムである近代資本主義経済を理解するためには、その基盤となったヨーロッパ経済の歴史を理解することが欠かせない。この歴史にかんして、とりわけおよそ千年間続いた中世という時代において、その後のヨーロッパの拡大を決定づける重要な変革が生じたことは強調すべきである。この時代に「ヨーロッパ経済」という1つの特徴ある「地域経済」のシステムが形成されたのである。この授業では、おもにA、ビレンヌの概説書に依拠しつつ、中世ヨーロッパ経済について農業・商業・工業・貿易・都市経済などのさまざまな観点から丁寧に学んでいく。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP2-1【教養の修得】(広い視野での思考・判断)を実現するため、つぎの3点を到達目標とする。</p> <p>①中世初期ヨーロッパ経済の特徴およびその後のヨーロッパ経済の復興について理解する。 ②中世盛期ヨーロッパにおける活発な商業活動および都市経済について理解する。 ③中世後期ヨーロッパにおける経済システムの変化およびその近世への影響について理解する。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス ・授業の概要、到達目標、授業内容、成績評価等を説明する。			【復習】授業の流れをイメージできるようにする。		60	
第2回	第I部 商業の衰退から復活へ① —中世初期のヨーロッパ経済— ・中世初期にヨーロッパ経済が縮小した状況について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第3回	第I部 商業の衰退から復活へ② —「商業の復活」— ・11世紀ごろからヨーロッパで遠隔地商業が活発化した状況について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第4回	第I部 商業の衰退から復活へ③ —都市と農村の生活— ・中世ヨーロッパの都市および農村における生活について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第5回	第I部のまとめ ・第I部の授業内容についてまとめる。 ・小レポートについて理解する。			【復習】第I部の内容をまとめ、小レポートを作成する。		120	
第6回	第II部 繁栄する中世ヨーロッパ経済① —大市と信用のしくみ— ・中世ヨーロッパに特徴的な大市とそこで発達した信用について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第7回	第II部 繁栄する中世ヨーロッパ経済② —遠隔地商業の隆盛— ・地中海および北ヨーロッパで発達した遠隔地商業について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第8回	第II部 繁栄する中世ヨーロッパ経済③ —都市における経済活動— ・中世ヨーロッパ都市の経済活動について、工業を中心に学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第9回	第II部のまとめ ・第II部の授業内容についてまとめる。 ・小レポートについて理解する。			【復習】第II部の内容をまとめ、小レポートを作成する。		120	
第10回	第III部 変化する中世ヨーロッパ経済① —ヨーロッパ全体を襲う危機— ・黒死病などの大きな危機に襲われたヨーロッパ経済について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第11回	第III部 変化する中世ヨーロッパ経済② —都市の政策と大商人の活動— ・危機を経て、都市および商業のあり方が変化する状況について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第12回	第III部 変化する中世ヨーロッパ③ —ルネサンス期のヨーロッパ経済— ・成熟するヨーロッパ経済とその近世への影響について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第13回	第III部のまとめ ・第III部の授業内容についてまとめる。			【復習】第III部の内容をまとめる。		60	
第14回	授業のまとめ ・授業内容全体についてまとめる。 ・期末レポートについて理解する。			【復習】授業全体の内容をまとめ、期末レポートを作成する。		120	
〔授業の方法〕							
<p>授業は講義形式で行われる。レジュメを配布し、それにもとづき解説を行う。また適宜スライドを映し、イメージを共有する。授業全体を3つのパートに分け、第I部および第II部の終了後に小レポート、授業全体の最後に期末レポートを課す。</p> <p>各レポートの概要については、以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小レポート：第I部および第II部の内容について理解し、考察できているかを確認する。 ・期末レポート：授業全体の内容について理解し、考察できているかを確認する。 							
〔成績評価の方法〕							

小レポート（2回：各20%）、期末レポート（50%）、授業への積極的な参加（10%）による総合評価。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. つぎの点に着目し、その達成度により評価する。

- ①中世初期ヨーロッパ経済の特徴およびその後のヨーロッパ経済の復興について説明できる。
- ②中世盛期ヨーロッパにおける活発な商業活動および都市経済について説明できる。
- ③中世後期ヨーロッパにおける経済システムの変化およびその近世への影響について説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

必要な予備知識はとくにない。

関連科目：「経済史の基礎」「西洋経済史A」「西洋経済史B」「比較経済史」

〔テキスト〕

とくになし。

〔参考書〕

とくになし。参考文献については、授業中に指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		社会史					
教員名		挾本 佳代					
科目No.	121241600	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>テーマ：「美意識の社会史」</p> <p>この授業では、日本人の美意識をめぐる社会史を展開していく。</p> <p>室町時代～現代にかけて、目には見えない美意識が、どのように日本の芸術、文化、生活の中で育まれていったのか、また、そうした美意識から日本の社会がどのように見え理解されるのか、さらにその美意識によってどのような影響を受けることになったのか、さらにはこうした日本人の美意識が海外ではどのように理解されているのかについて深く考察していく。</p>							
<p>[到達目標]</p> <p>D P2 (教養の修得) を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <p>①国内外で論じられる日本人の美意識にはどのようなものがあるかを理解し、説明できる。</p> <p>②日本人論や日本文化論に関心をもち、現代社会の中で日本人の美意識はどのように変化・変遷しているのかを指摘し、説明できる。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の目安 (分)	
第1回	イントロダクション ・授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 ・読んでおくべき参考文献についての解説をする。			【予習】 シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】 提示された参考文献を調べておく。		60	
第2回	「わび」と「さび」(1) ・「わび」と「さび」の美意識が生まれてきた時代背景を解説する。 ・「わび」と「さび」の本質は何かについて解説をする。			【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第3回	「わび」と「さび」(2) ・岡倉天村『茶の本』を解説し、「わび」と「さび」をさらに追究する。			【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第4回	「花」の美学(1) ・世阿弥『風姿花伝』の誕生した時代背景について解説をする。 ・「秘すれば花」とは何かを解説する。			【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第5回	「花」の美学(2) ・能「弱法師」から「花」を考える。 ・小林秀雄『無常という事』における「花」を解説する。			【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第6回	「花」の美学(3) ・白洲正子『世阿弥』から、世阿弥と「花」の関係性を解説する。			【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		90	
第7回	中間テスト ・これまでの授業で学修してきた理解度を確認するためのテストを行う。			【予習】 これまでの授業で学修してきたことを、自分の言葉で解説することができるようにしておく。		60	
第8回	民藝運動(1) ・柳宗悦『民藝とは何か』から、民藝のもつ美、民藝を追求しなければならなかった時代背景について解説をする。			【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第9回	民藝運動(2) ・柳宗悦の興した民藝運動がどのように変化していったのかを、白洲正子の言説から読み解いていく。 ・民藝運動の意義について解説をする。			【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第10回	白洲正子の美意識(1) ・『かくれ里』が世に問うている問題を解説する。			【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第11回	白洲正子の美意識(2) ・『十一面観音巡礼』で展開された美意識を解説する。 ・白洲正子の現代的意義を解説する。			【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第12回	外国人からみた日本人の美意識(1) ・アレックス・カー『美しき日本の残像』から、日本人の美意識を外国人の目で確認をする。			【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第13回	外国人からみた日本人の美意識(2) ・ドナルド・キーン・司馬遼太郎『日本人と日本文化』から、日本人の美意識と日本人と外国人の目から確認をする。			【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第14回	総括 ・日本人の美意識についてのまとめを行う。			【予習】 到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		120	
[授業の方法]							

基本的に、配布プリントなどをもとに、内容を詳説していく講義形式で行う。
随時授業の中で、与えられた課題に対する解答／コメントを作成する。
上で示された準備学習の時間は目安であるので、各自の理解度に応じて取り組むことが求められる。

- なお、各テスト、課題の狙いは以下の通りである。
- ・中間テスト：第1回～6回までの学修内容についての基礎的な理解度と、キーワードの理解を確認する。
 - ・課題に対する解答／コメント：授業ごとの到達度を確認する。
 - ・到達度確認テスト：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。

〔成績評価の方法〕

随時行う課題への解答／コメント（15%）、中間テスト（15%）、到達度確認テスト（70%）による総合評価を基本とし、質問など授業への積極的な参加をプラスに評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度によって評価する。

- ・基礎的なキーワード、鍵概念の的確な理解。
- ・日本人の美意識に対する深い思考。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし。

〔テキスト〕

特になし。適宜指示をする。

〔参考書〕

挾本佳代『白洲正子——ひたすら確かなものが見たい』、平凡社、2013年。
購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		総合特殊講義／（家族関係と法）					
教員名		渡邊 知行					
科目No.	121241700	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
〔テーマ・概要〕							
『家族関係と相続に関わる法律と判例』 ・家族関係と相続に関する民法の基本的な制度とルールを理解し、具体的な相続紛争の事例をどのように解決すべきかを考察する。							
〔到達目標〕							
DP1【教養の修得】、DP2【課題の発見と解決】、DP5【表現力・発信力】を実現するため、次の2点を到達目標とする。 ①家族法・相続法に関する基礎的な知識や考え方を身につける。 ②家族法・相続法の学習で身につけた知識や考え方を活かして、相続問題の課題とその解決策を考えることができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業の内容・進め方 ・家族法（親族法・相続法）の基礎			授業内容の確認。		60分	
第2回	家族関係（1） ・婚姻 ・離婚 ・内縁			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第3回	家族関係（2） ・嫡出子と非嫡出子 ・普通養子と特別養子			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第4回	家族関係（3） ・親権 ・扶養			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第5回	家族関係（4） ・未成年者の後見 ・成年後見制度			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第6回	法定相続（1） ・相続人 ・相続の承認・放棄			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第7回	法定相続（2） ・相続財産の範囲			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第8回	法定相続（3） ・相続分 ・遺産分割			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第9回	遺言相続（1） ・遺言の自由 ・遺言の方式 ・遺言の解釈			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第10回	遺言相続（2） ・遺贈 ・遺言の執行			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第11回	遺言相続（3） ・遺留分制度 ・遺留分の清算			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第12回	相続法に関する紛争事例の考察（1）相続人・相続分			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第13回	相続法に関する紛争事例の考察（2）相続財産の範囲			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第14回	相続法に関する紛争事例の考察（3）遺言			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
〔授業の方法〕							
・事前に CoursePower に掲示した配布資料に基づいて、講義内容を詳説する。 ・講義を中心に、課題レポート（中間レポート2回と期末レポート）提出を実施する。中間レポート課題は、基本的な知識や考え方の理解を確認する。期末レポート課題は、授業で得られた成果を評価する。							
〔成績評価の方法〕							
・中間レポート課題（40%）、期末レポート課題（60%）。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
次の 2 点に着目し、その達成度により評価する。

①家族法・相続法に関する基礎的な知識や考え方を身につけている。

②家族法・相続法の学習で身につけた知識や考え方を活かして、相続問題の課題とその解決策を考えることができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし

〔テキスト〕

- ・『民法Ⅵ親族・相続（第 5 版）』 前田・本山・浦野著、有斐閣、3080 円、ISBN : 9784641179417
- ・民法改正に関する補遺 ; http://www.yuhikaku.co.jp/static_files/17941_hoi.pdf

〔参考書〕

- ・『家族法（第 4 版）』 窪田充見著、有斐閣、4300 円、ISBN : 9784641138186
- ・『プロセス講義民法Ⅵ』 後藤・滝沢・片山編、信山社、3200 円、ISBN:9784797226577
- ・購入の必要なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		総合特殊講義 / (社会哲学入門)					
教員名		岩城 志紀					
科目No.	121241720	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
〔テーマ・概要〕							
<p>私たちが暮らしている社会・世界は理想的と言えるか。そもそも、社会・世界が目指すべき理想とは何か。人・社会・世界・自然環境は、互いにどう関わらなければならないか。また、理想的とは言えない社会・世界の中で、人はどのような責任を負い、どのように生きていくべきか。人類は常にその答えを探求してきました。この営みが「社会哲学」です。本科目では、社会哲学に関する様々なテーマに焦点を当てながら、各テーマに沿って、重要な疑問点や考え方を紹介していきます。この授業を通じて、学生ひとりひとりが社会・世界と真剣に向き合い、自分の生き方や社会・世界の在り方について深く考えていけるようになってほしい。そう願っています。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP2 (教養の習得)、DP3 (課題の発見と解決)、DP4 (表現力・発信力)、DP5 (多様な人々との協働) を実現するため、以下の5点を到達目標とします。</p> <p>① ひとつの空間 (社会や世界) を共有する者同士、どのような関係を築いていくべきか、深く考えられるようになること。</p> <p>② 授業で学んだ視点や考え方を踏まえつつ、自分自身の意見を組み立て、他者に伝わるような形で発信できるようになること。</p> <p>③ 現状を安易に受け入れることなく、現状の問題を乗り越え、新たな未来へと繋げていく意志や責任感を養うこと。具体的には、次の2点ができるようになること。</p> <p>- 社会・世界を広く見渡し、人類が直面している様々な現代的課題について客観的・批判的に考察し、今後どのような方向に社会・世界が進むべきかについて考えられるようになること。</p> <p>- 社会・世界を今よりも良くするために自分にできることは何か、真剣に考えられるようになること。</p> <p>④ 授業で学んだ視点や他者の意見に対する自分なりの考えを、他者に伝わるような形で発信できるようになること。</p> <p>⑤ 他者の意見を尊重しつつ、その意見に対し建設的なコメントを加え、他者 (および自分) がさらに深く考えるきっかけを作れるようになること。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の目安 (分)	
第1回	オリエンテーション : What is 「社会哲学」 ?			【復習】 授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。 【予習】 次回のディスカッションに向けて事前調査とブレインストーミングを行う。		60分	
第2回	人間の本性			【復習】 授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。 【予習】 次回のディスカッションに向けて事前調査とブレインストーミングを行う。		60分	
第3回	個人・自由			【復習】 授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。 【予習】 次回のディスカッションに向けて事前調査とブレインストーミングを行う。		60分	
第4回	容認・アイデンティティ			【復習】 授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。 【予習】 次回のディスカッションに向けて事前調査とブレインストーミングを行う。		60分	
第5回	市民			【復習】 授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。 【予習】 次回のディスカッションに向けて事前調査とブレインストーミングを行う。		60分	
第6回	権利			【復習】 授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。 【予習】 次回のディスカッションに向けて事前調査とブレインストーミングを行う。		60分	
第7回	(政治的) 義務			【復習】 授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。 【予習】 次回のディスカッションに向けて事前調査とブレインストーミングを行う。		60分	
第8回	社会・政府・国家			【復習】 授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。 【予習】 次回のディスカッションに向けて事前調査とブレインストーミングを行う。		60分	
第9回	民主主義・代表			【復習】 授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。 【予習】 次回のディスカッションに向けて事前調査とブレインストーミングを行う。		60分	
第10回	力・権威			【復習】 授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。 【予習】 次回のディスカッションに向けて事前調査とブレインストーミングを行う。		60分	
第11回	ネイション			【復習】 授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。 【予習】 次回のディスカッションに向けて事前調査とブレインストーミングを行う。		60分	
第12回	社会正義			【復習】 授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。 【予習】 次回のディスカッションに向けて事前調査とブレインストーミングを行う。		60分	
第13回	時空を超える正義論① -グローバル正義			【復習】 授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。 【予習】 次回のディスカッションに向けて事前調査とブレインストーミングを行う。		60分	

第14回	時空を超える正義論② -地球環境と未来世代	【復習】授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。	60分
<p>〔授業の方法〕</p> <p>「知る→考える→議論する→さらに深く考える」という建設的プロセスを重視します。そこで、毎回、各自、宿題として、こちらが設定する議題をもとに、事前調査とブレインストーミングを行っていただきます。</p> <p>授業当日は、前半と後半に分けます。</p> <p>前半では、事前に提示しておいた議題について、講師も含め、グループ・ディスカッションを行います。その際、毎回、各グループから1名を指名し（シフト制）、各メンバーの意見を整理するための「議事録」を作成していただきます。また、議事録作成者には、自身の意見を整理した「意見文」も書いていただきます。</p> <p>後半では、講師作成の「講義ノート」を用いて、新しい知識を学んでもらい、次回のディスカッションに向けた知識を身につけていただきます。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>ディスカッションへの参加姿勢：30%</p> <p>議事録&意見文：30%</p> <p>学期末論文：40%</p>			
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠しつつ、次の点に着目し、その達成度により評価します。</p> <p>① 与えられた課題について自分の言葉で説明することができること。</p> <p>② 授業で学んだ知識やディスカッションで挙げられた他者の見解、および独自の事前調査を踏まえつつ、自分なりの意見を盛り込んでいること。</p> <p>③ 論理的かつ明快な文章で表現できていること。</p>			
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>特になし。</p>			
<p>〔テキスト〕</p> <p>なし。毎回、講師の作成した「講義ノート」を使用します。</p>			
<p>〔参考書〕</p> <p>授業中に適宜紹介します。</p>			
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>質問や相談は、授業の前後またはオフィス・アワーに受け付けます。オフィス・アワーは学内専用ホームページで告知します。</p>			
<p>〔特記事項〕</p> <p>アクティブ・ラーニング</p>			

科目名	企業経済特殊講義 / (観光と経済)						
教員名	井出 多加子						
科目No.	121251100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>『ポストコロナの時代における観光産業の可能性と地域経済』 近年日本経済は、訪日外国人観光客への依存度を高め、彼らの消費は観光施設だけでなく街なみや株価まで変動させてきました。しかし、新型コロナウイルスによる人の移動の自粛や制限によって、地方圏や特定産業は危機的状況に陥っています。 このように、観光による経済振興には、大きな可能性とリスクが伴います。感染症鎮静後を見据え、地域の自然や文化を守りつつバランスの取れた持続的成長が大切です。成功に導くには、観光サービスの商品特徴と観光者の行動変化を見据えながら、情報革命や規制緩和を積極的に取り入れつつ、安定した運営体制と資金調達をどのように進めるべきか、いくつかの事例を研究しながら、授業を通じて受講者とともに考えます。 授業計画や準備学習等々について変更がある場合は、CoursePower からのメール連絡または授業内の指示で確認してください。</p>							
<p>[到達目標]</p> <p>DP1 (専門分野の知識・技能)、DP3 (課題の発見と解決) を実現するため、次の4点を到達目標とします。 ①観光サービスと産業の特性を理解し、経済経営の視点から経済効果や市場予測ができる。 ②需要者(観光旅行者)の行動を分析し、社会的、経済的、心理的要因を理解できる。 ③供給者(事業者)について、情報革命や規制緩和の影響を理解できる。 ④事例やデータをもとにSWOT分析等の手法を用いて、持続可能性の視点から、地域の魅力を発掘・磨く観光ツアーや関連する事業プランを提案できる。 ⑤ポストコロナを見据えて、デジタルトランスフォーメーションの導入と高生産性の産業に代わる方向性を理解する。</p>							
[授業の計画と準備学習]							
回数	授業の計画・内容			準備学習(予習・復習等)		準備学習の目安(分)	
第1回	第1-14回まで、以下の予定で進めますが、場合によっては変更されることがあります。常にポータルで連絡事項を確認してください。 インTRODクシヨン ・履修の注意事項(試験、評価など) ・ツーリズムとは何か。 ・世界における観光産業の拡大 今なぜ観光なのか、ツーリズムと観光の違いを理解し、世界のデータをもとに近年のトレンドを把握し課題を考えます。			ポータルに提示する資料をダウンロードし、参考図書やe-learning教材を事前にざっと眺める。		60	
第2回	観光市場の動向と観光サービス・観光産業の特性 ・観光商品はさまざまな産業のサービスの組み合わせで成り立っていること、その特性を学びます。 ・観光倫理 ・観光行動は目的地に社会的、経済的影響をもたらすことを概観します。			ポータル資料を読んでおく。		60	
第3回	観光の需要(需要に影響する外的要因) ・観光旅行者の行動、所得や時間制約、フランスのバカンス法など制度の影響を分析します。 ・オーパーツーリズムや極端な需要の変動と、持続可能性を検討します。 ・感染症や自然災害などの、外的環境の変化が与える影響を検討します。			ポータル資料を読んでおく。		60	
第4回	観光の需要(観光者の心理) ・前回の学習をもとに、旅行に関する消費行動の変化、異なる文化的背景がもたらす行動の違いを学びます。			ポータル資料を読んでおく。		60	
第5回	観光の需要(観光者の心理) ・インバウンド観光客や近年の若者の行動について、消費行動や文化の違いなどから需要の動向を学びます。			前回までの授業内容を復習し、担当者に質問するなど学習内容を整理しておく。		120	
第6回	地域の魅力発見(SWOT分析他) ・地域の魅力を再発見し、地域の課題解決を提案する手法を学びます。 ・代表的な手法であるSWOT分析を紹介し、観光地の取り組みに関する動画をみながら実践的に理解を深める。			中間課題備えて、これまでの学習内容を確認、復習する。		60	
第7回	観光の供給(旅行代理店他) ・観光業に関連する法律を紹介します。 ・旅行代理店のビジネスモデルとその限界と新しい方向性、新型コロナウイルスへの対応を学びます。			ポータル資料を読んでおく。		60	
第8回	中間課題へのフィードバック ・中間課題について、全体的なコメントと期末に向けての取り組みのポイントを説明します。 また期末課題にむけて、利用する分析手法について事例をもとに理解を深めます。			ポータル資料を読んでおく。		60	
第9回	観光の供給(宿泊施設) ・日本の宿泊施設は大変な苦境に立たされています。 ・競争の要因や、民泊、星野リゾートの戦略をまなびます。			ポータル資料を読んでおく。		120	
第10回	観光の経済効果(経済効果の計測) ・経済波及効果の考え方、計算手法を、東京都のデータをもとに学びます。 ・経済波及効果が地域経済に与える影響と、代表的事例を紹介します。			ポータル資料を読んでおく。		60	

第11回	<p>経済効果（娯楽施設や大型イベント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界的に、娯楽アイテムを集約させたテーマパークの人気の高まっています。長崎ハウステンボスの事例をもとに、運営の課題と地域経済への影響を学びます。また経済波及効果の計測方法と課題を紹介しします。 	ポータル資料を読んでおく。	60
第12回	<p>経済効果と広域連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界的に、娯楽アイテムを集約させたテーマパークの人気の高まっています。その地域経済への効果を検討しします。 世界遺産や聖地巡礼、大規模スポーツイベントなどの経済波及効果の状況と課題を紹介しします。 大規模観光施設の運営を例に、経済効果を含むプロジェクトの収益性の求め方と課題を説明しします。 地域間の「競争」から「共創」の時代へ、広域連携で魅力をアップする事例を学びます。 	ポータル資料を読んでおく。	60
第13回	<p>交通ネットワークとデジタルトランスフォーメーションの影響</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通の利便性は、観光客誘致の最重要ポイントです。人口減少に悩む鉄道事業者の多くは、観光収入に依存しています。新幹線やクルーズ船を活用した観光事例を紹介しします。 観光の移動パターンを紹介し、既存の資源を生かした事例を紹介しします。 観光は、労働生産性が最も低い産業のひとつです。新しい時代を見据えて、デジタルトランスフォーメーションをいかに導入していくか、交通サービスと情報について紹介しします。 	ポータル資料を読んでおく。	60
第14回	<p>SDGs からみる持続可能な観光</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの学習のポイントを整理し、期末課題作成の留意点を確認する。 観光の経済効果と社会・自然・文化の保護、自然災害や感染症などのリスク分散、需要の適切なコントロール、ポストコロナを見据えた DX の導入と新しいビジネスモデルなど、持続可能な観光のあり方を考えます。 	これまでの学習ノートや資料を整理し、疑問点を洗い出す。	120
<p>〔授業の方法〕</p> <p>講義形式ですが、授業中に発言を求めることがあります。 また、観光に関する各種の事例の動画を鑑賞し、比較研究を行います。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>学期末試験および期末レポートは実施しない。 以下の平常点で総合的に成績を評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中のミニクイズ（合計を120点満点の値に換算） 60% 2. 中間課題（40点満点）と期末課題（40点満点） 40% <p>ミニクイズは毎回 CoursePower で授業中に実施する。 中間課題は、期末課題の一部とする。提出内容にコメントをつけてフィードバックするので、それをもとに期末課題に取り組むこと。 授業内容に関する有意義な質問や提案は加点することがある。</p>			
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠し、上記、到達目標の達成度に基づいて評価します。 /Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.</p>			
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>関連する以下の科目を、今後履修されることをお勧めします。 ミクロ経済学、産業組織、経済地理、情報の経済学、消費者行動、マーケティング等。</p>			
<p>〔テキスト〕</p> <p>指定しない。パワーポイントの授業資料をポータル配布。</p>			
<p>〔参考書〕</p> <p>Tourism: Principles and Practice ,John Fletcher (著), Alan Fyall (著), (英文なので購入不要。授業中に適時紹介。) 無料の e-learning 教材（オーストラリア、クイーンズランド大学） https://courses.edx.org/courses/course-v1:UQx+TOURISMx+3T2017/course/</p>			
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトで周知する。</p>			
<p>〔特記事項〕</p>			

科目名		環境経済学B					
教員名		山上 浩明					
科目No.	121253000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕							
日本の環境政策は公害対策や自然環境保護をから発展してきたが、廃棄物、資源・エネルギー、気候変動などのように取り組むべき環境問題は広がり続けている。本講義は、日本の環境問題や、環境政策を中心として、その歴史・目的・効果などを紹介しながら、これらの問題と対策を描写する簡単な経済モデルを解説する。							
〔到達目標〕							
DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。 ①環境問題・環境政策に関係する主体を簡潔に整理し、客観的に考察することができる。 ②問題解決・政策立案について各利害関係者の立場から論じることができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス 環境問題における社会科学の視点			テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。		60~90分	
第2回	1. 環境問題とは何か：類型・特徴・公害			テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。		60~90分	
第3回	1. 環境問題とは何か：公害と環境法			テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。		60~90分	
第4回	1. 環境問題とは何か：経済学（公害と量規制）			テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。		60~90分	
第5回	2. 裁判と補償：特別措置法と患者認定基準			テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。		60~90分	
第6回	2. 裁判と補償：拡大生産者責任			テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。		60~90分	
第7回	2. 裁判と補償：経済学（量規制と患者認定）			テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。		60~90分	
第8回	3. 廃棄物問題：廃棄物の定義・類型と日本の現状			テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。		60~90分	
第9回	3. 廃棄物問題：産業廃棄物関連対策			テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。		60~90分	
第10回	3. 廃棄物問題：一般廃棄物関連対策			テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。		60~90分	
第11回	3. 廃棄物問題：経済学（逆有償・リサイクル）			テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。		60~90分	
第12回	4. エネルギー問題：歴史・定義・現状			テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。		60~90分	
第13回	4. エネルギー問題：政策動向			テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。		60~90分	
第14回	総括			テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。		60~90分	
〔授業の方法〕							
対面形式で講義を実施する。CoursePowerを通じて講義資料を配布する。数回の小テスト、期末試験が予定されている。							
〔成績評価の方法〕							
以下の2つの評価手法①、②のうち、点数が高いものを用いて成績評価を行う。 評価手法①の点数=小テスト（30%）+期末テスト（70%） 評価手法②の点数=小テスト（50%）+期末テスト（50%）							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

①環境問題・環境政策に関する主体を簡潔に整理し、客観的に考察することができる。

②問題解決。政策立案について各利害関係者の立場から論じることができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

関連科目として、環境関連科目全般とミクロ経済学関連科目が挙げられる。

〔テキスト〕

特に指定しない。ただし、以下の書籍を中心に講義資料を作成する。

浅子和美・落合勝昭・落合由紀子(2015)『グラフィック 環境経済学』新世社

〔参考書〕

[1] 栗山浩一・馬奈木俊介(2016)『環境経済学をつかむ』有斐閣

[2] 馬奈木俊介(2013)『環境・エネルギー・資源戦略 新たな成長分野を切り拓く』日本評論社

[3] 馬奈木俊介・豊澄智己(2012)『環境ビジネスと政策 ケーススタディで学ぶ環境経営』昭和堂

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		資源経済学					
教員名		川越 俊彦					
科目No.	121253400	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>資源は経済を発展させ、人々の世界つ水準を改善させるための経済活動の源泉です。経済を発展させ、生活を豊かにすることは人類の歴史において究極の目標でした。しかしながら、産業革命以降の飛躍的な技術革新と経済開発の成果を全人類が平等に享受しているわけではありません。なぜ、農業国である発展途上国の人々が飢え、工業国である先進国で食料が余っているのでしょうか？食料やエネルギー資源は枯渇してしまうのでしょうか？SDG sの目標は実現するのでしょうか？</p> <p>この授業は担当者の国際機関（国連・世界銀行）での経済開発の実務経験に基づき、経済開発の現場で起こっていることを含め、地球上の資源（食料、エネルギー、人間）に着目しつつ、地球上の資源に関わる重要なテーマを理論的・実証的に学びます。現代の世界経済が直面する諸問題への理解を深めることが目標です。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1(専門分野の知識・技能)、DP3(課題の発見と解決)を実現するため、次の3点を到達目標とする。</p> <p>① 地球上の資源（食料、エネルギー、人間）についての基礎知識があり、自らの言葉で現状や課題を説明できる。</p> <p>② 資源の制約を緩和する経済活動（技術進歩、貿易）について基本的知識がある。</p> <p>③ SDG sについての基礎知識があり、自らの言葉で現状や課題を説明できる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス 授業の目的、内容、進め方、評価方法などについて説明する。世界経済の現状と課題についてのポイントを解説する。			【復習】ガイダンス資料を復習し、授業の全体像を把握しておく。		60	
第2回	人的資源1：資源としての人間 人的資源という概念とその役割について学ぶ。			【予習】前回授業で指定された資料に目を通して内容を把握しておく。 【復習】講義内容を復習し、理解を深めておく。		60	
第3回	人的資源2：世界の人口問題の現状と課題 引き続き、世界の人口問題の現状と課題について学ぶ。			【予習】前回授業で指定された資料に目を通して内容を把握しておく。 【復習】講義内容を復習し、理解を深めておく。		60	
第4回	人的資源3：人口成長の歴史と転換過程 世界の人口がどのように増加してきたのかについて学ぶ。			【予習】前回授業で指定された資料に目を通して内容を把握しておく。 【復習】講義内容を復習し、理解を深めておく。		60	
第5回	人的資源4：人口問題へのミクロ経済学的接近 人口問題をミクロ経済学の理論を使ってどのように理解するかについて学ぶ。			【予習】前回授業で指定された資料に目を通して内容を把握しておく。 【復習】講義内容を復習し、理解を深めておく。		60	
第6回	食料資源1：世界の食料需給バランス 世界の食料需給バランスと構造的問題について学ぶ。			【予習】前回授業で指定された資料に目を通して内容を把握しておく。 【復習】講義内容を復習し、理解を深めておく。		60	
第7回	食料資源2：農業問題と食料問題 先進国の農業問題、途上国の食料問題について学ぶ。			【予習】前回授業で指定された資料に目を通して内容を把握しておく。 【復習】講義内容を復習し、理解を深めておく。		60	
第8回	技術進歩の役割1：緑の革命 20世紀の食料増産（緑の革命）について学ぶ。			【予習】前回授業で指定された資料に目を通して内容を把握しておく。 【復習】講義内容を復習し、理解を深めておく。		60	
第9回	技術進歩の役割2：技術進歩と資源制約 資源制約の下での技術進歩の役割について学ぶ。			【予習】前回授業で指定された資料に目を通して内容を把握しておく。 【復習】講義内容を復習し、理解を深めておく。		60	
第10回	資源の移動と開発戦略1：世界貿易の現状 世界の貿易の現状と課題について学ぶ。			【予習】前回授業で指定された資料に目を通して内容を把握しておく。 【復習】講義内容を復習し、理解を深めておく。		60	
第11回	資源の移動と開発戦略2：輸出振興と輸入代替政策 引き続き、経済発展のための開発戦略、特に輸入代替政策について学ぶ。			【予習】前回授業で指定された資料に目を通して内容を把握しておく。 【復習】講義内容を復習し、理解を深めておく。		60	
第12回	持続可能な開発の考え方1：持続可能な開発の考え方の起源からMDG sまでを学ぶ。			【予習】前回授業で指定された資料に目を通して内容を把握しておく。 【復習】講義内容を復習し、理解を深めておく。		60	
第13回	持続可能な開発の考え方2：SDG sについて学ぶ。			【予習】前回授業で指定された資料に目を通して内容を把握しておく。 【復習】講義内容を復習し、理解を深めておく。		60	
第14回	持続可能な開発の考え方3：資源（再生可能資源と再生不可能資源）やEcological foot prints、水資源、石油資源について学ぶ。			【予習】前回授業で指定された資料に目を通して内容を把握しておく。 【復習】講義内容を復習し、理解を深めておく。		60	
〔授業の方法〕							
<p>毎回の授業の最後に授業内容の理解度(到達度)を確認するための課題を提示するので、期限内に Course Power を通じて提出すること。また授業内において計算問題等の実習をおこなうことがある。履修者は、配付資料、授業中のノートによる復習を行い、授業内容を十分に理解しておくこと。毎回、質問時間を設けるので、分からないところを持ち越さないようにすること。</p>							
〔成績評価の方法〕							
<p>学期末試験および期末レポートは実施せず、毎時間提示される提出課題（全12回）に基づき平常点で成績評価する。</p> <p>なお、提出課題は到達度を確認するためのものであり、記述式レポート、資料（英文を含む）に基づく選択式問題、計算問題等からなり、各回5～10%、合計100%で評価する。</p>							

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条.）に準拠しつつ、次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ① 世界の人口問題、貧困問題について基礎的理解があり、与えられた課題を評価・コメントできる。
- ② 世界の食糧問題や技術進歩の役割について基礎的理解があり、与えられた課題を評価・コメントできる。
- ③ 世界貿易の現状と開発戦略について基礎的理解があり、与えられた課題を評価・コメントできる。
- ④ SDG s を含む地球環境問題について基礎的理解があり、与えられた課題を評価・コメントできる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

初級ミクロ経済学 I, II、初級統計学 I, II

〔テキスト〕

なし（毎週教材を配付する。）

〔参考書〕

授業中に随時、国連資料（英文を含む）等を配付する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		環境と法					
教員名		渡邊 知行					
科目No.	121253500	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕							
『公害・環境問題と環境法』 ・1960年代から現在に至る公害・環境問題の展開を踏まえながら、環境問題と環境法の基本的なルールを考察する。							
〔到達目標〕							
DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。を実現するため、次の2点を到達目標とする。 ①公害・環境問題と環境法に関する基礎的な知識や考え方を身につける。 ②環境法の学習で身につけた知識や考え方を活かして、公害、地球温暖化、廃棄物、リサイクルなど環境問題の課題とその解決策を考えることができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業内容と進め方の説明			授業の内容を確認する。		60分	
第2回	公害・環境法の展開（1）（1980年代まで）（高度経済成長と4大公害訴訟）			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第3回	公害・環境問題の展開（2）（1990年代以降）（国際条約と国内法の整備、SDGs）			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第4回	環境権と環境紛争（騒音、日照、景観など）			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第5回	環境法の基本原則（予防原則、原因者負担原則）			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第6回	環境政策の手法（行政規制、情報公開、経済的手法（排出枠取引、環境税など））			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第7回	環境基本法			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第8回	環境アセスメント			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第9回	大気汚染			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第10回	水質汚濁・土壌汚染			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第11回	廃棄物の処理			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第12回	循環管理（リサイクルなど）			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第13回	地球温暖化問題			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第14回	生物多様性・生態系の保護			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
〔授業の方法〕							
・事前に CoursePower に掲示した配布資料に基づいて、講義内容を詳説する。 ・講義を中心に、課題レポート（中間レポート2回と期末レポート）提出を実施する。中間レポート課題は、基本的な知識や考え方の理解を確認する。期末レポート課題は、授業で得られた成果を評価する。							
〔成績評価の方法〕							
・中間レポート課題2回（40%）、期末レポート課題（60%）。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
次の 2 点に着目し、その達成度により評価する。

①公害・環境問題と環境法に関する基礎的な知識や考え方を身につけて説明できる。

②環境法の学習で身につけた知識や考え方を活かして、公害、循環型社会、地球温暖化、生物多様性などに関する環境問題の解決策を検討できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし

〔テキスト〕

『環境法 BASIC(第 3 版)』 大塚直著、有斐閣、4300 円、ISBN : 9784641138667

〔参考書〕

授業のなかで紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		地域・環境特殊講義／（環境社会学の基礎）					
教員名		挾本 佳代					
科目No.	121253600	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>テーマ：「自然環境と人間の在り方を考える」</p> <p>環境問題としてわたしたちが考えなければならないのは、いま目の前で発生している自然環境の破壊の現状だけではありません。わたしたちに求められているのは、何よりそうした自然環境破壊が発生するようになった原因や背景を探り、その思索を社会の考察に生かしていくことです。</p> <p>この授業では、水俣病被害調査、捕鯨問題等を通して、被害（加害）構造論、受益圏・受苦圏論、社会的ジレンマ論、生活環境主義を理解し、「人間-自然」「社会-自然」がどのような形で折り合いをつけていくことができるのか／できたのかを探りながら、いまなお解決されることのない環境問題をさまざまな観点から考察していく予定です。</p> <p>自分自身が生きている現代社会はどのような切実な問題を抱えている社会なのか、という問題意識をもちつつ授業にのぞんでくれることを希望します。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <p>①わたしたちの社会がどのように自然環境破壊と折り合いをつけてきたのかについて、深く理解し、説明できる。</p> <p>②環境開発会議などの対策や方針を理解し、説明できる。</p> <p>③身近な環境問題について現状を理解し、説明できる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、予習・復習の仕方を説明する。 イントロダクション ・人間と自然との関係性をどのように理解すればいいのかを説明する。			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】人間と自然の関係性の考え方について、自分で言葉にして説明できるようにしておく。		60	
第2回	持続可能性という概念 ・この概念がいつ、どのような形で登場してきたのか、またこの概念の本質的な意味を考察する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第3回	人間中心主義と社会と環境(1) ・西欧近代社会以来の「人間中心主義」の思想を考察する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第4回	人間中心主義と社会と環境(2) ・西欧近代社会以来の「社会」と「環境」の概念について説明をする。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第5回	ポスト京都議定書／環境開発会議の現状(1) ・京都議定書の内容、ポスト京都議定書をめぐる世界情勢について考察する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第6回	ポスト京都議定書／環境開発会議の現状(2) ・環境開発会議の歴史、採られてきた政策、日本のおかれた現状について考察する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		90	
第7回	中間テスト ・これまでの授業で学修してきた理解度を確認するためのテストを行う。			【予習】これまでの授業で学修してきたことを、自分の言葉で解説することができるようにしておく。		60	
第8回	水俣病被害調査研究(1) ・水俣病がどのように日本人に受け止められてきたのかを、文学作品を通じて解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第9回	水俣病被害調査研究(2) ・水俣病裁判がどのように進展していったのか、日本人の受け止め方は変化していったのかについて考察する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第10回	捕鯨問題の現実(1) ・日本はなぜ捕鯨をIWCに対して主張するのか。この問題をクジラの生息数の変遷、調査捕鯨の現状、日本におけるクジラ文化のあり方の歴史などから考察していく。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第11回	捕鯨問題の現実(2) ・IWCにおける日本の捕鯨擁護の立場を考察する。 ・環境問題や海洋資源問題から捕鯨をどのように捉えていくべきなのかを考察する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第12回	日本の食卓からみる環境問題(1) ・日本における食の欧米化が環境問題にどのような影響を及ぼしているのかを考察する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第13回	日本の食卓からみる環境問題(2) ・フードマイレージ、FTAの現状、地産地消の取り組みから食と環境問題を考察する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	

第14回	授業のまとめ ・キーワード、キー概念を取り上げながら、環境問題が発生した根底に潜む問題について考察する。	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにし、到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。	120
[授業の方法] 基本的に、配布プリントなどをもとに、内容を詳説していく講義形式で行う。 随時授業の中で、与えられた課題に対する解答／コメントを作成する。 上で示された準備学習の時間は目安であるので、各自の理解度に応じて取り組むことが求められる。 なお、各テスト、課題の狙いは以下の通りである。 ①中間テスト：第1回～6回までの学修内容についての基礎的な理解度と、キーワードの理解を確認する。 ②課題に対する解答／コメント：授業ごとの到達度を確認する。 ③到達度確認テスト：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。			
[成績評価の方法] 随時行う課題への解答／コメント（15%）、中間テスト（15%）、到達度確認テスト（70%）による総合評価を基本とし、質問など授業への積極的な参加をプラスに評価する。			
[成績評価の基準] 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。 次の点に着目し、その達成度によって評価する。 ①基礎的なキーワード、鍵概念の的確な理解。 ②人間と自然環境との関係性に対する深い思考。			
[必要な予備知識／先修科目／関連科目] 特になし。			
[テキスト] 授業で適宜指示をする。			
[参考書] 授業で適宜指示をする。			
[質問・相談方法等（オフィス・アワー）] ポータルサイトで周知する。			
[特記事項]			

科目名		地域・環境特殊講義 / (環境問題の基礎)					
教員名		山上 浩明					
科目No.	121253630	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>環境問題に関する知識は年々一般化してきており、現代に生きるわれわれにとって欠かせないものとなりつつある。本講義は、近年顕在化してきた環境や資源の利用に関する諸問題について、その原因を含む社会的な背景と問題の影響について紹介する。また、これらの諸問題に対する対策もあわせて紹介するが、履修者にはこれらの諸問題の構造を理解したうえで解決法について自ら考えるための基盤を養ってもらいたい。</p>							
<p>[到達目標]</p> <p>DP1 (教養の修得)、DP2 (教養の修得) の実現のため、以下を到達目標とする。 ①環境問題の体系的な基礎知識を獲得する。 ②環境問題の原因について言及し、その解決策について客観的に論じることができる。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の目安 (分)	
第1回	0. ガイダンス 1. 環境問題とは何か?			【予習】 資料をダウンロードし、目を通す。補足的な情報を文献やインターネットを通して自ら調べる。 【復習】 資料を見直す。とりあげたトピックについて文献やインターネットを通して自ら調べ・まとめる。		60~120分	
第2回	1. 環境問題とは何か?			【予習】 資料をダウンロードし、目を通す。補足的な情報を文献やインターネットを通して自ら調べる。 【復習】 資料を見直す。とりあげたトピックについて文献やインターネットを通して自ら調べ・まとめる。		60~120分	
第3回	2. 身近な環境汚染と健康・安全			【予習】 資料をダウンロードし、目を通す。補足的な情報を文献やインターネットを通して自ら調べる。 【復習】 資料を見直す。とりあげたトピックについて文献やインターネットを通して自ら調べ・まとめる。		60~120分	
第4回	2. 身近な環境汚染と健康・安全			【予習】 資料をダウンロードし、目を通す。補足的な情報を文献やインターネットを通して自ら調べる。 【復習】 資料を見直す。とりあげたトピックについて文献やインターネットを通して自ら調べ・まとめる。		60~120分	
第5回	2. 身近な環境汚染と健康・安全			【予習】 資料をダウンロードし、目を通す。補足的な情報を文献やインターネットを通して自ら調べる。 【復習】 資料を見直す。とりあげたトピックについて文献やインターネットを通して自ら調べ・まとめる。		60~120分	
第6回	3. 気候変動			【予習】 資料をダウンロードし、目を通す。補足的な情報を文献やインターネットを通して自ら調べる。 【復習】 資料を見直す。とりあげたトピックについて文献やインターネットを通して自ら調べ・まとめる。		60~120分	
第7回	3. 気候変動			【予習】 資料をダウンロードし、目を通す。補足的な情報を文献やインターネットを通して自ら調べる。 【復習】 資料を見直す。とりあげたトピックについて文献やインターネットを通して自ら調べ・まとめる。		60~120分	
第8回	3. 気候変動			【予習】 資料をダウンロードし、目を通す。補足的な情報を文献やインターネットを通して自ら調べる。 【復習】 資料を見直す。とりあげたトピックについて文献やインターネットを通して自ら調べ・まとめる。		60~120分	
第9回	4. 地球規模の環境問題			【予習】 資料をダウンロードし、目を通す。補足的な情報を文献やインターネットを通して自ら調べる。 【復習】 資料を見直す。とりあげたトピックについて文献やインターネットを通して自ら調べ・まとめる。		60~120分	
第10回	4. 地球規模の環境問題			【予習】 資料をダウンロードし、目を通す。補足的な情報を文献やインターネットを通して自ら調べる。 【復習】 資料を見直す。とりあげたトピックについて文献やインターネット		60~120分	

		ネットを通して自ら調べ・まとめる。	
第11回	5. 企業・家計が生む環境問題とその対策	【予習】 資料をダウンロードし、目を通す。補足的な情報を文献やインターネットを通して自ら調べる。 【復習】 資料を見直す。とりあげたトピックについて文献やインターネットを通して自ら調べ・まとめる。	60~120分
第12回	5. 企業・家計が生む環境問題とその対策	【予習】 資料をダウンロードし、目を通す。補足的な情報を文献やインターネットを通して自ら調べる。 【復習】 資料を見直す。とりあげたトピックについて文献やインターネットを通して自ら調べ・まとめる。	60~120分
第13回	5. 企業・家計が生む環境問題とその対策	【予習】 資料をダウンロードし、目を通す。補足的な情報を文献やインターネットを通して自ら調べる。 【復習】 資料を見直す。とりあげたトピックについて文献やインターネットを通して自ら調べ・まとめる。	60~120分
第14回	総括	【予習】 資料をダウンロードし、目を通す。補足的な情報を文献やインターネットを通して自ら調べる。 【復習】 資料を見直す。とりあげたトピックについて文献やインターネットを通して自ら調べ・まとめる。	60~120分
〔授業の方法〕 対面形式による講義を実施する。CoursePowerで講義資料を配布する。小テストなどが実施されることもある。			
〔成績評価の方法〕 小テスト（または中間テスト）30%+到達確認テスト（70%）を予定している。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. ①環境問題の体系的な基礎知識を獲得する。 ②環境問題の原因について言及し、その解決策について客観的に論じることができる。			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし			
〔テキスト〕 特になし 講義内容は参考書[3]や時事問題を取りあげます。			
〔参考書〕 [1] Geffery Heal (2000) "Nature and the Marketplace" Island Press (訳. 細田衛士、大沼あゆみ(2005)『はじめての環境経済学』東洋経済新報社) [2] 東京商工会議所 (2012) 『改訂3版 環境社会検定試験 eco 検定公式テキスト』日本能率協会マネジメントセンター [3] 三菱UFJリサーチ&コンサルティング (2012) 『手に取るように環境問題がわかる本』かんき出版 [4] 日引聡、有村俊秀 (2002) 『入門 環境経済学 環境問題』			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。			
〔特記事項〕			

科目名		社会保障論A					
教員名		内藤 朋枝					
科目No.	121254000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕							
<p>急速な少子・高齢化による介護問題、就業環境の悪化にともなう失業や貧困問題など、社会福祉が対応すべき問題は多様化し、深刻化している。感情論で語られがちな社会福祉の問題を、経済学の視点から解説する。</p> <p>社会経済状況や授業の進捗状況によって、内容を一部変更する場合がある。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP1(専門分野の知識・技能)を実現するため、以下の3点の到達目標を掲げる。</p> <p>① 社会福祉の各制度の仕組みを理解している。</p> <p>② 社会福祉の原理を説明できる。</p> <p>③ 経済学の視点から、福祉の市場において留意すべき点を明確に説明できる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス 研究倫理について 授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ミクロ経済学の概念を用いて社会保障を学修するにあたり必要な理論を概観する。			【予習】シラバスを確認し、予習、復習などイメージしづらい所をピックアップしておく。 【復習】ミクロ経済学の理論を確認しておく。		60	
第2回	社会政策の歴史と定義1 貧困問題から始まる社会政策の歴史を概観し、基本的な仕組みを学修する。 日本における社会政策の定義と経済学的理論による社会政策の位置づけについて基本的な仕組みを学修する。			【予習】テキスト第1章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第3回	社政策の歴史と定義2 貧困問題から始まる社会政策の歴史を概観し、基本的な仕組みを学修する。 日本における社会政策の定義と経済学的理論による社会政策の位置づけについて基本的な仕組みを学修する。			【予習】テキスト第1章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第4回	社会政策の経済学的分析について 社会政策を如何に経済学的に分析するか学修する。 また関連する資料を読み、本講義における宿題レポート執筆のルールを学修する。			【予習】 Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】宿題レポート執筆のルールについて復習を行う。		60	
第5回	社会政策の経済学理論1 日本における社会政策の定義と経済学的理論による社会政策の位置づけについて基本的な仕組みを学修する。 ※宿題レポートについて説明する。			【予習】テキスト第1章、第2章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第6回	社会政策の経済学理論2 日本における社会政策の定義と経済学的理論による社会政策の位置づけについて基本的な仕組みを学修する。			【予習】テキスト第1章、第2章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第7回	貧困とは何か 人は貧困に陥ったときどのような行動をとるのか。経済学的に検討する。			【予習】テキスト第5章、第3章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第8回	子どもの貧困問題と貧困対策 相対的貧困率の定義、子どもの貧困の状況、不利な家庭環境で育つ子どもへの支援策について学修する。			【予習】テキスト第5章、第3章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第9回	生活保護 貧困へのアプローチおよび生活保護制度の仕組み、現状および課題について学修する。 ※宿題レポートを提出する			【予習】テキスト第5章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】宿題レポートの準備を行う。		120	
第10回	最低賃金制度の仕組みと課題 最低賃金制度の仕組みや課題について学修する。 合わせて生活最低賃金の概念について学修する。			【予習】テキスト第7章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第11回	子育て支援 現在の少子化の現状について学修する 現金給付と現物給付の違い、少子化対策、子育て支援策・次世代支援策について学修する。			【予習】テキスト第10章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第12回	保育所問題 保育所の基本的仕組み、待機児童問題について学修する。次世代育成支援策			【予習】テキスト第10章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第13回	到達度確認テスト			【予習】到達度確認テストの内容をテキストで確認する。 【復習】重要箇所を理解・説明できるようにする。		60	
第14回	到達度確認テストのフィードバックを行う			【予習】到達度確認テストの内容をテキストで見直しておく。		120	
〔授業の方法〕							
<p>授業は講義形式でおこなう。</p> <p>学生は、必要に応じて課題レポートを作成し、提出することを求められる。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解に応じて取り組むこと。</p>							

なお、各テスト、レポートの狙いは以下のとおりである。
宿題レポート：授業内容の基本的な事項の理解度を深め、自分の考えを整理する。
到達度確認テスト：学修内容についての基本的な理解と、キーワードの理解を確認する。

〔成績評価の方法〕

学期末試験、Course Power 等を用いたレポート、小テストの提出など、学生の受講状況および授業進捗に応じた方法を用いて評価する。
到達度確認テスト（45%）、課題提出（演習および宿題レポート提出）（40%）、平常点（授業への参加状況など）（15%）による総合評価。
なお、課題レポート等についてグループで話し合う事は構わないが、必ず自分なりの意見・言葉でレポートを作成すること。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

関連科目：ミクロ経済学理論、社会保障論 B、医療と健康の経済学、行動経済学など

〔テキスト〕

駒村康平・山田篤裕・四方理人・田中聡一郎・丸山 桂『社会政策—福祉と労働の経済学』
有斐閣アルマ、定価 2,700 円（本体 2,500 円）、ISBN 978-4-641-22058-4
購入の必要なし。

〔参考書〕

厚生労働省『厚生労働白書』各年版
阿部彩 『子どもの貧困』 岩波書店
駒村康平・山田篤裕・四方理人・田中聡一郎・丸山 桂 『最低生活保障の実証分析』 有斐閣
周燕飛 『貧困専業主婦』 新潮選書
鈴木亘『社会保障と財政の危機』 PHP 新書
アビジット, V. バナジー・エステル・デュフロ（著）、山田浩生（訳）『貧乏人の経済学』 みすず書房
その他、授業中に紹介する。購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

科目名		社会保障論B					
教員名		内藤 朋枝					
科目No.	121254100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>本講義では、社会保障の基礎理論、特に公的年金・保険制度の基本的な概念および仕組みと主な課題について、経済学的視点から解説する。保険の機能などの基礎理論を学んだ上で、現在私たちを取り巻く社会経済要因が、年金および他の保険制度にどのような影響を及ぼすのかを理解する。なお、授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1(専門分野の知識・技能)を達成するため、以下の3点の到達目標を掲げる。</p> <p>① 社会保障の機能、原理を説明できる。 ② 公的年金・保険制度がなぜ必要なのかを理解し、その仕組みを説明できる。 ③ 公的年金・保険制度に関する経済学的な理論を説明できる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス 研究倫理について 授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ミクロ経済学の概念を用いて社会保障を学修するにあたり必要な理論を概観する。			【予習】シラバスを確認し、予習、復習などイメージしづらい所をピックアップしておく。 【復習】ミクロ経済学の理論を確認しておく。		60	
第2回	社会政策はなぜ必要か 社会保障、社会政策とは何か、その歴史的背景について学修する。			【予習】テキスト序章、第1章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】重要箇所を理解・説明できるようにする。		60	
第3回	社会政策の経済学 社会保障の経済学的位置づけについて学修する。			【予習】テキスト第2章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】重要箇所を理解・説明できるようにする。		60	
第4回	社会政策の経済学 社会政策をミクロ経済学および行動経済学の両面から学修する。 表題に関する資料を読み、本講義における課題レポート執筆のルールを学修する。			【予習】Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】宿題レポート執筆のルールについて復習を行う。		60	
第5回	社会政策・年金保険の経済学 特に年金保険制度の経済学的位置づけについて学修し、なぜ「国民皆保険・皆年金」が必要であるかを経済学的に学修する。			【予習】テキスト第2章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】重要箇所を理解・説明できるようにする。		60	
第6回	社会保障の財源問題 政府がなぜ再分配政策を行うのか、再分配政策における国と地方自治体の役割について学修する。			【予習】テキスト第4章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】重要箇所を理解・説明できるようにする。		60	
第7回	少子・高齢化に取り組む 少子・高齢化にどのように取り組むのか事例を元に検討する。 ※宿題レポートについて説明する。			【予習】Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第8回	少子・高齢化と社会保障 少子・高齢化が、社会保障に及ぼす影響について学修する。			【予習】テキスト第10章、終章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】重要箇所を理解・説明できるようにする。		60	
第9回	公的年金制度の概念 公的年金制度の概念と必要性について学修する。			【予習】テキスト第14章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第10回	公的年金制度の仕組み 国民年金制度の被保険者の種類、給付と負担について学修する。 厚生年金保険、確定拠出年金の基本的な仕組みを学修する。			【予習】テキスト第14章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第11回	公的年金制度が抱える問題 無年金者問題、公的年金の財源問題、国民年金の空洞化問題について学修する。 ※宿題レポートを提出する。			【予習】テキスト第14章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】宿題レポートの準備を行う		120	
第12回	介護保険制度の仕組みと課題 介護保険制度の仕組みや課題について学修する。			【予習】テキスト第13章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】基本的仕組み、キーワードを説明できるようにする。		60	
第13回	介護保険制度の仕組みと課題 介護保険制度の仕組みや課題について学修する。 介護労働者の現状と外国人介護士の受け入れ政策について学修する。			【予習】テキスト第13章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】基本的仕組み、キーワードを説明できるようにする。		60	
第14回	総復習 授業全体を復習する。 期末テストについてのガイダンス、例題の演習を行う。			【予習】確認テストの内容をテキストで確認する。 【復習】重要箇所を理解・説明できるようにする。		120	
〔授業の方法〕							
<p>授業は講義形式でおこなう。</p> <p>学生は、必要に応じて課題レポートを作成し、提出することを求められる。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解に応じて取り組むこと。</p> <p>なお、各テスト、レポートの狙いは以下のとおりである。</p> <p>宿題レポート：授業内容の基本的な事項の理解度を深め、自分の考えを整理する。</p> <p>学期末試験：学修内容についての基本的な理解と、キーワードの理解を確認する。</p>							

〔成績評価の方法〕

学期末試験、Course Power 等を用いたレポート、小テストの提出など、学生の受講状況および授業進捗に応じた方法を用いて評価する。
学期末試験（45%）、課題提出（演習および宿題レポート提出）（40%）、平常点（授業への参加状況など）（15%）による総合評価。
なお、宿題レポート等についてグループで話し合う事は構わないが、必ず自分なりの意見・言葉でレポートを作成すること。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

関連科目：社会保障論 A、医療と健康の経済学、行動経済学など

〔テキスト〕

駒村 康平・山田 篤裕・四方 理人・田中 聡一郎・丸山 桂『社会政策 -- 福祉と労働の経済学』
有斐閣アルマ、ISBN 978-4-641-22058-4、2500 円＋税
購入の必要なし

〔参考書〕

西沢和彦『年金制度は誰のものか』日本経済新聞社
駒村康平編『日本の年金』岩波新書
鈴木亘『年金は本当にもらえるのか』ちくま新書
厚生労働省『厚生労働白書』ぎょうせい
その他、授業中に紹介する
購入の必要なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

科目名		医療経済学					
教員名		内藤 朋枝					
科目No.	121254200	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>医療問題というと、経済学とは一見無関係に見えるが、医療保険制度、医療の供給体制など、経済学の視点が欠かせない。本講義では、上記の挙げられた医療問題に加え、健康を維持するための課題等について、経済学の視点から解説する。社会経済状況や授業の進捗などによって、内容を一部変更する場合がある。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1(専門分野の知識・技能)を実現するため、以下の3点の到達目標を掲げる。</p> <p>① 医療制度の仕組みを理解している。 ② 医療保険の原理を説明できる。 ③ 経済学の視点から、医療に関わる理論、問題点を明確に説明できる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス 研究倫理について 授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ミクロ経済学の概念を用いて医療について学修するにあたり必要な理論を概観する。			【予習】シラバスを確認し、予習、復習などイメージしづらい所をピックアップしておく。本講義期間中に、現在加入している医療保険を確認しておくこと。 【復習】ミクロ経済学の理論を確認しておく。		60	
第2回	日本の医療制度 日本の医療制度の枠組みと、政策課題について学修する。			【予習】テキスト序章を読む。または Course Power 上の資料を読む。現在加入している医療保険を確認する。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第3回	医療サービスにおける政府の介入 医療サービスにおける政府の介入を市場の失敗の視点から学修する。			【予習】テキスト第2章を読む。または Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第4回	公的医療保険制度 公的医療保険の問題について経済学的に学修する。			【予習】テキスト第7章を読む。または Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第5回	医療サービスにおける情報の非対称性 患者と医師の関係を経済学的に学修する。			【予習】テキスト第1章、第3章を読む。または Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第6回	医師の偏りとマッチング 医師の偏りについての資料を読み学修すると同時に、課題レポートにて要求されているポイントについて演習を行う。			【予習】Course Power 上の資料を読む。 【復習】宿題レポート執筆のルールについて復習を行う。		60	
第7回	健康の経済学 健康を保持するための行動理論について、資料を元に学修する。 ※宿題レポートについて説明する。			【予習】テキスト第6章を読む。または Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第8回	混合診療1 混合診療禁止ルールを学修するにあたり混合診療の概念について学修する。			【予習】テキスト第9章を読む。または Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第9回	混合診療2 混合診療禁止ルールの維持と撤廃について効率性と公平性の観点から学修する。			【予習】テキスト第9章を読む。または Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第10回	病床規制 病床規制の根拠となっている供給者誘発需要について学修する。			【予習】テキスト第4章を読む。または Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第11回	社会的入院 社会的入院の背景と今後について学修する。 ※宿題レポートを提出する。			【予習】テキスト第5章を読む。または Course Power 上の資料を読む。 【復習】宿題レポートの準備を行う。		120	
第12回	終末期医療と遺族 患者と家族の行動を行動経済学の枠組みで検討する。			【予習】テキスト第11章を読む。または Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第13回	到達度確認テスト			【予習】テキストまたは Course Power 上の資料を読み到達度確認テストに備える 【復習】テストの復習を行う		120	
第14回	総復習 授業全体を復習する。 期末テストについてのガイダンス、例題の演習を行う。			【予習】到達度確認テストの内容をテキストで確認する。 【復習】重要箇所を理解・説明できるようにする。		60	
〔授業の方法〕							
<p>授業は講義形式でおこなう。 学生は、必要に応じて課題レポートを作成し、提出することを求められる。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解に応じて取り組むこと。 なお、各テスト、レポートの狙いは以下のとおりである。 到達度確認テスト：学修内容についての基本的な理解と、キーワードの理解を確認する。 宿題レポート：授業内容の基本的な事項の理解度を深め、自分の考えを整理する。</p>							
〔成績評価の方法〕							

到達度確認テスト、Course Power 等を用いたレポート、小テストの提出など、学生の受講状況および授業進捗に応じた方法を用いて評価する。
到達度確認テスト (45%)、課題提出(演習および宿題レポート提出) (40%)、平常点 (授業への参加状況など) (15%) による総合評価。
なお、課題レポート等についてグループで話し合う事は構わないが、必ず自分なりの意見・言葉でレポートを作成すること。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準 (学則第 39 条) に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕

関連科目：社会保障論 A、医療と健康の経済学、行動経済学など

〔テキスト〕

河口洋行 『医療の経済学【第 4 版】』 日本評論社 2500 円
購入の必要なし。

〔参考書〕

厚生労働省『厚生労働白書』各年版
健康保険組合連合会『図表でみる医療保障』(各年版)、ぎょうせい
大竹文雄・平井哲 『医療現場の行動経済学』 東洋経済新報社
津川友介『世界一わかりやすい「医療政策」の教科書』
その他、授業内で紹介する。購入の必要なし。

〔質問・相談方法等 (オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

科目名		ベーシック民法					
教員名		渡邊 知行					
科目No.	121254300	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>『市民生活・社会経済生活、企業取引に関わる民法の基本的なルール（契約、所有権、不法行為など）』 ・財産と家族を規律する民法の基本的な制度とルールを、具体的な事例に照らして理解する。</p>							
<p>[到達目標]</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）、DP4（表現力、発信力）を実現するため、以下を到達目標とする。を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ①民法に関する基礎的な知識や考え方を身につける。 ②民法の基本的な条文を読んでその内容を理解する。 ③民法の基本的な制度がどのように社会で機能しているかを理解する。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業の内容と進め方 ・民法の学習方法			授業内容の確認。		60分	
第2回	民事法・民法の全体像 ・民法の適用範囲と特別法 ・民法の構造 ・民法改正の歴史			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第3回	民法の基本原則 ・権利と義務 ・物権と債権 ・権利の濫用 ・契約自由・所有権・過失責任			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第4回	法律行為と契約 ・法律行為・契約・意思表示 ・公序良俗と契約 ・契約の無効・取消事由 ・権利能力・意思能力・行為能力			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第5回	代理 ・代理制度の意義 ・無権代理 ・表見代理			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第6回	時効 ・時効制度の意義 ・完成猶予と更新 ・取得時効と消滅時効			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第7回	契約の成立と債務不履行 ・契約の成立 ・債務不履行と損害賠償 ・契約の解除			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第8回	所有権 ・動産と不動産 ・所有権の取得と対抗要件 ・物権的請求権			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第9回	不法行為 ・不法行為の機能と保険制度 ・不法行為の要件 ・使用者責任・工作物責任 ・損害賠償			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第10回	債務の弁済 ・保証・抵当権 ・銀行送金 ・クレジットカード			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第11回	家族関係 ・夫婦・親子関係 ・親族間の財産関係			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第12回	相続 ・法定相続 ・遺言			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第13回	法人・会社 ・個人と法人 ・社団法人 ・会社の組織 ・法人の活動			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第14回	権利の実現手段 ・民事裁判 ・裁判外の解決手段 ・強制執行			授業の全体の内容を復習する。		60分	

<p>〔授業の方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に CoursePower に掲示した配布資料に基づいて、講義内容を詳説する。 ・講義を中心に、課題レポート（中間レポート 2 回と期末レポート）提出を実施する。中間レポート課題は、基本的な知識や考え方の理解を確認する。期末レポート課題は、授業で得られた成果を評価する。
<p>〔成績評価の方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間レポート課題（40%）、期末レポート課題（80%）。
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の 3 点に着目し、その達成度により評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①民法に関する基礎的な知識や考え方を身につけている。 ②民法の基本的な条文を読んでその内容を理解している。 ③民法の基本的な制度がどのように社会で機能しているかを理解している。
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>特になし</p>
<p>〔テキスト〕</p> <p>『民事法入門（第 8 版補訂版）』 野村豊弘著、有斐閣、1980 円、ISBN : 9784641221987</p>
<p>〔参考書〕</p> <p>授業のなかで紹介する。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトで周知する。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

科目名		社会経済地理学					
教員名		小田 宏信					
科目No.	121340300	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2022 後期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>この科目では、グローバル化した現代世界の地域課題を理解するとともに、これに関わる社会経済地理学および隣接領域の社会科学の諸概念に対する理解を深めます。グローバル化のプロセスは、世界を画一的なものに塗り替えつつも、さまざまなロカリティを表出させ、世界都市やメガシティの形成、一方で経済的に困難な地域の形成などを随伴させています。本講義では、まずは、グローバル化に至るまでの世界経済の諸プロセスを見た上で、多国籍企業による世界の組織化、またグローバル価値連鎖のもとでの世界の地域間関係を明らかにします。その上で、先進資本主義国、新興諸国それぞれの経済発展の地域的跛行性と地域経済社会の諸相と諸問題を理解し、持続可能な未来への展望へとつなげます。</p>							
<p>[到達目標]</p> <p>D P1-1（現代経済学科の専門分野に関する知識・理解）および DP3-1（課題の本質を発見するために必要な情報を調査収集し、それらを的確に解釈・分析し、課題の解決に向けて論理的に思考する能力を身に付けている）を実現するため、以下を到達目標とする。 社会経済地理学および隣接分野の諸概念を用いて、経済発展の空間的プロセスと現代経済の地域的および環境上の諸問題について理解することができる。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）				準備学修の目安（分）	
第1回	変貌する世界の地域景観	・テキストの序章に目を通す。				60	
第2回	グローバルな持続困難性——人口増加と食料生産に着目して	・前回の内容を復習する。				60	
第3回	経済発展とその地域的跛行性——世界の「中核」と「周辺」、「半周辺」	・前回の内容を復習する。				60	
第4回	経済のグローバル化のプロセス	・前回の内容を復習する。 ・テキストの第5章に目を通す。				60	
第5回	グローバルな商品流動と価値連鎖	・前回の内容を復習する。 ・テキストの第6章に目を通す。				60	
第6回	国民経済内の地域間不均衡と都市群システム	・前回の内容を復習する。 ・テキストの第2章に目を通す。				60	
第7回	大都市問題と大都市政策の起源	・前回の内容を復習する。 ・テキストの第8章、第9章に目を通す。				60	
第8回	大都市の衰退と再生、そして世界都市化	・前回の内容を復習する。 ・引き続き、テキストの第8章、第9章に目を通す。				60	
第9回	産業衰退地域の再生	・前回の内容を復習する。 ・再び、テキストの第2章に目を通す。				60	
第10回	イノベティブ、クリエイティブな産業集積	・前回の内容を復習する。 ・再び、テキストの第2章に目を通す。				60	
第11回	東南アジア経済発展の構図	・前回の内容を復習する。 ・テキストの第11章に目を通す。				60	
第12回	東南アジアにおける人口の大都市集中と貧困	・前回の内容を復習する。				60	
第13回	持続可能な開発と経済地理学	・前回の内容を復習する。 ・テキストの第19章に目を通す。				60	
第14回	到達度の確認と解説	・全体の内容を復習する。				60	
<p>[授業の方法]</p> <p>配布資料に沿って、スライドを用いて解説していきます。</p>							
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常点（授業中の小課題への取り組みなど）35%、期末テスト65%。</p>							
[成績評価の基準]							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、達成度により評価する。

- ・資本主義世界の経済発展の空間的側面を理解できる。
- ・空間的な視点から現代世界の地域的問題を見渡すことができる。
- ・社会経済地理学および隣接分野の諸概念を理解できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

関連科目として教養カリ開講の「現代社会の地理」「日本の国土と社会」、経済学部開講の「経済地理学 A」「経済地理学 B」など。

〔テキスト〕

『経済地理学への招待』、伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編、ミネルヴァ書房、2020 年、ISBN-13: 978-4-623-08691-7

このテキストのうち、序章、第 2 章、第 6 章、第 8 章、第 9 章、第 11 章、第 19 章の内容を授業では扱います。2 年次配当の「経済地理学 A」（2019 年度以前の入学者の場合は「産業と立地」）と共通して用いるテキストになります。

〔参考書〕

『現代社会の経済地理学』、林上著、原書房、2010 年、ISBN-13: 978-4-562-09171-3

『グローバル化の地理学』、田中恭子著、時潮社、2017 年、ISBN-13: 978-4-750-34741-7

『グローバル化—縮小する世界—』、矢ヶ崎典隆ほか編著、朝倉書店、2018 年、ISBN-13: 978-4-254-16881-5

『東南アジア・オセアニア』、菊地俊夫・小田宏信編著、朝倉書店、2014 年、ISBN-13: 978-4-254-16927-0

『ヨ

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		ゲーム理論					
教員名		吉田 由寛					
科目No.	121345000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕							
この授業では、現代経済学の理解にとって必須となっているゲーム理論を解説する。ゲーム理論の標準的な入門書を用いて、人々の利害が絡み合う状況をゲームとして捉え、人々が取るべき行動や社会の均衡状態を考察したい。また、ゲーム理論の応用として、寡占市場の分析を行う。							
〔到達目標〕							
DP1（専門分野の知識・技能）とDP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。 ・実際の人間関係を抽象化してゲームとしてモデル化するというゲーム理論の方法論を理解する。 ・戦略形ゲームが表す人間関係を理解し、個人の行動や社会の状態を分析できる。 ・展開形ゲームが表す人間関係を理解し、個人の行動や社会の状態を分析できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス／ゲーム理論とは何だろうか？ [Ch. 1]			当授業での注意点を把握する。／教科書で予習復習を行い、演習問題を解く。		120	
第2回	選択と意思決定 [Ch. 2]			教科書で予習復習を行い、演習問題を解く。		120	
第3回	戦略ゲーム [Ch. 3]			教科書で予習復習を行い、演習問題を解く。		120	
第4回	ナッシュ均衡点 [Ch. 4]			教科書で予習復習を行い、演習問題を解く。		120	
第5回	利害の対立と協力 [Ch. 5]			教科書で予習復習を行い、演習問題を解く。		120	
第6回	ダイナミックなゲーム [Ch. 6]			教科書で予習復習を行い、演習問題を解く。		120	
第7回	繰り返しゲーム [Ch. 7]			教科書で予習復習を行い、演習問題を解く。		120	
第8回	応用：寡占市場のゲーム理論による分析 1			教科書で予習復習を行い、演習問題を解く。		120	
第9回	応用：寡占市場のゲーム理論による分析 2			教科書で予習復習を行い、演習問題を解く。		120	
第10回	不確実な相手とのゲーム [Ch. 8]			教科書で予習復習を行い、演習問題を解く。		120	
第11回	交渉ゲーム [Ch. 9]			教科書で予習復習を行い、演習問題を解く。		120	
第12回	グループ形成と利得分配 [Ch. 10]			教科書で予習復習を行い、演習問題を解く。		120	
第13回	進化ゲーム [Ch. 11]			教科書で予習復習を行い、演習問題を解く。		120	
第14回	まとめと質疑応答			教科書で予習復習を行い、演習問題を解く。		120	
〔授業の方法〕							
基本的に講義形式の授業である。授業内容の理解を確認する目的で宿題レポートを課す。							
〔成績評価の方法〕							
授業への積極的参加（10%程度）、宿題（30%程度）、学期末試験（60%程度）により総合的に評価する。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
各学科で開講されているマイクロ経済学と経済数学の内容を予備知識とする。

〔テキスト〕
教科書として以下を指定する。
・岡田章『ゲーム理論・入門 -- 人間社会の理解のために（新版）』, 有斐閣, 2014 年

〔参考書〕
必要に応じて授業中に紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

科目名		情報の経済学					
教員名		吉田 由寛					
科目No.	121345100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>当科目のキーワードは「情報」である。正しい情報を持たない(持てない)状態を「不確実性」という。また、情報を持つ者と持たない者が共存する状態を「情報の非対称性」という。授業ではまず、不確実性が伴う世界において、人々がどのような行動基準を持っているのか、経済学における伝統的な理論を紹介する。次に、情報を獲得した者はそれをどのように利用するのかについて考察を与える。そして、情報の非対称性の下では、このような情報利用が資源配分上の非効率性を引き起こしてしまうことを詳細に説明する。授業では、上記に加え、この分野(あるいは関連分野)の最新トピックスを紹介することにしたい。</p>							
<p>[到達目標]</p> <p>E19以前の学生はDP6(専門分野の知識・理解)を実現するため、E20以降の学生はDP1(専門分野の知識・技能)とDP3(課題の発見と解決)を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不確実性下での合理的行動を説明できる。 ・情報の非対称性によって引き起こる問題を理解する。 ・情報共有に関する問題を理解する。 							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス/期待効用理論1:基礎			当授業での注意点を把握する。/演習問題で復習する。		120	
第2回	期待効用理論2:応用			演習問題で復習する。		120	
第3回	ゲーム理論の基礎1:戦略形ゲーム			演習問題で復習する。		120	
第4回	ゲーム理論の基礎2:展開形ゲーム			演習問題で復習する。		120	
第5回	情報の取得と活用1:情報集合			演習問題で復習する。		120	
第6回	情報の取得と活用2:ベイズの定理			演習問題で復習する。		120	
第7回	モラルハザード1:導入			演習問題で復習する。		120	
第8回	モラルハザード2:展開			演習問題で復習する。		120	
第9回	逆選択1:導入			演習問題で復習する。		120	
第10回	逆選択2:展開			演習問題で復習する。		120	
第11回	シグナリング1:導入			演習問題で復習する。		120	
第12回	シグナリング2:展開			演習問題で復習する。		120	
第13回	情報・知識の共有1:共有の難しさ			演習問題で復習する。		120	
第14回	情報・知識の共有2:安易な共有/まとめと質疑応答			演習問題で復習する。/全演習問題を復習して学期末試験に備える。		120	
<p>[授業の方法]</p> <p>基本的に講義形式の授業である。授業内容の理解を確認する目的で宿題レポートを課す。</p>							
<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業への積極的参加(10%程度)、宿題(30%程度)、学期末試験(60%程度)により総合的に評価する。</p>							
[成績評価の基準]							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
『ゲーム理論』が関連科目である。

〔テキスト〕
後日指定するか、テーマに応じて文献を配布する。

〔参考書〕
必要に応じて授業中に紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		経済発展論					
教員名		内田 雄貴					
科目No.	121345200	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>途上国が経済発展するために必要な方策について、経済学の観点から検討していきます。具体的には、国際貿易、産業集積、社会関係資本、経済・政治制度、農村開発、経済協力のトピックを扱います。なお、授業の進捗によって、内容を一部変更する場合があります。</p>							
<p>[到達目標]</p> <p>DP6（専門分野の知識・理解）を実現するため、以下を到達目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済発展の諸要因について理解する。 ・途上国が経済発展するために必要な方策について説明できる。 							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション			【予習】シラバスを熟読する。 【復習】授業の全体像や進め方、評価基準などについて確認する。		60	
第2回	国際貿易・海外直接投資（1） ・リカードの比較優位の理論			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		60	
第3回	国際貿易・海外直接投資（2） ・途上国の経済成長に利する貿易・投資政策			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		60	
第4回	産業集積 ・空間経済学の理論モデル ・産業集積のための政策			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		60	
第5回	社会関係資本・社会ネットワーク ・様々なネットワーク構造の効果			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		60	
第6回	社会・経済制度（1） ・制度の決定の理論			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		60	
第7回	社会・経済制度（2） ・経済発展を促す制度変革			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		60	
第8回	経済発展の政治経済学 ・政治制度と経済制度の補完性			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		60	
第9回	農村開発（1） ・経済発展における農業の役割			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		60	
第10回	農村開発（2） ・農業技術の普及			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		60	
第11回	農村金融（1） ・途上国農村における金融の特徴			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		60	
第12回	農村金融（2） ・マイクロファイナンス ・消費の平準化のためのインフォーマル金融			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		60	
第13回	経済協力 ・政府開発援助（ODA）			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		60	
第14回	まとめ ・講義全体のまとめ			【予習】これまでの講義資料を熟読。 【復習】授業全体を振り返り、不明な点はないか確認する。		120	
<p>[授業の方法]</p> <p>講義形式で授業を行います。授業内容の理解度を確認するために、小テストの実施または課題の出題を行います。</p>							
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常点(小テストまたは課題)40%、期末試験 60%</p>							
[成績評価の基準]							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
『開発経済学入門 第2版』、戸堂康之、新生社（購入の必要なし）

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

科目名		行動経済学					
教員名		内藤 朋枝					
科目No.	121345300	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
〔テーマ・概要〕							
<p>伝統的な経済学において、人間は、他からの影響を受けず、全ての情報を用いて合理的意思決定が行われる存在（ホモエコノミクス）として仮定されている。一方、行動経済学においては、このような合理性から系統的にずれる「バイアス」が存在することが前提になっている。本講義では、行動経済学において整理されている、人間の意思決定における系統的なバイアスについて学修する。さらに、行動経済学的特性を用いて、金銭や、罰則付きの規制を使うことなく、人々の行動をよりよい（合理的な）ものに変えていく方法（ナッジ）について学ぶ。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下の3点の到達目標を掲げる。</p> <p>① 行動経済学の原理を理解している。</p> <p>② 行動経済学的視点とミクロ経済学視点の違いを説明できる。</p> <p>③ 行動経済学の観点から、社会問題に関わる理論、課題、解決策について説明できる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	<p>ガイダンス 研究倫理について 授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 伝統的経済学にて前提とされる意思決定者の特徴と、行動経済学にて前提とされる意思決定者について学修する。</p>			<p>【予習】 シラバスを確認し、予習、復習などイメージしづらい所をピックアップしておく。 【復習】 ミクロ経済学の理論を確認しておく。</p>		60	
第2回	<p>社会的選好1 行動経済学において、人間は他者の物的・金銭的利得への関心を持つことが想定されている。 このような互恵性、利他性について学修する。</p>			<p>【予習】 Course Power 上の資料を読む。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。</p>		60	
第3回	<p>社会的選好2 社会的選好を用いて、男女格差や労働生産性にどのようにアプローチできるかについて検討する。</p>			<p>【予習】 Course Power 上の資料を読む。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。</p>		60	
第4回	<p>時間選好1 人間は現在の楽しみを優先し、将来の計画を先延ばしにしてしまうことが分かっている。 ここでは現在バイアスという概念について学修する。</p>			<p>【予習】 Course Power 上の資料を読む。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。</p>		60	
第5回	<p>時間選好2 引き続き現在バイアスという概念についていくつかの実例を見ながら学修する。</p>			<p>【予習】 Course Power 上の資料を読む。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。</p>		60	
第6回	<p>コミットメント 「時間非整合な意思決定」をどのように是正できるのかについて検討する。</p>			<p>【予習】 Course Power 上の資料を読む。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。</p>		60	
第7回	<p>プロスペクト理論1 行動経済学では不確実性のもと、意思決定を行う場合、客観的確率に従わないことが分かっている。そのような人間の行動メカニズムについて学修する。</p>			<p>【予習】 Course Power 上の資料を読む。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。</p>		60	
第8回	<p>プロスペクト理論2 ここでは、主に確実性効果、損失回避などの概念について学修する。</p>			<p>【予習】 Course Power 上の資料を読む。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。</p>		60	
第9回	<p>ハロー効果 私たちの成功は運と努力どちらの効果より大きいのだろうか。ハロー効果の概念の理解と共に検討する。※宿題レポートについて説明する</p>			<p>【予習】 Course Power 上の資料を読む。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。身近な実例を考えてみる。</p>		60	
第10回	<p>ヒューリスティックス1 人々は決して全ての情報を最大限に活かして意思決定できるわけではない。 ここでは「直感的意思決定」の概念について学修する。</p>			<p>【予習】 Course Power 上の資料を読む。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。</p>		60	
第11回	<p>ヒューリスティックス2 直感的意思決定に従う事でどのような社会的影響があるのか、について学修する。</p>			<p>【予習】 Course Power 上の資料を読む。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。</p>		60	
第12回	<p>ナッジ ナッジの概念について学修する。 どのような条件が揃えばナッジといえるのか実例を見ながら検討する。 ※宿題レポートを提出する</p>			<p>【予習】 Course Power 上の資料を読む。日常の場面でナッジが使われていると考えられる現象を見つけてくる。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。</p>		60	
第13回	<p>ナッジと公共政策 ナッジが使われていると考えられている公共政策について学修する。 行動経済学的にみてどのような政策がよいか例を見ながら検討する。</p>			<p>【予習】 Course Power 上の資料を読む。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。宿題レポートの準備を行う。</p>		120	
第14回	<p>総復習 授業全体を復習する。 期末レポートについてのガイダンスを行う。</p>			<p>【予習】 確認テストの内容をテキストで確認する。 【復習】 重要箇所を理解・説明できるようにする。</p>		120	
〔授業の方法〕							

授業は講義形式でおこなう。

学生は、課題レポート、期末レポートを作成し、提出することを求められる。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解に応じて取り組むこと。

宿題レポート：授業内容の基本的な事項の理解度を深め、自分の考えを整理する。

期末レポート：行動経済学の基本的な概念の理解を深め、自分の意見を述べる。

〔成績評価の方法〕

期末レポート、Course Power 等を用いたレポート、小テストの提出など、学生の受講状況および授業進捗に応じた方法を用いて評価する。

期末レポート (45%)、宿題レポート (40%)、平常点 (授業への参加状況など) (15%) による総合評価。

なお、課題レポート等についてグループで話し合う事は構わないが、必ず自分なりの意見・言葉でレポートを作成すること。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準 (学則第 39 条) に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕

関連科目：ミクロ経済学、社会学、社会保障論 A、B など

〔テキスト〕

特になし

参考書をもとに作成した資料を配布する。

〔参考書〕

大竹文雄 『行動経済学の使い方』 岩波新書 820 円 ISBN : 978-4-00-431795-1

バデリー, ミシェル 『[エッセンシャル版] 行動経済学』 早川書房 1600 円 ISBN : 978-4-15-209794-1

セイラー, リチャード, サンスティーン, キャス 『実践行動経済学—健康、富、幸福への聡明な選択』 日経 B P 社 2420 円 ISBN : 978-4-8222-4747-8

購入の必要なし。

〔質問・相談方法等 (オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知する。

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

科目名		国際マクロ経済学					
教員名		大野 正智					
科目No.	121345400	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
〔テーマ・概要〕							
<p>本講義では、マクロ経済学の応用分野として、国際貿易・国際金融のマクロ経済学的側面 (Macroeconomic Aspects of International Trade and Finance) と呼ばれる領域のテーマを扱います。特に、マクロ経済学の貨幣市場の理論を復習しながら、国際経済でのマクロ経済現象を紹介します。なお、授業の進捗によって、内容を一部変更する場合があります。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP1 (専門分野の知識・技能) 及び DP3 【課題の発見と解決】 (情報の調査収集+分析・解釈+論理的思考) の修得を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <p>1. マクロ経済学の応用領域として、国際的な経済現象をマクロ的に理解・描写できるようになる。</p> <p>2. マクロ経済学の国際的テーマとして、その背景と意味を理解できるようになる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の目安 (分)	
第1回	マクロ経済学の基礎			国際マクロ経済学を学ぶにあたって、その基本となるマクロ経済学の基礎を再確認する。		60	
第2回	国際収支			国際取引での統計を理解する。		60	
第3回	対外資産			対外取引と国際収支の対応関係を理解する。		60	
第4回	開放経済における GDP と経常収支			国際取引のある GDP を理解する。		60	
第5回	開放経済下の貨幣、金利、為替レート			国際取引のある経済の金融を理解する、		60	
第6回	為替レートと貿易			為替レートと貿易の関係を理解する、		60	
第7回	外国為替市場			国際金融の制度的側面を理解する。		60	
第8回	購買力平価			為替レート決定理論の基礎を学ぶ。		60	
第9回	金利平価			国際金融市場での金利の理論を学ぶ。		60	
第10回	アセット・アプローチによる為替レート決定			金融面からの為替レート決定理論を理解する、		60	
第11回	為替介入			金融当局と外国為替市場の関係を学ぶ。		60	
第12回	国際経済における IS-LM モデル(1)			IS-LMモデルを、閉鎖経済から開放経済に切り替える初歩的理解を修得する。		60	
第13回	国際経済における IS-LM モデル(2)			IS-LMモデルを、閉鎖経済から開放経済に切り替える応用的理解を修得する。		60	
第14回	為替相場制度			世界の為替相場制度の変遷を理解する。		60	
〔授業の方法〕							
<p>主に講義形式で行います。配布プリントは当日の授業終了後に Coure Power にアップします。欠席者はそこから入手してください。特に、第1回目は学期末試験までの全体的計画についてシラバス最新版として配布プリントとともにお知らせしますので、第1回目欠席者は十分注意してください。</p> <p>授業の進展に合わせて、理解力の向上が伴うよう、受講生に質問したり、クイズ・小テスト等を実施したりします。聴講のみでなくクイズ・小テスト等の受験も受講の一部ですので、学内外からの受講形態にかかわらず、テストを含め受講してください。なお、授業の進度に応じて、授業内でのテストの実施時期や回数が上記の計画とは異なる場合があります。</p>							
〔成績評価の方法〕							
授業内クイズ・小テスト (50%)、学期末試験 (50%)。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度によって評価します。

1. マクロ経済学の基礎的理解を踏まえたか。
2. 国際マクロ経済学の主要テーマについて、基本的理解ができている。
3. 発展的テーマへの考察ができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

先修科目：1 年次向けの「マクロ経済学」の授業（初級マクロ経済学 I ・ II）について単位修得済みであること。

〔テキスト〕

『国際金融論 1 5 講』、佐藤・中田著、新世社、2400 円＋税、ISBN: 978-4-88384-323-7

〔参考書〕

特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		応用計量経済学					
教員名		庄司 俊章					
科目No.	121345500	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>IT化の進展によって、現代社会では多様なデータが蓄積されるようになっており、これらのデータを適切に分析できる人材が必要とされている。この授業では、計量経済学的手法を用いて実際のデータを分析することに主眼を置く。特に、コンピュータを活用してデータを適切に加工・視覚化する方法や、統計分析および回帰分析を行う方法について詳しく解説する。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1(専門分野の知識・技能)、DP3(課題の発見と解決)を実現するため、次のような水準に履修学生が到達することを目標とする。</p> <p>① 経済データの構造や観測方法について、基礎的な知識を身につける。 ② データを用いて計量経済学的な分析ができるようになる。 ③ 分析結果をレポートやプレゼンテーションにまとめ、他者に説明できる。 ④ 他者の分析結果に対して、質問やコメントをすることができる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	イントロダクション 授業で利用するソフトウェアの講義			【復習】授業内容を再確認する。		60	
第2回	労働市場における人種差別(1)			【復習】授業内容を再確認する。		60	
第3回	労働市場における人種差別(2)			【予習】演習問題に取り組む。 【復習】授業内容を再確認する。		90	
第4回	最低賃金と失業率(1)			【復習】授業内容を再確認する。		60	
第5回	最低賃金と失業率(2)			【予習】演習問題に取り組む。 【復習】授業内容を再確認する。		90	
第6回	戦時における民間人被害(1)			【復習】授業内容を再確認する。		60	
第7回	戦時における民間人被害(2)			【予習】演習問題に取り組む。 【復習】授業内容を再確認する。		90	
第8回	米大統領選結果の予測(1)			【復習】授業内容を再確認する。		60	
第9回	米大統領選結果の予測(2)			【予習】演習問題に取り組む。 【復習】授業内容を再確認する。		90	
第10回	確率(1)			【復習】授業内容を再確認する。		60	
第11回	確率(2)			【予習】演習問題に取り組む。 【復習】授業内容を再確認する。		90	
第12回	回帰分析(1)			【復習】授業内容を再確認する。		60	
第13回	回帰分析(2)			【予習】演習問題に取り組む。 【復習】授業内容を再確認する。		90	
第14回	授業内容の総括・まとめ			【復習】授業内容を再確認する。		60	
〔授業の方法〕							
<p>授業では、上に示したような様々なトピックに関する社会科学データを実際に取り扱う。各トピックについて、講義とコンピュータ演習を並行して行うため、受講者には積極的に手を動かして演習に臨む姿勢が求められる。なお演習では R と RStudio を用いる。授業内容は下記テキストに準拠する。</p>							
〔成績評価の方法〕							
<p>平常点(授業内の演習課題や参加状況)60%、課題レポート40%を基本として成績評価します。</p>							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
R に関する予備知識は求めないが、統計学・計量経済学については下記の先修科目を履修することが望ましい。
経済数学科生：計量経済学 II (可能なら計量経済学 III), 現代経済学科生は 初級統計学 II (可能なら中級計量経済学)までの知識を前提とする。
経済経営学科生：入門的な統計学・計量経済学の知識を前提とする。

〔テキスト〕
『社会科学のためのデータ分析入門（上）（下）』、今井耕介、2018年、岩波書店。

〔参考書〕
『データ分析の力』、伊藤公一朗、2017年、光文社新書。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕
ICT 教育科目、アクティブ・ラーニング

科目名		社会学					
教員名		挾本 佳代					
科目No.	121345700	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>テーマ：「社会を考える 公と私」</p> <p>この授業では、社会学的方法論を用いて「社会」を分析し、現代社会の諸相を講義形式で考察していきます。特に、社会学の二大理論である「社会システム論」と「コミュニケーション論」双方の概念および理論の解説を丹念に行っていきます。</p> <p>社会学理論の大前提には、わたしたち人間が「社会」を崩壊することなく、少しでも長く秩序づけられた状態を維持しようとする人間の側からの暗黙の諒解があります。しかし、この人間による諒解により、人間と「社会」をとりまく環境に少なからぬ負荷を与えています。</p> <p>そうした現状を正確に把握するために、社会学的な視座を用いることで浮上する近代社会の解釈、経済現状、多岐に複雑化する現代の社会問題を考察していきます。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <p>①社会でおきている「公と私」の相克関係を理解し、説明できる。</p> <p>②自分が生きている社会の問題点の在処を知り、社会の中での自らの立ち位置を明確に他人に理解させることができる。</p> <p>③社会学理論を理解し、社会的考察をすることができる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション ・授業の内容、その進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 ・「公と私」の関係性の破綻にはどのようなものがあるかを把握する。 ・社会学の謎			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第2回	「社会」とは何か／その理論 ・社会学における社会学理論を解説する。 ・そもそも「社会」とはどういう状態を指し示しているのかを解説する。 ・社会学の歴史を通し、「社会」がどのように捉えられるべきものとして変遷してきたのかを解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第3回	「社会」としての人間の結びつき／つながりの限界（1） ・「無縁社会」の現状を解説する。 ・NHK「無縁社会キャンペーン」を考察する。 ・「無縁社会」批判を解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第4回	「社会」としての人間の結びつき／つながりの限界（2） ・家族、職場、地域社会の抱える問題点を考察する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第5回	わたし探しのゆくえ ・社会の中で上手くコミュニケーションがとれない人間は、アイデンティティの在処を追い求める「わたし探し」をし続けなければならないのか、について解説する。 ・ジェンダー、セクシュアリティの観点からも考える。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第6回	コミュニケーション不全は解決できるか ・平野啓一郎による「分人」という考え方を解説する。 ・「分人」によって社会の中の一人の人間は救われるかどうかを考察する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		90	
第7回	中間テスト ・これまでの授業で学修してきた理解度を確認するためのテストを行う。			【予習】これまでの授業で学修してきたことを、自分の言葉で解説することができるようにしておく。		60	
第8回	コミュニティの可能性 ・コミュニティは人間の結びつき、つながりを密接なものにするのかどうかを考察する。 ・「コミュニティ」という言葉が使われる現状を解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第9回	政治という非日常 ・「大きな政府」「小さな政府」を解説する。 ・それぞれの政府の問題点についても検討する。 ・個人が「公」との矛盾を小さくするには、どちらの政府が良いのかを考察する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第10回	集団とネットワーク／メディアの可能性 ・社会全体と個人の意思疎通を図るものとして、ネットワークやメディアはどのように使われていくべきかを解説する。 ・メディアによって作り上げられる「理想の自分像」はないかどうかを考察する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第11回	神話世界としての消費空間 ・みせびらかしの消費、消費の合理化から現代社会を考察する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第12回	マスメディアに踊らされる個性のゆくえ ・ミニマリズム、断捨離、ときめき片づけといった、作り上げられる流行に振り回されて個性は確立されるかについて考える。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	

第13回	社会学の必要性 ・社会の発展法則の解明、危機の時代にかそ対応できる社会学、社会秩序のあり方について考察する。	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60
第14回	総括 ・授業のまとめ キーワード、キー概念等を確認する。 ・到達度確認テスト	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60
〔授業の方法〕 基本的に、教科書、配布プリントなどをもとに、内容を詳説していく講義形式で行う。 随時授業の中で、与えられた課題に対する解答／コメントを作成する。 上で示された準備学習の時間は目安であるので、各自の理解度に応じて取り組むことが求められる。 なお、各テスト、課題の狙いは以下の通りである。 ・中間テスト：第1回～6回までの学修内容についての基礎的な理解度と、キーワードの理解を確認する。 ・課題に対する解答／コメント：授業ごとの到達度を確認する。 ・到達度確認テスト：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。			
〔成績評価の方法〕 随時行う課題への解答／コメント（20%）、中間テスト（25%）、到達度確認テスト（55%）による総合評価を基本とし、質問など授業への積極的な参加をプラスに評価する。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。 次の点に着目し、その達成度によって評価する。 ・社会学理論の基礎的なキーワード、鍵概念的な理解。 ・「社会と個人」「公と私」の相克に対する深い思考。			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。			
〔テキスト〕 『大学4年間の社会学が10時間でざっと学べる』、出口剛司、株式会社KADOKAWA、1500円（税別） ISBN978-4-04-601990-5 教科書は書かれた順番通りには使用しない。			
〔参考書〕 『ファーストステップ教養講座 社会学で描く現代社会のスケッチ』、友枝敏雄・山田真茂留・平野孝典、株式会社みらい、2200円（税別） ISBN978-4-86015-485-1 購入の必要なし。ただし、授業で内容について言及をすることがある。			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。			
〔特記事項〕			

科目名		経済史の基礎					
教員名		鴨野 洋一郎					
科目No.	121350000	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2022 後期
〔テーマ・概要〕							
<p>経済史の重要な課題の1つに、「人類はどのようにして生き延び、そして豊かになってきたか（もしくは豊かではなくなってきたか）」を解明することがある。近年、AI技術の進歩などを背景に「人類とは何か」という問題関心から人類が生き延びてきた歴史を壮大なスケールで物語る本や、今日の私たちの経済システムである資本主義経済の性質を問直すような本が、世界でも国内でも大きな関心を集めている。この授業では、こうした近年の問題関心についてできるだけわかりやすく、要点をおさえて紹介していく。これにより、受講生にはより深く、柔軟に「人類の経済」について考えられるようになってほしい。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP2-1【教養の修得】(広い視野での思考・判断)を実現するため、つぎの3点を到達目標とする。</p> <p>①人類が厳しい環境を生き延びるなかで進化してきたプロセスについて理解する。 ②人類が農耕牧畜の開始とともに生活様式を一変させたプロセスについて理解する。 ③資本主義が成立したプロセスにかんするさまざまな考え方について理解する。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業の概要、到達目標、授業内容、成績評価等を説明する。			【復習】授業の流れをイメージできるようにする。		60	
第2回	第I部 人類はどのように生き延びてきたか① —寒冷化と初期人類の出現— ・地球の寒冷化とともに初期人類が出現したことについて学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第3回	第I部 人類はどのように生き延びてきたか② —人類の出現と脳容量の増大— ・人類が過酷な環境にあわせて脳容量を増大させたことについて学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第4回	第I部 人類はどのように生き延びてきたか③ —地球に拡散する現生人類— ・現生人類がきわめて過酷な環境を生き延びた状況について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第5回	第I部のまとめ ・第I部の授業内容についてまとめる。 ・小レポートについて理解する。			【復習】第I部の内容をまとめ、小レポートを作成する。		120	
第6回	第II部 人間はどのように豊かになってきたか① —ダイヤモンド『銃・病原菌・輻』— ・ダイヤモンドの著書を紹介し、農耕牧畜の重要性について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第7回	第II部 人間はどのように豊かになってきたか② —ノア=ハラリ『サピエンス全史』— ・ノア=ハラリの著書を紹介し、彼の文明史観について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第8回	第II部 人間はどのように豊かになってきたか③ —人間は本当に豊かになったのか？— ・2つの著書から、人間にとっての「豊かさ」について考える。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第9回	第II部のまとめ ・第II部の授業内容についてまとめる。 ・小レポートについて理解する。			【復習】第II部の内容をまとめ、小レポートを作成する。		120	
第10回	第III部 資本主義はどのようにして生まれたのか① —古典的な解釈— ・マルクスやヴェーバーによる古典的な解釈について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第11回	第III部 資本主義はどのようにして生まれたのか② —ブローデルとウォーラステイン— ・複数の経済圏を設定する巨視的な解釈について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第12回	第III部 資本主義はどのようにして生まれたのか③ —アジアからの視点— ・資本主義形成のプロセスをアジアからの視点でとらえる解釈について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第13回	第III部のまとめ ・第III部の授業内容についてまとめる。			【復習】第III部の内容をまとめる。		60	
第14回	授業のまとめ ・授業内容全体についてまとめる。 ・期末レポートについて理解する。			【復習】授業全体の内容をまとめ、期末レポートを作成する。		120	
〔授業の方法〕							
<p>授業は講義形式で行われる。レジュメを配布し、それにもとづき解説を行う。また適宜スライドを映し、イメージを共有する。授業全体を3つのパートに分け、第I部および第II部の終了後に小レポート、授業全体の最後に期末レポートを課す。 各レポートの概要については、以下の通りである。 ・小レポート：第I部および第II部の内容について理解し、考察できているかを確認する。 ・期末レポート：授業全体の内容について理解し、考察できているかを確認する。</p>							
〔成績評価の方法〕							

小レポート（2回：各20%）、期末レポート（50%）、授業への積極的な参加（10%）による総合評価。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. つぎの点に着目し、その達成度により評価する。

- ①人類が厳しい環境を生き延びるなかで進化してきたプロセスについて説明できる。
- ②人類が農耕牧畜の開始とともに生活様式を一変させたプロセスについて説明できる。
- ③資本主義が成立したプロセスにかんするさまざまな考え方について説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

必要な予備知識はとくにない。

関連科目：「西洋経済史A」「西洋経済史B」「比較経済史」「地域経済史」

〔テキスト〕

とくになし。

〔参考書〕

とくになし。参考文献については、授業中に指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		数量経済史					
教員名		松本 貴典					
科目No.	121351000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>本講義は数量経済史を取り扱う。 数量経済史とは、従来の叙史的経済史やマルクス経済学に基づく経済史に対して新しく登場した経済史のことで、分析対象に対してマクロ経済学やミクロ経済学の経済理論を援用し、エコノメトリック・モデルを使って計量的に対象を把握しようとする特徴を持つ。1960年代に創始され、ニュー・エコノミック・ヒストリーとして発展し、人口動態、生産・所得・物価動向、景気変動などについてめざましい成果があげられてきた。本講義では、この数量経済史を、最新の学会成果をふんだんに取り入れながら講義する。 数量経済史はしばしば「通説破壊的」である。従来通説として信じられてきた歴史解釈は、数量経済史の登場によって、しばしば大きく書き換えを余儀なくされた。たとえば、数量経済史の泰斗であるロバート・フォーゲルは、アメリカの奴隷制が綿業の生産システムとしては極めて効率的であったので、南北戦争がなければますます奴隷制は発展したであろうし、奴隷の生活水準も他の白人労働者よりも良く、奴隷制は収益も大きく、きわめて経済合理的な生産システムであったと結論して、多方面に大きなセンセーションを巻き起こした。ちなみに、フォーゲルは、数量経済史の研究で、ノーベル経済学賞を授賞している。 さらに、同じく「新しい経済史」の分野でフォーゲルとともにノーベル経済学賞を授賞したダグラス・ノースの業績を講義する。ノースの研究の要点は「なぜ豊かな国と貧しい国ができたのか？ その鍵は制度である」とするところにある。経済発展を促進する制度を組み上げられた（少数の）国だけが豊かになり、経済促進的である制度を組み上げられなかった（多数の）国は失速したのである。 数量経済史研究でノーベル経済学賞を授賞した二人の研究者の研究を分かりやすく講義したあと、本講義が向かうのは、昨年（2015年）にノーベル経済学賞を授賞したアンガス・ディートンの業績である。ディートンは、「経済発展と格差」の問題を、所得格差、健康格差、幸福格差などの多方面の角度から検討して、この分野に関する深い洞察を得て、授賞の栄誉に輝いた。「所得格差がこれほど大きくなったのは、ついこの200年間ほど前に始まった出来事である」「経済発展は格差をとまなかった、それでも世界中の人びとの健康を改善してきた」などの興味深い事実が、説得的な図表によって明解に示される。 要するに、本講義の目的は、ノーベル経済学賞を受賞した、数量経済史分野の三人のトップスターの業績や、産業革命論に新風を吹き込んだ新進気鋭の研究者ロバート・アレンの業績を、半期を通じて一挙にわかりやすく紹介することである。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1（教養の修得） DP6（専門分野の知識・理解）を実現するため、以下を到達目標とする。 受講生には、まず従来の経済史理解を次々と覆していく“数量経済史”のパワーを実感してもらいたい。それを通じて、いままでの経済史理解がいかに歪んでいたかについて理解してもらおうと同時に、経済理論と計量経済学を応用した歴史解釈が、そうした「通説」を次々と破壊していく、一種の爽快感と、あつと言わせる経済史の新解釈を知る知的興奮とを味わってもらいたい。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	<p>【前半】数量経済史とはどのような学問か(イントロダクション)—その新しさとパワフルさについて—</p> <p>【後半】制度の経済史(1)：制度と経済成長 1万年前に氷河期が終わり気候が温暖化すると、人類は定置農業を始めた。そのときには世界には先進国も後進国もなかった。しかし同じスタート・ラインに立って歩み始めたにもかかわらず、何が富貧を分けたのか。 もう一人のノーベル経済学賞受賞者であるダグラス・ノースは、その答えを制度に求める。 では制度が違えば、どうして経済発展に違いが出るのか。そのような「必勝法」があ</p>			<p>ノースの主張を分かりやすく要約したものが以下のURLで公開されているので、適宜参照することを薦める。 http://www.nobelprize.org/nobel_prizes/economic-sciences/laureates/1993/north-lecture.html 復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。</p>		60分	
第2回	制度の経済史(2)：私的所有権の保証とフリーライダーの防止を施行できる主体は何か。			<p>予習として、前回の授業内容のポイントを確認しておくこと。 復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。</p>		30分 60分	
第3回	制度の経済史(3)：何が富貧を分けたか。ノースが歴史的事実と客観的指標を用いて、どのようにそれを論証したかを講義する。			<p>予習として、前回の授業内容のポイントを確認しておくこと。 復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。</p>		30分 60分	
第4回	1～3回の授業の内容補足と質疑応答			<p>予習として、前回の授業内容のポイントを確認しておくこと。 復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。</p>		30分 60分	
第5回	新しい産業革命論(1) なぜ産業革命は18世紀のイギリスで起こったのか、その最新の成果を紹介する。			<p>予習として、前回の授業内容のポイントを確認しておくこと。 復習として、奴隷制の経済史全体の要点整理を行うこと。</p>		30分 90分	
第6回	新しい産業革命論(2) なぜ産業革命は18世紀のイギリスで起こったのか、その最新の成果を紹介する。			<p>予習として、不明点や追加説明を求める点を確認しておくこと。 復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。</p>		60分 90分	
第7回	5～6回の授業の内容補足と質疑応答			<p>予習として、不明点や追加説明を求める点を確認しておくこと。 復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。</p>		60分	
第8回	奴隷制の経済史(1)：奴隷制農園の収益率 奴隷制農園は1860年ころ、アメリカ南部では全盛期にあった。その理由は、投資対象として考えた場合、奴隷制農園の収益性は高く、高いリターンが期待できた点にあった。この事実が、奴隷制に関する通説を片端から突き崩していく前提となる。			<p>予習として、前回の授業内容のポイントを確認しておくこと。 復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。</p>		30分 60分	
第9回	奴隷制の経済史(2)：奴隷の生活環境・懲罰・報奨 奴隷が高い収益を農園主にもたらすなら、奴隷の衣食住と医療は、通説のように「劣悪である」というのは本当か。 また、奴隷はどれくらいの頻度で鞭打たれていたか。一方、完全収奪など不可能なのだから、つまり強制労働だけでは高い収益は実現できないから、奴隷にも報奨制度がボーナスがあったはずである。それはどのようなものであったか。			<p>予習として、前回の授業内容のポイントを確認しておくこと。 復習として、制度の経済史全体の要点整理を行うこと。</p>		30分 90分	

第10回	奴隷制の経済史(3)：奴隷の平均寿命と奴隷から収奪 奴隷制農園が盛んであった以上、奴隷は農園主に「収奪」されていたはずである。その収奪はどのようなレベルのものだったのか。また、以上のような状況にあって、奴隷の平均寿命は、自由人と比較してどうであったか。これを国際比較するとどのような状況であったか。	予習として、不明点や追加説明を求める点を確認しておくこと。 復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。	30分 90分
第11回	8～10回の授業の内容補足と質疑応答	予習として、前回の授業内容のポイントを確認しておくこと。 復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。	30分 60分
第12回	経済発展と格差(1)：経済発展と所得格差	予習として、前回の授業内容のポイントを確認しておくこと。 復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。	30分 60分
第13回	経済発展と格差(2)：経済発展と健康格差	予習として、前回の授業内容のポイントを確認しておくこと。 復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。	30分 60分
第14回	12～13回の授業の内容補足と質疑応答	予習として、前回の授業内容のポイントを確認しておくこと。 復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。	30分 60分
〔授業の方法〕 数多くの図表を使いながら、講義形式で進める。			
〔成績評価の方法〕 学期末試験もしくは期末レポート(80%)および平常点(20%)による成績評価を行う。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。			
〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕 とくにない。			
〔テキスト〕 とくに用いない。授業時に参考図表や資料を配付する。			
〔参考書〕 Fogel and Engerman, Time on the Cross: The Economics of American Negro Slavery, NORTON, 1995 Fogel and Engerman, Without Consent or Contract: The Rise and Fall of American Slavery, NORTON, 1991 North, Institutions, Institutional Change and Economic Perf			
〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕 ポータルサイトで周知する。			
〔特記事項〕			
ICT活用			

科目名		現代日本経済					
教員名		松本 貴典					
科目No.	121351200	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>1990年代初頭のバブル崩壊後、日本経済は長期低迷に突入した。平成9年末には大手金融機関の破綻が相次ぎ、平成10年以降は失業率は戦後最悪を更新し、経済成長率は連続でマイナスを記録した。平成も20年をこえたが、現在においてもまだ日本は安定的な景気回復軌道に乗ったとは断言できない状況にある。日本経済はどこで道を誤ったのか。今後の日本経済はどうなっていくのだろうか。</p> <p>本講義は、バブルの発生から崩壊をスタート地点として、長期にわたる不景気を経て、アベノミクスのパフォーマンス評価まで、日本経済の30年間を、豊富なデータをもとに検討する。</p>							
<p>[到達目標]</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <p>現在の日本経済が抱える問題の経緯と全体像を把握し、「これからの日本経済」を考えることができるようになることを目指す。現代日本経済の抱える諸問題について関心の高い学生諸君には、ぜひ受講してほしい講義である。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	高度経済成長期以降の日本経済—安定成長期からバブルの発生と崩壊まで—			復習としては授業の要点整理と、参考書(1)の当該箇所を読んでみる。		復習に60分。	
第2回	平成不況の経済史(1) 長期不況、経常収支黒字と超円高、不良債権と金融危機			予習としては、前回の授業の見直し。 復習としては授業の要点整理と、参考書(2)の第1章～第3章と参考書(3)を読んでみる。		予習に30分、復習に60分。	
第3回	平成不況の経済史(2) 景気対策と財政構造改革、改革と平成経済、インフレ・デフレ・リフレ			予習としては、前回の授業の見直し。 復習としては授業の要点整理と、参考書(4)の要点集約部分を読んでみる。		予習に30分、復習に60分。	
第4回	第1回～第3回の授業の内容補足と質疑応答			予習として、不明点や追加説明を求める点を確認しておくこと。 ここまでの講義の総復習を、要点をしぼって行うこと。		予習に30分、復習に90分。	
第5回	現代日本経済の重要論点(1) 貿易赤字亡国論の幻想			予習としては、前回の授業の見直し。 復習としては授業の要点整理を行うこと。		予習に30分、復習に60分。	
第6回	現代日本経済の重要論点(2) 日本経済は破綻するの—か—累積する日本国債の経済学的に正しい解釈—			予習としては、前回の授業の見直し。 復習としては授業の要点整理を行うこと。		予習に30分、復習に60分。	
第7回	現代日本経済の重要論点(3) 経済成長、物価安定、低失業率の三つの望ましい状態を同時に実現できるか			予習としては、前回の授業の見直し。 復習としては授業の要点整理を行うこと。		予習に30分、復習に60分。	
第8回	現代日本経済の重要論点(4) 現代世界経済と日本経済：中国を中心に			予習としては、前回の授業の見直し。 復習としては授業の要点整理。		予習に30分、復習に60分。	
第9回	現代日本経済の重要論点(5) 長らく平等だと言われてきた日本の所得配分は長期不況を経た今でも平等なのか			予習としては、前回の授業の見直し。 復習としては授業の要点整理を行うこと。		予習に30分、復習に60分。	
第10回	第5回～第9回の授業の内容補足と質疑応答			予習としては、前回の授業の見直し。 復習としては授業の要点整理を行うこと。		予習に30分、復習に90分。	
第11回	現代日本経済の重要論点(6) 経済学的に正しい資産運用の理論：現代日本人に欠けている資産運用スキルの実際			予習としては、前回の授業の見直し。 復習としては授業の要点整理を行うこと。		予習に30分、復習に60分。	
第12回	現代日本経済の重要論点(7) 経済学的に正しい資産運用の理論：持家か賃貸か？			予習としては、前回の授業の見直し。 復習としては授業の要点整理を行うこと。		予習に30分、復習に60分。	
第13回	現代日本経済の重要論点(8) 消費税増税—法人税や所得税を減税しておきながら、なぜ消費税を増税する必要があるのか—			予習としては、前回の授業の見直し。 復習としては授業の要点整理を行うこと。		予習に60分、復習に60分。	
第14回	第11回～第13回の授業の内容補足と質疑応答			予習としては、前回の授業の見直し。 復習としては授業全体の要点整理を行うこと。		予習に30分、復習に60分。	
<p>[授業の方法]</p> <p>多様な図表を数多く用いて、ビジュアルに分かりやすく講義する。</p>							
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学期末試験もしくは期末レポート（80%）および平常点（20%）による成績評価を行う。</p>							
[成績評価の基準]							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
必要な予備知識はとくにない。

〔テキスト〕
とくに定めない。
ただし、現代日本経済の重要論点については、時機に応じて、適宜順番が入れ替わったり、内容が新規につけ加えられることがある。

〔参考書〕
参考書
(1) 中村隆英『日本経済—その成長と構造—[第 3 版]』東京大学出版会、1993 年（とくに第Ⅲ部）
(2) 吉田和男『平成不況 10 年史（PHP 新書）』PHP 研究所、1998 年
(3) 原田 泰『日本の失われた十年—失敗の本質・復活への戦略—』日本経済新聞出版社、1999 年
(4) OECD『幸福の世界経済史』明石書店、2016 年
(5) 原田 泰『日本の「大停滞」が終わる日』日本評論社、2003 年
(6) Marcus Nunes, " ' Abenomics ' one year on

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

I C T 活用

科目名		社会思想史					
教員名		挾本 佳代					
科目No.	121351300	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>テーマ：「経済学と人間性」</p> <p>個々の人間に着目するだけでは浮上してこない、集団としての全体性や統一性をそなえた「社会」のなかで、「経済」や「経済生活」はどのような意味合いをもつものとして捉えられてきたのか。それは合理性に裏打ちされた人間の行為だけによるものだと考えられてきたのだろうか。それとも、もっと多様性をそなえた、自然と人間との関係性をも含めたものだと、考えられてきたのだろうか。</p> <p>この授業では、経済を人間性とともに論じた経済学者や社会学者の思想、彼らを取りまく思想の歴史、時代背景などの考察・解説を行う。可能な限り翻訳された原典も参照しながら、思想家たちの生の主張を考察していく予定である。</p> <p>授業では、古典を単なる古典として読み、理解することだけにとどめることはしない。古典のどの部分が現在のわたしたちの社会理解のために、生かされるのかをも追求して行く予定である。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP2（教養の修得）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <p>①経済学の基盤となる思想にはどのようなものがあるのかを理解し、説明できる。</p> <p>②功利主義や合理主義などに拠らない経済学者や社会学者、功利主義や合理主義に拠る経済学者や社会学者の発想的に理解し、把握することができる。</p> <p>③先人のたちの思想を踏まえ、現代社会を深く理解することができる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	<p>イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の内容、その進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 現代社会理解に対する社会思想史や経済思想史の貢献を解説する。 			<p>【予習】 シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。</p> <p>【復習】 授業の全体像を把握する。</p>		60	
第2回	<p>経済思想の萌芽から古典派経済学の成立まで（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> マンデヴィル『蜂の寓話』から経済行為と人間性との関連性を解説する。 			<p>【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。</p> <p>【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。</p>		60	
第3回	<p>経済思想の萌芽から古典派経済学の成立まで（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> アダム・スミス『国富論』、『道徳感情論』を通し、利己心をもつとされる人間の経済行為の理論を解説する。 経済思想が西欧近代社会の中で確立した時点の時代背景を解説する。 			<p>【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。</p> <p>【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。</p>		60	
第4回	<p>功利主義思想の誕生</p> <ul style="list-style-type: none"> ベンサム『道徳および立法の諸原理序説』から、功利主義思想を解説する。 効用の最大化は、現代社会ではどのように理解されているのかを解説する。 			<p>【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。</p> <p>【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。</p>		60	
第5回	<p>資本主義経済の隆盛と人口問題（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> マルサス『人口の原理』から、資本主義を確立したイギリスで起こった人口問題について解説する。 人間と自然との関係性から人口問題を考察する。 			<p>【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。</p> <p>【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。</p>		60	
第6回	<p>資本主義経済の隆盛と人口問題（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> 近代経済学を確立したリカードの思想を解説する。 リカードとマルサスによる穀物法論争から、国民の人間性や徳、国防の問題を解説する。 			<p>【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。</p> <p>【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。</p>		90	
第7回	<p>中間テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの授業で学修してきた理解度を確認するため のテストを行う。 			<p>【予習】 これまでの授業で学修してきたことを、自分の言葉で解説することができるようにしておく。</p>		60	
第8回	<p>資本主義経済の隆盛と変質する社会と人間性（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> 19世紀になぜ社会学が誕生したのかについて、理論的な背景を探る。 			<p>【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。</p> <p>【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。</p>		60	
第9回	<p>資本主義経済の隆盛と変質する社会と人間性（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> スペンサー『社会学原理』、『人間対国家』から、資本主義の陰で疲弊していった人間性について解説する。 スペンサー思想から現代社会の環境問題の根幹部分を見る。 			<p>【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。</p> <p>【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。</p>		60	
第10回	<p>資本主義の精神、倫理、合理性（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』が思想として確立されるまでの背景として、ロック、カント、新カント派の思想を解説する。 			<p>【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。</p> <p>【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。</p>		60	
第11回	<p>資本主義の精神、倫理、合理性（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』から、西欧近代の資本主義の原動力となったものを解説する。 ヴェーバーの理解社会学を通し、人間の内面から社会的行為を展開した理論を解説する。 			<p>【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。</p> <p>【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。</p>		60	
第12回	<p>社会病理からみる社会と人間性</p> <ul style="list-style-type: none"> デュルケム『自殺論』から、社会病理が増加しはじめた近代社会と人間の相克を解説する。 			<p>【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。</p> <p>【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。</p>		60	
第13回	<p>職人氣質を喪失した社会と消費行動の変容</p> <ul style="list-style-type: none"> ヴェーバー『有閑階級の理論』を通し、消費文化や人間の消費行動の本質を解説する。 			<p>【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。</p> <p>【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。</p>		60	

第14回	総括 ・授業のまとめ ・到達度確認テストの解説	【予習】到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。 【復習】これまでに学んだキーワード、キー概念を整理し、到達度確認テストに向けての準備を行う。	120
<p>〔授業の方法〕</p> <p>基本的に、配布プリントなどをもとに、内容を詳説していく講義形式で行う。 随時授業の中で、与えられた課題に対する解答／コメントを作成する。 上で示された準備学習の時間は目安であるので、各自の理解度に応じて取り組むことが求められる。 なお、各テスト、課題の狙いは以下の通りである。 ①中間テスト：第1回～6回までの学修内容についての基礎的な理解度と、キーワードの理解を確認する。 ②課題に対する解答／コメント：授業ごとの到達度を確認する。 ③到達度確認テスト：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>随時行う課題への解答／コメント（15%）、中間テスト（15%）、到達度確認テスト（70%）による総合評価を基本とし、質問など授業への積極的な参加をプラスに評価する。</p>			
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。 次の点に着目し、その達成度によって評価する。 ・基礎的なキーワード、鍵概念的な理解。 ・経済思想の基盤となる思想の理解。 ・先人達の思想を通して、現代社会を見通す深い理解力。</p>			
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>特になし。</p>			
<p>〔テキスト〕</p> <p>授業で適宜指示をする。</p>			
<p>〔参考書〕</p> <p>授業で適宜指示をする。</p>			
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトで周知する。</p>			
<p>〔特記事項〕</p>			

科目名		社会理解実践講義 / (OB・OGが語るビジネス最前線)					
教員名		鈴木 史馬					
科目No.	121355300	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>この授業は、現在社会で実務家として活躍中である本学OB・OGを講師に迎え、各講師の実務経験を活かして、各産業界の実態と将来の展望、求められる人材・人間像について講義します。社会人として生き抜いてきた経験談を交えながら、社会経済の実情と、履修者である学生それぞれの10年後、20年後に予想される社会人像を描きます。なお、諸般の事情により、担当講師および講義内容が変更される場合があります。</p>							
<p>[到達目標]</p> <p>DP2 (【教養の修得】(広い視野での試行・判断)) を実現するため、以下の到達目標を掲げる。 (1)OB・OGの活躍するビジネスの状況を理解し、文章として表現できる。 (2)将来、社会に出ていく者として、「社会で働く」ということを主体的に考え、現状・課題等を文章として表現できる。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の目安 (分)	
第1回	バーバリージャパン 代表取締役社長 小田切 賢太郎 講師 (経済学部卒業) 講義テーマ「ラグジュアリー市場、2 極化するマーケットに関する現状と展望」			【予習】講義テーマを確認し、講師の会社や業界について予備知識を得ておく。 【復習】授業内容を要約し、感想を著し、レポートとして提出する。		60	
第2回	人材開発コンサルタント 山崎 紅 講師 (法学部卒業) 講義テーマ「将来の働き方・生き方を考えるヒント、今できるアクション」 「企業の人事・人材開発に携わるコンサルタントとして、大学生の自分に会えるなら伝えたいこと」			【予習】自分自身の将来の働き方・生き方について、現在の考えを整理しておく。 【復習】講義を聞いて印象に残ったこと、考えたことについてレポートとして提出す流。		60	
第3回	一般社団法人 地域間交流支援機構 事務局長 幸脇 麻由子 講師 (経済学部卒業) 講義テーマ「人の心を動かす、企画力」			【予習】講義テーマを確認し、講師の会社や業界について予備知識を得ておく。 【復習】授業内容を要約し、感想を著し、レポートとして提出する。		60	
第4回	成蹊学園 常務理事 (元三菱商事) 三嶋 偉一 講師 (経済学部卒業) 講義テーマ「総合商社の海外事業の現場にて (海外で働くとはどういうことか)」 三菱商事での36年間で経験した、世界各国でのさまざまなプロジェクトやビジネスの実例紹介。総合商社とは、いったいどういう会社なのか?海外で働くうえで、大事なことは?いま世界で起きていること。将来はどうなるのか?自分の未来を、どうやって創ってゆけば良いのか?質疑応答			【予習】講義テーマを確認し、講師の会社や業界について予備知識を得ておく。特に、三菱商事 HP 中の会社紹介ビデオを視聴しておくこと。 https://www.mitsubishicorp.com/jp/ja/about/profile/ 【復習】授業内容を要約し、感想を著し、レポートとして提出する。		60	
第5回	日本航空 常務執行役員 旅客営業本部長 西尾忠男 講師 (経済学部) 講義テーマ「航空業界の現状と展望」			【予習】講義テーマを確認し、講師の会社や業界について予備知識を得ておく。 【復習】授業内容を要約し、感想を著し、レポートとして提出する。		60	
第6回	ブラマンテ 社長 田島 弓子 講師 (文学部卒業) 講義テーマ「VUCA～不確実な時代を生き抜くキャリアの考え方」			【予習】講義テーマを確認し、講師の会社や業界について予備知識を得ておく。 【復習】講義を聞いて印象に残ったこと、考えたことについてレポートとして提出する。		60	
第7回	三菱地所 理事 廣野 研一 講師 (経済学部卒業) 講義テーマ「地域活性化のまちづくり 東京・丸の内 大阪・梅田」			【予習】講義テーマを確認し、講師の会社や業界について予備知識を得ておく。 【復習】授業内容を要約し、感想を著し、レポートとして提出する。		60	
第8回	三菱商事 (デジタルイノベーションセンター長) 平竹 雅人 講師 (経済学部卒業) 講義テーマ「新しい未来を作り出そう」			【予習】パネルディスカッションのテーマについてあらかじめ自分の考えをまとめておく。 【復習】パネルディスカッションを通じて得た知見をふまえて、自分の考えが変わった点と変わらなかった点を確認する。討議内容を要約し、感想を著し、レポートとして提出する。		60	
第9回	ダイヤ精機 社長 諏訪 貴子 講師 (工学部卒業) 講義テーマ「中小企業の事業継承と経営について」			【予習】講義テーマを確認し、講師の会社や業界について予備知識を得ておく。 【復習】授業内容を要約し、感想を著し、レポートとして提出する。		60	
第10回	パネルディスカッション パネラー 一般社団法人 地域間交流支援機構 事務局長 幸脇 麻由子 講師 (経済学部卒業) 三菱商事 平竹 雅人 講師 (経済学部卒業) 人材開発コンサルタント 山崎 紅 講師 (法学部卒業) 成蹊学園 常務理事 (元三菱商事) 三嶋 偉一 講師 (経済学部卒業) 三菱地所 理事 廣野 研一 講師 (経済学部卒業) オリエンタルランド シアトリカル事業部 理事 舞浜アフィリアー支配人			【予習】講義テーマを確認し、講師の会社や業界について予備知識を得ておく。 【復習】授業内容を要約し、感想を著し、レポートとして提出する。		60	

	安岡 譲治 講師 (経済学部卒業) テーマ「最前線で活躍するOB		
第11回	三菱UFJ銀行 田中 誠人 講師 (法学部卒業) 講義テーマ「銀行の社会的役割について」	【予習】講義テーマを確認し、講師の会社や業界について予備知識を得ておく。 【復習】授業内容を要約し、感想を著し、レポートとして提出する。	60
第12回	ゴルフダイジェスト オンライン 社長 石坂 信也 講師 (経済学部卒業) 講義テーマ「スポーツビジネスのケーススタディ」	【予習】講義テーマを確認し、講師の会社や業界について予備知識を得ておく。 【復習】授業内容を要約した上で自分の考えを著し、レポートとして提出する。	60
第13回	パーク・コーポレーション 専務取締役 COO 富永 悟司 講師 (工学部卒業) 講義テーマ「花業界における青山フラワーマーケットの独自性」	【予習】講義テーマを確認し、講師の会社や業界について予備知識を得ておく。 【復習】授業内容を要約し、感想を著し、レポートとして提出する。	60
第14回	オリエンタルランド シアトリカル事業部理事 安岡譲治 (経済学部卒業) 講義テーマ「東京ディズニーランドリゾートのホスピタリティについて」	【予習】講義テーマを確認し、講師の会社や業界について予備知識を得ておく。 【復習】授業内容を要約し、感想を著し、レポートとして提出する。	60
〔授業の方法〕 講義形式で実施する。毎回与えられた予習資料を確認し、講義を受け、レポート課題を提出する。			
〔成績評価の方法〕 Course Power (またはほかのオンライン手段) を用いた毎週のレポートの提出状況及びその内容に基づき総合的に評価する。評価ウェイトはレポートの提出状況が50%、レポートの内容が50%を目安とする予定である。ただし、提出回数4回以下は単位を不可とします。 なお、提出されたレポートは、 (1) OB・OGの活躍するビジネスの状況を理解できているか、 (2) 「社会で働く」ということを主体的にとらえ、各自のこれからのキャリアについて(1)を活かして考えているか、 を重点的に評価することによって、そ			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。 以下の達成度から判断する。 (1)OB・OGの活躍するビジネスの状況を授業の内容から理解し、文章として表現できる。 (2)将来、社会に出ていく者として、「社会で働く」ということを主体的に考え、現状・課題等を文章として表現できる。			
〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕 必要な予備知識、先修科目は特になし。 関連科目は成蹊教養カリキュラムのキャリア教育科目など。			
〔テキスト〕 特に指定しない。			
〔参考書〕 授業中に適宜紹介する。			
〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕 各回担当講師については、授業終了後に教室で受け付ける。 コーディネーター役の鈴木については、ポータルサイトで周知する。			
〔特記事項〕			

科目名		産業組織論A					
教員名		矢作 健					
科目No.	121360000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>産業組織論は、ミクロ経済学・ゲーム理論の分析手法を応用し、消費者行動や企業行動の分析を通じて市場や産業構造の理解を目指す学問分野です。産業組織論の考え方を理論的に学び、現実の市場で観察される事象とのつながりを意識して授業を行っていきます。産業組織論 A では、市場でみられる価格付けについて、現実の市場構造でみられる独占・寡占とよばれる少数の企業による戦略的行動に焦点を当てて分析を行います。これらは市場競争が十分に機能していないこととされており、こうした不完全競争の問題点を明らかにし、政府による競争政策の重要性を考察していきます。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>本科目では、DP1（専門分野の知識・理解）を実現するため、以下の到達目標の達成を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミクロ経済学・ゲーム理論の分析手法を身につける ・産業組織論の基本的な考え方を理解し、実際の企業や市場構造を自分自身で分析する力を身につける 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション ・ミクロ経済学・産業組織論における「企業」や「市場」とは何か			予習：シラバスの確認 復習：授業内容の確認		60分	
第2回	完全競争市場（1） ・消費者・生産者の行動とは			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第3回	完全競争市場（2） ・完全競争市場の社会的な望ましさ（社会厚生）とは			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第4回	独占市場（1） -独占企業の価格・数量設定とその社会厚生への影響とは			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第5回	独占市場（2） ・独占企業のさまざまな価格戦略			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第6回	独占市場（3） ・独占市場がなぜ発生するのか（規模の経済・自然独占）			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第7回	独占市場（4） ・独占市場への規制の例を学ぶ			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第8回	ゲーム理論 ・ゲーム理論の考え方を学ぶ			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第9回	寡占市場（1） ・寡占市場における企業の行動とは何か			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第10回	寡占市場（2） ・企業間の価格競争（ベルトラン競争）			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第11回	寡占市場（3） ・企業間の数量競争（クールノー競争）			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第12回	垂直的取引（1） ・垂直的な取引関係にある企業の行動と社会厚生に与える影響			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第13回	垂直的取引（2） ・垂直的取引に関する競争政策の紹介			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第14回	まとめ ・これまでの学習内容の復習			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>授業は講義形式で進めます。配布資料は担当教員が作成します。学習内容の理解到達度確認のため、宿題と期末試験を行います。内容や順序については受講者の要望や進捗に応じて変更することがあります</p>							
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>課題（宿題・レポートの提出）30%、学期末試験70%で総合的に評価します</p>							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。また、次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ミクロ経済学・ゲーム理論の分析手法を身につける
- ・産業組織論の基本的な考え方を理解し、実際の企業や市場構造を自分自身で分析する力を身につける

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

ミクロ経済学の知識があると望ましいですが、必須ではありません。

〔テキスト〕

教員が作成する配布資料をもとに講義を進めるので、テキストの購入は必要ないです

〔参考書〕

以下の本を参考にして配布資料を作成しますが、購入の必要はないです

『ブラクティカル 産業組織論』 泉田成美・柳川隆 有斐閣アルマ (ISBN 978-4641123724)

『競争政策論 第2版』 小田切宏之 日本評論社 (ISBN 978-4535558823)

『産業組織とビジネスの経済学』 花崗誠 有斐閣 (ISBN 978-4641150591)

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		産業組織論B					
教員名		矢作 健					
科目No.	121360100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>産業組織論は、ミクロ経済学・ゲーム理論の分析手法を応用し、消費者行動や企業行動の分析を通じて市場や産業構造の理解を目指す学問分野です。産業組織論の考え方を理論的に学び、現実の市場で観察される事象とのつながりを意識して授業を行っていきます。産業組織論Bでは、企業が競争を回避するため、または消費者の特性に合わせた戦略（製品差別化、カルテル、合併、開発競争、ネットワーク効果など）に焦点を当てて分析を行います。こうした企業間の戦略的な行動がもたらす社会への影響を明らかにし、政府による競争政策の重要性を考察していきます。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>本科目では、DP1（専門分野の知識・理解）を実現するため、以下の到達目標の達成を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミクロ経済学・ゲーム理論の分析手法を身につける。 ・産業組織論の基本的な考え方を理解し、実際の企業や市場構造を自分自身で分析する力を身につける。 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション ・産業組織論Bの内容について			予習：シラバスの確認 復習：授業内容の確認		60分	
第2回	産業組織論Aの復習 ・独占・寡占市場の復習 ・ゲーム理論の復習			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第3回	製品差別化（1） ・企業間の競争を回避するための要素とは			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第4回	製品差別化（2） ・製品差別化競争の経済モデルの紹介			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第5回	参入と退出（1） ・市場へ企業が参入・退出する要因とは			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第6回	参入と退出（2） ・企業間の参入阻止行動を分析			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第7回	カルテル（1） ・企業間の競争を緩和する協調行動（カルテル）が発生する要因とは			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第8回	カルテル（2） ・カルテルの社会的影響と競争政策の紹介			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第9回	合併 ・市場構造を変化させる合併が生じる理由とその社会への影響を考察			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第10回	広告と競争 ・広告戦略と価格戦略の関係			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第11回	研究開発・知的財産 ・イノベーションと競争の関係 ・知的財産権の経済分析の紹介			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第12回	ネットワーク外部性（1） ・ネットワーク効果と消費者・企業行動を考える			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第13回	ネットワーク外部性（2） ・プラットフォーム市場における価格戦略とは			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第14回	まとめ ・これまでの学習内容の復習			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
〔授業の方法〕							
<p>授業は講義形式で進めます。配布資料は担当教員が作成します。学習内容の理解到達度確認のため、宿題と期末試験を行います。内容や順序については受講者の要望や進捗に応じて変更することがあります</p>							
〔成績評価の方法〕							
課題（宿題・レポートの提出）30%、学期末試験70%で総合的に評価します							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。また、次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ミクロ経済学・ゲーム理論の分析手法を身につける
- ・産業組織論の基本的な考え方を理解し、実際の企業や市場構造を自分自身で分析する力を身につける

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

ミクロ経済学の知識があると望ましいですが、必須ではありません

〔テキスト〕

教員が作成する配布資料をもとに講義を進めるので、テキストの購入は必要ないです

〔参考書〕

以下の本を参考にして配布資料を作成しますが、購入の必要はないです

『ブラクティカル 産業組織論』 泉田成美・柳川隆 有斐閣アルマ (ISBN 978-4641123724)

『競争政策論 第2版』 小田切宏之 日本評論社 (ISBN 978-4535558823)

『産業組織とビジネスの経済学』 花崗誠 有斐閣 (ISBN 978-4641150591)

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		国際経済学A					
教員名		永野 護					
科目No.	121360200	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕							
<p>国際経済学を理論・データ面双方から学習します。国際経済学の理論に対し、現実の国際貿易・資本取引がどのように推移しているのか、そしてそれは各国通商政策、通貨政策、貿易協定により影響を受けているのか否かを確認し、理解を深めます。国際経済理論のデータ面からの確認では、日本企業の貿易取引、直接投資を通じた進出状況を中心とする講義を進めます。世界銀行、国連貿易開発投資、国際通貨基金他の国際機関データベースに API (Application Programming Interface) 接続し、国際経済データをダウンロードして、理論を実装するデモを各回実施します。</p>							
〔到達目標〕							
<p>国際経済学を主としてマイクロ面から理論・データを踏まえて理解することで、DP1【専門分野の知識・技能】、DP6【専門分野の知識・理解】に到達することを目標とします。世界貿易機関 (WTO) や経済連携協定 (EPA)、環太平洋戦略的経済連携協定 (TPP) などの専門用語を正しく理解し、これらの協定締結交渉へ至る経緯やその意義、協定がもたらす締結国への影響の理解が到達目標です。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の目安 (分)	
第1回	第1回 インTRODakション/国際経済学は何を研究するのか?			教科書第1章を予習・復習に参照してください。		120分	
第2回	第2回 世界貿易の概観			教科書第2章を予習・復習に参照してください。		120分	
第3回	第3回 労働生産性と比較優位: リカード・モデル①			教科書第3章を予習・復習に参照してください。		120分	
第4回	第4回 労働生産性と比較優位: リカード・モデル②			教科書第3章を予習として参照し、講義配布資料を復習に用いて確認してください。		120分	
第5回	第5回 特殊要素と所得分配: ヘクシャー・オリーン・モデル①			教科書第4章を予習として参照し、講義配布資料を復習に用いて確認してください。		120分	
第6回	第6回 資源と貿易: ヘクシャー・オリーン・モデル②			教科書第5章を予習として参照し、講義配布資料を復習に用いて確認してください。		120分	
第7回	第7回 貿易の標準モデル			教科書第6章を予習として参照し、講義配布資料を復習に用いて確認してください。		120分	
第8回	第8回 規模の外部経済と生産の国際立地			教科書第7章を予習として参照し、講義配布資料を復習に用いて確認してください。		120分	
第9回	第9回 中間まとめ/規模の経済・不完全競争・国際貿易1			教科書第1-7章、講義配布資料を復習に用いて確認してください。		120分	
第10回	第10回 グローバル経済の企業			教科書第8章を予習として参照し、講義配布資料を復習に用いて確認してください。		120分	
第11回	第11回 貿易政策のツール			教科書第9章を予習として参照し、講義配布資料を復習に用いて確認してください。		120分	
第12回	第12回 国際収支と国民所得統計			教科書第13章を予習として参照し、講義配布資料を復習に用いて確認してください。		120分	
第13回	第13回 総まとめ1			教科書第1-9章、13章を予習として参照し、講義配布資料を復習に用いて確認してください。		120分	
第14回	第14回 総まとめ2			教科書第1-9章、13章を予習として参照し、講義配布資料を復習に用いて確認してください。		120分	
〔授業の方法〕							
<p>講義では、講義の最後20分に簡単な Quiz を実施し、次回解説します。100分の講義では冒頭15分が Quiz の解答、55分が経済学理論の説明、30分が統計データの説明と解釈の仕方について講義します。QUIZ の回答を以って出席とします。第1回オリエンテーションにおいて履修者の希望が多ければ、MS Stream による収録動画の配信も検討する。</p> <p>尚、本講義の成績評価の6割はレポート (1頁/回) です。R を用いた国際経済分析の方法は第2回～5回の講義時に説明します。OS は Windows が望ましいですが、コードエラーを自分で解決できるのであれば Mac でも可。</p> <p>ちなみに昨年度のレポートのテーマは次の通りです。</p> <p>(1) リカード理論の実証分析 (1頁)</p> <p>(2) ヘクシャー・オリーンモデルの実証分析 (1頁)</p>							
〔成績評価の方法〕							

学期末試験および期末レポートは実施しない。QUIZ への回答を以て出席とします。対面講義時には出席は採らない。

(A) QUIZ の回答 (MS Forms) 40%

(B) レポート (1 頁を 2~3 回程度) 60%

に基づいて最終成績を算出します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準 (学則第 39 条) に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

マクロ経済学、ミクロ経済学にかかる理論的枠組みについては、改めて詳細を説明することはしないため、講義参加前に十分に確認しておくこと。プログラミング言語 R を用いた実証分析をレポートの課題とします。このため、Windows を OS とする PC が利用可能であること。Mac を OS とする PC の利用も可能であるが、Windows 版とコードが若干異なるため、エラー等は自分で解決すること。

〔テキスト〕

P.R.クルーグマン・M. オブストフェルド『国際経済学：理論と政策（上）貿易編』丸善出版を必ず購入し、出席時に携えること。

〔参考書〕

P. R. Krugman & M. Obstfeld, International Economics: Trade and Theory, 10th ed.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

コンサルティング企業 17 年の実務経験を持つ教員によるアクティブ・ラーニング授業。

科目名		国際経済学B					
教員名		永野 護					
科目No.	121360300	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
〔テーマ・概要〕							
<p>講義は、ミクロ経済学・国際経済学の理論を土台として、現実の日本企業、外国企業がどのような国際戦略を展開しているのかを事例とデータを踏まえながら解説する。具体的な企業のM&A戦略や販売戦略、R&D投資の動向を学ぶことで、ミクロ経済学・国際経済学の理論と現実について解説する。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP1（専門分野の知識・理解）を実現するため、以下を到達目標とする。経済学部教育では、マクロ経済学・ミクロ経済学・国際経済学の学習と理解が必須とされる。本講座は、こうした経済学理論を、現実の企業社会の経営戦略、国際戦略に応用して理解し、これらの理論的枠組みをデータサイエンス分析により検証する能力を身に着ける。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	第1回 自動車産業の国際戦略：トヨタ vs. テスラ 自動車メーカーの経営戦略、国際展開について事例を交えて解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第2回	第2回 電子産業の国際戦略：ソニーvs. サムスン電子 電子機器メーカーの盛衰について、個々の事例を交えて解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第3回	第3回 石油化学メーカーの国際戦略：三井化学 vs. ダウ・ケミカル 石油化学メーカーの経営環境、国際戦略の現状について解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第4回	第4回 ビール産業の国際戦略：麒麟 vs. サントリー ビール産業の直接投資、国際企業買収の事例について解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第5回	第5回 銀行経営の国際比較研究：MUF G vs. JP モルガン・チェース メガバンクの経営状況と国際戦略について解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第6回	第6回 地方銀行と国際銀行規制：横浜銀行 vs. ウェルズファーゴ 地方銀行、第二地方銀行の歴史と現状について財務データを用いて解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第7回	第7回 前半まとめ 1～6回の講義を国際比較を交えて解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第8回	第8回 医薬品産業の国際戦略：タケダ vs. ファイザー 医薬品メーカーの経営環境の現状について、グラクソ・スミスクライン、テバ、ファイザーなどの国際比較を交えて解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第9回	第9回 総合商社の国際戦略：三菱商事 vs. 伊藤忠商事 総合商社の歴史的経緯と現状、鉄鋼メーカーの国際競争について、事例を交えて解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第10回	第10回 鉄鋼メーカーの国際戦略：日本製鉄 vs 韓国ポスコ 総合商社の歴史的経緯と現状、鉄鋼メーカーの国際競争について、事例を交えて解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第11回	第11回 小売産業の盛衰とグローバル化：楽天 vs. アマゾン 百貨店、スーパー、コンビニの経営動向について解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第12回	第12回 電力産業の発展史 20世紀の電力産業の歴史について解説し、現状と展望を議論する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第13回	第13回 まとめ1 第1～12回の講義について総括する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第14回	第14回 まとめ2			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。		60	
〔授業の方法〕							

本講義で扱うすべての産業を網羅する教科書はないので、適宜、参考図書を紹介しながら、ハンドアウトを中心に講義を進める。資料は、ポータルサイトを通じて配布する。講義では冒頭に簡単な R を用いる Quiz (0~5 点) を実施します。14 回の講義において、プログラミング言語 R を用いた 1 頁のレポートの課題提出を (3 回) 求めます。

R の使用方法は第 2 回~5 回までで詳細を説明します。

昨年度のレポートテーマは次の通りです。

第 1 回 自動車企業の競争戦略の分析：マーケット・セグメンテーション vs. 価格差別化戦略

第 2 回 メガバンクのビジネス・モデル分析：金融業者の生産関数の推計

第 3 回 企業財務分析のデータサイエンス

QUIZ の回答を以って出席とし、対面教室では出席は採りません。第 1 回オリエンテーションにおいて履修者の希望が多ければ、MS Stream による収録動画の配信も検討します。

〔成績評価の方法〕

(A) Quiz 40% (MS Forms を通じての QUIZ の回答を以て出席とします。教室では出席は採りません)

(B) レポート (3 回程度) 60% (R を用いた企業戦略分析、株価・財務分析などを予定。)

に基づいて最終成績を算出する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準 (学則第 39 条) に準拠する。

上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

ミクロ経済学、国際経済学を履修済みであること。プログラミング言語 R を用いた実証分析を行うため、Windows を OS とする PC が利用可能であること。OS は Mac でも構わないがコードエラーは自分で解決すること。

〔テキスト〕

ハンドアウトを配布する。

〔参考書〕

中西孝樹著『トヨタ対 VW』日本経済新聞出版社

永井隆著『サントリー対キリン』日本経済新聞出版社

その他、適宜、指定します。

〔質問・相談方法等 (オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

コンサルティング企業勤務歴 17 年の実務家教員によるアクティブ・ラーニング授業。

科目名		法と経済					
教員名		矢作 健					
科目No.	121360600	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
〔テーマ・概要〕							
<p>法と経済では、法律のような社会のルールに関する現象をミクロ経済学・ゲーム理論といった経済学的手法を応用して分析する学問分野です。この講義では、社会のルール（法律など）や法制度が社会の人々の行動（インセンティブ）に与える影響を明らかにし、その社会への影響を資源配分の効率性の観点から考察していきます。具体的には、所有権、契約法、事故法、訴訟に関する手続き、刑法などを取り扱いたいと思います。そして、実際にどのように社会のルールが作成され、適用されていくのかについても考えていきたいと思います。</p>							
〔到達目標〕							
<p>本科目では、DP1（専門分野の知識・理解）を実現するため、以下の到達目標の達成を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミクロ経済学・ゲーム理論の分析手法を身につけ、法と経済学の基本的な考え方を理解する ・実際の社会のルール・法律を自分自身で分析する力を身につける 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション ・法と経済学の概要の説明			予習：シラバスの確認 復習：授業内容の確認		60分	
第2回	ミクロ経済学の考え方（1） ・ミクロ経済学の分析手法と社会厚生（効率性）の考え方を学ぶ			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第3回	ミクロ経済学の考え方（2） ・市場の失敗とルール作りの必要性を学ぶ			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第4回	所有権の経済分析（1） ・所有権とは ・所有権が存在することの意義を考える			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第5回	所有権の経済分析（2） ・コースの定理とは ・公共の所有物・共有の財産の経済分析を紹介			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第6回	ゲーム理論の考え方 ・ゲーム理論の分析手法と均衡の考え方を学ぶ			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第7回	事故法の経済分析（1） ・事故が発生する際の賠償責任に関する諸ルールを紹介			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第8回	事故法の経済分析（2） ・製造物責任法への応用			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第9回	契約法の経済分析 ・契約の必要性とその与える影響を考える			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第10回	訴訟・法的手続きの経済分析 ・訴訟か和解を決定する要因を考える			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第11回	刑法の経済分析 ・犯罪抑止に関する経済モデルを紹介			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第12回	独占禁止法の経済分析 ・独占市場（不完全競争）の影響を考える			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第13回	ルール作りの経済分析 ・法やルールが決まっていく過程を政治的プロセスに着目して考える			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第14回	まとめ ・これまでの学習の復習			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
〔授業の方法〕							
<p>授業は講義形式で進めます。配布資料は担当教員が作成します。学習内容の理解到達度確認のため、宿題と期末試験を行います。内容や順序については受講者の要望や進捗に応じて変更することがあります</p>							
〔成績評価の方法〕							
<p>課題（宿題・レポートの提出）30%、学期末試験70%で総合的に評価します</p>							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。また、次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ミクロ経済学・ゲーム理論の分析手法を身につけ、法と経済学の基本的な考え方を理解する
- ・実際の社会のルール・法律を自分自身で分析する力を身につける

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕

教員が作成する配布資料をもとに講義を進めるので、テキストの購入は必要ないです

〔参考書〕

以下の本を参考にして配布資料を作成しますが、購入の必要はないです

- ・『法と経済学』 スティーブン・シャベル 田中亘・飯田高（訳）、日本経済新聞出版社（ISBN 978-4532405854）
- ・『The Economic Approach to Law, Third Edition』 Thomas Miceli、Stanford Economics and Finance（ISBN 978-1503600065）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		金融論A					
教員名		鈴木 史馬					
科目No.	121360700	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕							
<p>金融取引とは、現在利用する予定のない資源を所有する資金余剰主体と現在資源を利用したいが資源を所有していない資金不足主体が資源を融通し合う取引である。本科目では、金融取引に関する様々な仕組みや機能を経済学に基づいて解説します。また、金融資産の価格の決定メカニズムや、金融機関の役割などについても解説します。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、以下を到達目標とする。 金融についての基本的知識を習得する。日々のニュース・新聞報道などで議論される金融機関や金融市場の動きや相互作用などが理解できるようになる事を目標とする。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス／金融の役割 ・講義計画の全体像を説明する。 ・金融取引の基本的な機能について説明する。			金融の全体像を理解するよう復習する。		60	
第2回	金融システム ・金融仲介の全体像である金融システムについて説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第3回	日本の資金循環 ・資金循環統計を見ながら、日本の金融システムの全体像について説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第4回	金融取引の基本 ・金利やリスクプレミアムなど、金融取引に際して重要な事項を説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第5回	金融市場の均衡～貯蓄と投資の関係(1) ・マクロ経済における貯蓄と投資の均衡について基本モデルを説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第6回	金融市場の均衡から見た日本経済 ・金融市場の均衡の基本モデルを利用し、日本の資金循環について分析する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第7回	これまでの理解度の確認 ・これまでの指定箇所を中心に学習内容についての到達度を確認するための小テストを行う。 ・テスト終了後、テスト内容についての解説や補足を行う。			小テストに向けてよく復習する。		60	
第8回	金融市場の均衡～貯蓄と投資の関係(2) ・政府が国債を発行する場合の金融市場の均衡のモデルについて説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第9回	日本の財政赤字と金融政策 ・政府部門を考慮した金融市場の均衡のモデルを利用し、日本の財政赤字や金融政策に分析する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第10回	金融市場の均衡～貯蓄と投資の関係(3) ・海外との取引がある場合の金融市場金融市場の均衡のモデルについて説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第11回	金融市場の均衡～貯蓄と投資の関係(4) ・海外との取引がある場合の金融市場金融市場の均衡のモデルについて説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第12回	日本の金融収支 ・海外部門を考慮した金融市場の均衡のモデルを利用し、日本と海外の資金取引を分析する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第13回	金融の基礎(1) ・講義では扱わなかった金融経済学上の重要トピックについて解説する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第14回	金融の基礎(2) ・講義では扱わなかった金融経済学上の重要トピックについて解説する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
〔授業の方法〕							
<p>通常の講義形式で実施する。授業の進度に応じて授業内のテスト（到達度確認テスト等）の実施時期、回数は異なることもあります。</p>							
〔成績評価の方法〕							
<p>学期末試験（60%）および平常点（40%）で成績評価する。 平常点は授業内に実施される到達度確認テストや数回の小テスト等の結果の合計です。</p>							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
上記、到達目標の達成度に基づき評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

先修科目

経済数理学科 「マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」

現代経済学科 「初級マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」

経済経営学科 「マクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ」

関連科目 「金融論 B」があります。

〔テキスト〕

特に指定しない。

〔参考書〕

『日本経済新聞』。また、適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		金融論B					
教員名		鈴木 史馬					
科目No.	121360800	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕							
<p>金融取引とは、資金余剰主体と資金不足主体が現在と将来の間で資源を融通し合う取引であり、時間を通じた資源配分にかかわる取引とも呼ばれる。金融資産には様々なものがあり、中でも貨幣は決済手段となるという意味で、株式や債券等の資産と異なった性質を持っている。また、貨幣は中央銀行の管理下にあり、中央銀行は民間銀行と貨幣の取引をおこなうなど様々な活動を通じて、他の金融資産の市場の価格（利子率）に影響を与える。そして、それは家計や企業の異時点間の意思決定に影響を与え、マクロ経済全体に大きな影響を与える。</p> <p>この授業は、日本において、中央銀行と金融機関の関係がマクロ経済全体にどのような影響を及ぼすのかを、マクロ経済学的な基本的な分析枠組みを使って説明する。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <p>日本の金融システムや金融政策の現状と歴史の変遷について、経済学に基づく知識を習得する。特に、日々のニュース・新聞報道などで議論される金融機関や金融市場の動きや相互作用などが理解できるようになる事を目標とする。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス／金融の役割 ・講義計画の全体像を説明する。 ・金融取引の基本的な機能について説明する。			金融の全体像を理解するよう復習する。		60	
第2回	貨幣市場と債券市場 ・債券市場で決まる利子率と、貨幣市場における貨幣の需給バランスがどのような関係にあるのかを説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第3回	貨幣とLM曲線 ・中央銀行による貨幣供給量の操作が金利操作につながるメカニズムを説明する。 ・物価と貨幣市場の均衡の関係について説明する。 ・日本における貨幣量の推移について説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第4回	総需要とIS曲線 ・財市場における需要の合計である総需要と利子率の関係であるIS曲線について説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第5回	IS-LMモデルと総需要曲線 ・IS-LMモデルの均衡から、物価と総需要の関係である総需要曲線を導出する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第6回	これまでの理解度の確認 ・これまでの指定箇所を中心に学習内容についての到達度を確認するための小テストを行う。 ・テスト終了後、テスト内容についての解説や補足を行う。			小テストに向けてよく復習する。		60	
第7回	企業の生産活動と労働市場 ・物価水準と労働供給の関係について説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第8回	フィリップス曲線と総供給曲線 ・インフレ率と失業率の関係を表すフィリップス曲線と、総供給の関係について説明する。 ・日本のインフレ率と失業率の推移について説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第9回	短期・中期・長期の総供給曲線 ・異なる物価間の調整速度と総供給の関係について説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第10回	総需要・総供給モデル（1） ・総需要曲線と総供給曲線を使ったマクロ経済の均衡について説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第11回	総需要・総供給モデル（2） ・マクロ経済の均衡と期待形成の関係について説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第12回	総需要・総供給モデル（3） ・マクロ経済政策とマクロ経済の均衡の関係について説明する。 ・日本の金融政策の現状について説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第13回	総需要・総供給モデル（4） ・総需要曲線と総供給曲線を使って、デフレが生じるメカニズムについて説明する。 ・日本の金融政策、貨幣市場をマクロ経済理論を使って説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第14回	日本の金融システム・金融政策の今後 ・歴史的経緯を踏まえ、日本の金融システムや金融政策が今後どのようなこととなると考えられるかについて議論する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
〔授業の方法〕							
<p>一般の講義形式で行いますが、講義中に、教員から受講生に質問をして返答を求めることがあります。</p> <p>なお、授業の進度に応じて授業内のテスト（到達度確認テスト等）の実施時期、回数は異なることもあります。</p>							

〔成績評価の方法〕

学期末試験(60%)および平常点(40%)で成績評価する。
平常点は授業内に実施される到達度確認テストや数回の小テスト等の結果の合計です。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
上記、到達目標の達成度に基づき評価する。

〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕

先修科目

経済数理学科 「マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」

現代経済学科 「初級マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」

経済経営学科 「マクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ」

関連科目 「金融論A」があります。

〔テキスト〕

特に指定しない。

〔参考書〕

星岳雄+A.カシヤップ『日本金融システム進化論』(日本経済新聞社)

二神孝一・堀敬一『マクロ経済学』(有斐閣)

『日本経済新聞』。また、適宜紹介する。

〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		ファイナンスA					
教員名		永野 護					
科目No.	121360900	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕							
<p>本講義は、ミクロ経済学・マクロ経済学の理論を土台として、現代の金融産業、金融システムがどのような歴史的経緯を経て現状があるのか、事例を踏まえながら解説する。講義の内容は、銀行業、証券業、保険業等の産業別の解説の他、金融資本市場のマイクロストラクチャを解説する。講義では、情報提供企業から株価日次データを入手し、Rを用いてファイナンス理論の実装デモを各回実施する。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP1（専門分野の知識・理解）、DP2（教養の修得）、を実現するため、以下を到達目標とする。経済学部教育では、マクロ経済学・ミクロ経済学の学習と理解が必須とされる。本講座は、こうした経済学理論を応用し、現実の金融業、金融システムに関する専門知識を理解することで、経済学理論の妥当性、経済学理論が未だ研究として踏み込んでいない領域を理解することを目標とする。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	第1回 ガイダンス／金融とは？ 銀行の経営戦略、国際展開について事例を交えて解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第2回	第2回 金融取引の阻害要因（1） 不完備契約について事例を交えて解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第3回	第3回 金融取引の阻害要因（2） 情報の非対称性について事例を交えて解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第4回	第4回 金融市場と金融機関 都市銀行・地方銀行の経営環境、国際戦略の現状について解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第5回	第5回 間接金融の仕組み 間接金融の仕組み、経営状況と国際戦略について解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第6回	第6回 銀行中心のシステム 金融機関の歴史と現状について財務データを用いて解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第7回	第7回 中間まとめ 第1～6回の内容について解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第8回	第8回 市場中心のシステム 金融資本市場の歴史と現状について財務データを用いて解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第9回	第9回 金融システムの改革 金融システムのリスクと制度について解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第10回	第10回 金融機関と市場 金利形成と資産価格の理論について解説し、現状と展望を議論する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第11回	第11回 企業経営と市場 企業金融と直接金融市場がもたらす経済面への影響について解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第12回	第12回 資産運用と市場 家計部門の貯蓄と直接金融市場がもたらす経済面への影響について解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第13回	第13回 バブル・デフレと金融政策 第1～12回の講義について総括する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第14回	第14回 到達度確認 第1～13回の講義についての理解度確認を行う。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。		60	
〔授業の方法〕							

下記に示す教科書を用い、かつハンドアウトを中心に講義を進める。資料は、ポータルサイトを通じて配布する。本講義では、前回の講義の理解度確認のため、毎回最後の、20分程度、MS Formsを通じてクイズ（小テスト）を実施し、これを出席点とする。対面教室では出席は採らない（自宅・学外からの QUIZ の回答も可）。

レポート作成に必要な R を用いた分析手法は第2回～5回の講義において詳細を説明する。

第1回オリエンテーションにおいて履修者の希望が多ければ、MS Stream による収録動画の配信も検討する。

〔成績評価の方法〕

学期末試験は実施しないため、平常点（40%）とレポート（60%）で成績評価する。

MS Forms による QUIZ を毎回実施し、これを以て出席点。対面教室では出席は採らない。

レポートは①メガバンクの株価、②主要銀行の β 値の算出、③企業財務分析、を予定。R の使用方法は第2～5回までで全て説明します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

ミクロ経済学、マクロ経済学を履修済みであること。

〔テキスト〕

村瀬英彰著『新エコノミクス金融論』 日本評論社

※必ず購入すること。

〔参考書〕

なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

コンサルティング企業17年の実務経験を持つ教員によるアクティブ・ラーニング授業。

科目名		ファイナンス B					
教員名		永野 護					
科目No.	121361000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
〔テーマ・概要〕							
<p>本講義は、ファイナンス A の理論を土台として、現代の金融システム、企業金融がどのような経緯を経て現状があるのか、事例を踏まえながら解説する。講義の内容は、一般事業会社のコーポレート・ファイナンス、銀行業、証券業、保険業等の産業別の解説の他、金融資本市場のマイクロストラクチャを解説する。講義では、Python と株価日次データを用い、CAPM 理論の実装および多変量解析、効率的フロンティアの導出デモを実施する。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP1（専門分野の知識・理解）、DP2（教養の修得）、を実現するため、以下を到達目標とする。経済学部教育では、ファイナンス A、マクロ経済学・ミクロ経済学の学習と理解が必須とされる。本講座は、こうした経済学理論を応用し、現実の金融業、金融システムに関する専門知識を理解することで、経済学理論の妥当性、経済学理論が未だ研究として踏み込んでいない領域を理解することを目標とする。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	第1回 ガイダンス／貨幣と経済 企業金融略、国際展開について事例を交えて解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第2回	第2回 金融とその機能 金融の機能について事例を交えて解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第3回	第3回 取引費用とリスク 取引費用について事例を交えて解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第4回	第4回 情報の非対称性と返済のリスク 情報・流動化・情報生産について事例を交えて解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第5回	第5回 金融の仕組み（1） 間接金融の仕組み、経営状況と国際戦略について解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第6回	第6回 金融の仕組み（2） 金融機関の歴史と現状について財務データを用いて解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第7回	第7回 中間まとめ 第1～6回の内容について解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第8回	第8回 市場中心のシステム 金融資本市場の歴史と現状について財務データを用いて解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第9回	第9回 金融の仕組み（3） 金融システムのリスクと制度について解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第10回	第10回 金融機関（1） 金利形成と資産価格の理論について解説し、現状と展望を議論する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第11回	第11回 金融市場 企業金融と直接金融市場がもたらす経済面への影響について解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第12回	第12回 金融機関（2） 家計部門の貯蓄と直接金融市場がもたらす経済面への影響について解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第13回	第13回 資金循環と金融システム 金融仲介機能を資金フローをもとに開設する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第14回	第14回 総まとめ 第1～13回の講義についての理解度確認を行う。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。		60	
〔授業の方法〕							

下記に示す教科書を用い、かつハンドアウトを中心に講義を進める。資料は、ポータルサイトを通じて配布する。本講義では、前回の講義の理解度確認のため、毎回最後の、20分程度、MS Formsを通じてクイズ（小テスト）を実施し、これを出席点とする。このため対面教室ではPCは必携とする（自宅・学外からのQUIZの回答も可）。

レポート作成に必要なPythonを用いた分析手法は各回講義時に詳細を説明する。

〔成績評価の方法〕

学期末試験は実施しないため、平常点（40%）とレポート（60%）で成績評価する。

MS FormsによるQUIZを毎回実施し、これを以て出席点。対面教室では出席は採らない。

レポートは①メガバンクの株価、②主要銀行の β 値の算出、③企業財務分析、を予定。Rの使用方法は第2～5回までで全て説明します。

第1回オリエンテーションにおいて希望者が多ければ、MS Streamによる収録動画の配信も検討する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

ミクロ経済学、マクロ経済学を履修済みであること。

〔テキスト〕

内田浩史著『金融』 有斐閣

〔参考書〕

なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

コンサルティング企業17年の実務経験を持つ教員によるアクティブ・ラーニング授業。

科目名		国際金融論					
教員名		大野 正智					
科目No.	121361100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕							
<p>一國で起きた出来事の影響は国内だけに留まらず、瞬時に全世界に波及してしまう世の中です。もはや日本の経済問題を国内だけで論ずることはできません。グローバル化の現代社会にあって、日本ならびに世界で起きている経済現象を単なる事例としてだけとらえるのではなく、論理的・体系的に理解するにはどうしたらよいかについて、経済学の観点から教養的内容を中心に紹介します。なお、授業の進捗によって、以下の計画内容を一部変更する場合があります。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP1（専門分野の知識・技能）の修得を実現するため、以下を到達目標とする。目標とします。</p> <p>1. 金融論の一領域として、国際的な経済現象を理解・描写できるようになる。</p> <p>2. 国際金融における主要テーマについて、その背景と意味を理解できるようになる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	経済学における金融と国際			ミクロ経済学とマクロ経済学の視点から金融と国際経済を理解する。		60	
第2回	外国為替の仕組み			外国為替の基本を理解する（1）。		60	
第3回	外国為替相場			外国為替の基本を理解する（2）。		60	
第4回	外国為替市場			外国為替市場を理解する、		60	
第5回	為替リスクとヘッジ手段			為替変動リスク回避の手段を理解する。		60	
第6回	国際収支と対外資産			対外的な取引について、国際基準における記録方法を学ぶ。		60	
第7回	為替相場の決定理論（1）			為替レートを理論的に理解する（1）。		60	
第8回	為替相場の決定理論（2）			為替レートを理論的に理解する（2）。		60	
第9回	為替相場とマクロ経済（1）			マクロ経済にとっての為替レートを理解する（1）。		60	
第10回	為替相場とマクロ経済（2）			マクロ経済にとっての為替レートを理解する（2）。		60	
第11回	国際通貨制度			制度面の史的展開を理解する。		60	
第12回	国際資本移動の功罪			世界の金融危機について理解する。		60	
第13回	国際通貨の興亡			米ドル中心の国際金融について再考する。		60	
第14回	テクノロジーが変える国際金融			今後の国際金融の行方を検討する。		60	
〔授業の方法〕							
<p>板書や配布プリントを通して主に講義形式で行います。配布プリントは当日の授業終了後に CoursePower にアップします。欠席者はそこから入手してください。特に、第1回目は期末試験までの全体的計画についてシラバス更新版として配布プリントとともにお知らせしますので、第1回目欠席者は十分注意してください。</p> <p>授業の進展に合わせて、理解力の向上が伴うよう、受講生に質問したり、クイズ・小テスト等を実施します。講義は聴講だけでなくクイズ・テスト等の受験も受講の一部ですので、学内外からの受講形態にかかわらず、クイズ・テスト等を含め受講してください。なお、授業の進度に応じて、授業内でのテストの実施時期や回数が上記の計画とは異なることがあります。</p>							
〔成績評価の方法〕							
授業内でのクイズ・小テスト等（50%）、学期末テスト（50%）							

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度によって評価する。

1. 国際金融論の対象領域を把握できているか。
2. 各テーマについて、基本的理解ができているか。
3. 発展的テーマへの考察ができているか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

先修科目：経済学に関する 1 年次向け入門科目を履修済みが望ましい（例えば、経済学部以外の学生の場合、「経済学の基礎」が入門科目に相当します）。履修済みでない受講生は、同学期、あるいは、来学期以降に履修することを勧めます。

〔テキスト〕

『新・国際金融のしくみ』、西村・佐久間著、有斐閣、2300 円＋税、ISBN:978-4-641-22168-0

〔参考書〕

特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		財政学A					
教員名		内田 雄貴					
科目No.	121361200	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕							
<p>政府の活動は社会保障、公共事業、国防など多岐に渡り、多くの国において重要な役割を果たしています。財政学は、このような政府の経済活動について幅広く分析を行う学問です。本講義では、財政学の基礎について解説を行います。なお、授業の進捗状況によって、内容を一部変更する場合があります。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP6（専門分野の知識・理解）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政府の役割について説明できる。 ・政府の政策が経済に与える影響について理解する。 ・現実の財政問題について考察できる。 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション			授業の全体像や進め方、評価基準などについて確認する。		60	
第2回	政府の役割（1章） ・経済における政府の役割について説明します。			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第3回	政府の役割（1章、続き） ・経済における政府の役割について説明します（続）。			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第4回	財政制度（2章） ・財政の仕組みと歴史について学びます。			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第5回	公共財（3章） ・「市場の失敗」にどう対処するかについて説明します。			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第6回	租税1（4章） ・税の仕組みと原則を学びます。			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第7回	租税2（5章） ・基幹税をどう設計するかについて説明します。			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第8回	社会保障（6章） ・社会保障政策の世代間公平性と就業への影響を考えます。			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第9回	社会保障（6章続き） ・社会保障政策の世代間公平性と就業への影響を考えます（続）。			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第10回	地方財政（7章） ・国と地方の財政関係を学びます。			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第11回	地方財政（7章続き） ・国と地方の財政関係を学びます（続）。			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第12回	異時点間の財政運営（8章） ・財政赤字の負担と発生原因を考えます。			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第13回	異時点間の財政運営（8章、続き） ・財政赤字の負担と発生原因を考えます（続）。			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第14回	まとめ ・講義全体のまとめを行います。			授業全体を振り返り、不明な点はないか確認する。		90	
〔授業の方法〕							
講義形式で授業を行います。授業内容の理解度を確認するために、小テストの実施または課題の出題を行います。							
〔成績評価の方法〕							
平常点(小テストまたは課題)40%、期末試験 60%							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
『財政のエッセンス』、西村・宮崎、有斐閣ストゥディア（購入の必要なし）

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

科目名		財政学B					
教員名		中神 康博					
科目No.	121361300	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕 分権論議が高まる中で、都市・地方が今後どのように変わっていくのか不透明な部分が多い。この講義は、都市・地方が抱える問題、とりわけ再分配に焦点を当てながら、経済学・経営学・政治学の立場から分析することを目的としている。取り扱うテーマは公共選択、再分配政策、地方税制、政府間財政関係、ニューパブリックマネジメントなど。							
〔到達目標〕 DP6（専門分野の知識・理解）を実現するため、以下を到達目標とする。 経済学（ミクロ経済学、財政学、公共経済学など）、経営学（マネジメント、会計学など）の知識にもとづいて、都市や地方が抱える問題を自ら発見し、その解決策を考える力を身につけることを目標とする。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション： ・講義の目的と到達目標について ・消費者行動の理論の解説			【復習】講義ノートをもとに余剰分析の考え方や無差別曲線などの概念を理解する。		60	
第2回	市場の失敗Ⅰ（外部性・公共財・地方公共財）			【復習】講義ノートを熟読し、論点整理を行う。		60	
第3回	公共選択Ⅰ（多数決について）			【復習】講義ノートを熟読し、論点整理を行う。		60	
第4回	公共選択ⅠⅠ（多数決が抱える問題）			【復習】講義ノートを熟読し、論点整理を行う。		60	
第5回	公共選択ⅢⅢ（住民移動）			【復習】講義ノートを熟読し、論点整理を行う。		60	
第6回	コミュニティと再分配Ⅰ（教育）			【復習】講義ノートを熟読し、論点整理を行う。		60	
第7回	コミュニティと再分配Ⅱ（医療・介護）			【復習】講義ノートを熟読し、論点整理を行う。		60	
第8回	コミュニティと再分配ⅢⅢ（公的扶助）			【復習】講義ノートを熟読し、論点整理を行う。		60	
第9回	コミュニティと税制Ⅰ（問題の所在）			【復習】講義ノートを熟読し、論点整理を行う。		60	
第10回	コミュニティと税制Ⅰ（固定資産税と所得税を中心に）			【復習】講義ノートを熟読し、論点整理を行う。		60	
第11回	政府間財政関係Ⅰ（問題の所在）			【復習】講義ノートを熟読し、論点整理を行う。		60	
第12回	政府間財政関係ⅠⅠ（地域間再分配について考える）			【復習】講義ノートを熟読し、論点整理を行う。		60	
第13回	公共と民間のあいだⅠ（問題の所在）			【復習】講義ノートを熟読し、論点整理を行う。		60	
第14回	公共と民間のあいだⅠⅠ（中間組織の役割について考える）			【復習】講義ノートを熟読し、論点整理を行う。		60	
〔授業の方法〕 講義を主体とし、小テストを数回行う予定である。							
〔成績評価の方法〕 平常点（授業への取り組み、小テスト（3回行う予定））および期末試験で成績評価する。評価割合は、授業への取り組み方、小テスト、期末試験それぞれ10%、30%、60%を原則とする。							
〔成績評価の基準〕							

到達目標である経済学と経営学にもとづいて都市や地方が抱える問題を自ら発見し、その解決策を考える力を身につけることができたかどうか、その達成度に基づいて評価する。なお、成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
ミクロ経済学， マクロ経済学

〔テキスト〕
とくになし。毎回、講義ノートを配付する予定である。

〔参考書〕
必要に応じて授業の中で紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		公共経済学					
教員名		内田 雄貴					
科目No.	121361400	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>本講義では、経済において政府はどのような役割を果たすべきか、また、政府は期待される役割を果たすことができるのかについて、経済モデルを用いながら考えていきます。まず、市場の失敗を学び、政府の役割について検討します。次に、政策を決めるための政治過程を学習し、政府の役割の実行可能性について考えます。なお、授業の進捗状況によって、内容を一部変更する場合があります。</p>							
<p>[到達目標]</p> <p>DP6（専門分野の知識・理解）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済において政府が果たすべき役割について説明できる。 ・政治過程を通じた政策決定について説明できる。 							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション			授業の全体像や進め方、評価基準などについて確認する。		60	
第2回	モデル分析と社会的余剰最大化① ・社会的余剰最大化			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第3回	モデル分析と社会的余剰最大化② ・需要曲線と供給曲線			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第4回	市場の失敗			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第5回	民主主義と社会的意思決定① ・アローの不可能性定理			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第6回	民主主義と社会的意思決定② ・中位投票者定理			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第7回	間接民主制と選挙制度① ・間接民主制			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第8回	間接民主制と選挙制度② ・さまざまな選挙制度			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第9回	政治家の汚職			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第10回	連立政権			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第11回	政治家の資質と選挙			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第12回	選挙運動			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第13回	官僚			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第14回	まとめ ・講義全体のまとめ			授業全体を振り返り、不明な点はないか確認する。		90	
<p>[授業の方法]</p> <p>講義形式で授業を行います。授業内容の理解度を確認するために、小テストの実施または課題の出題を行います。</p>							
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常点(小テストまたは課題)40%、期末試験 60%</p>							
[成績評価の基準]							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
『私たちと公共経済』、寺井公子・肥前洋一、有斐閣ストゥディア（購入の必要なし）
『ゲーム理論で考える政治学 フォーマルモデル入門』、浅古泰史、有斐閣（購入の必要なし）

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

科目名		都市経済学					
教員名		中神 康博					
科目No.	121361500	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕							
<p>土地市場と住宅市場を中心に、都市における様々な現象を、経済学・経営学の立場から分析することを目的としている。土地や住宅は、通常の財とは異なり、消費財と投資財という性質を併せ持ち、空間というディメンションを持つ異質な財サービスである。土地・住宅市場がどのように機能するのか、他の財サービス市場と比較しながら分析を試みる。さらに、土地・住宅は、私的な財サービスという性質だけでなく、公共性という側面を持っているので、市場の失敗という観点からの分析も行う。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP6（専門分野の知識・理解）を実現するため、以下を到達目標とする。 経済学（ミクロ経済学、公共経済学、計量経済学など）と経営学（マネジメント、会計学など）の知識にもとづいて、土地市場・住宅市場が抱える問題を自ら発見し、その解決策を考える力を身につけることを目標とする。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	インTRODクシヨン ・講義の目的と到達目標 ・不動産市場の特徴について			講義で配付される講義ノート#1を復習すること。		60	
第2回	不動産市場と価格 ・家賃と住宅価格 ・地代と地価 ・不動産価格の推移			講義で配付される講義ノート#2を復習すること。		60	
第3回	消費者行動の理論 ・無差別曲線の概念 ・効用最大化について 付け値地代について ・付け値地代とは ・付け値地代の性質			講義で配付される講義ノート#3を復習すること。		60	
第4回	都市空間モデル① ・簡単な仮定のもとでの都市空間モデル ・家賃と地代の導出			講義で配付される講義ノート#4を復習すること。		60	
第5回	都市空間モデル② ・土地の有効利用による家賃と地代への影響 ・居住選択とコミュニティ形成			講義で配付される講義ノート#5を復習すること。		60	
第6回	資産としての土地 ・開発の最適なタイミング ・開発と地価との関係			講義で配付される講義ノート#6を復習すること。		60	
第7回	住宅価格について ・ヘドニック分析について ・実際のデータに基づくヘドニック価格の推計			講義で配付される講義ノート#7を復習すること。		60	
第8回	住宅価格について ・マクロ環境下における住宅価格の決まり方 ・マクロ環境の変化が住宅価格に及ぼす影響について			講義で配付される講義ノート#8を復習すること。		60	
第9回	住宅ファイナンス ・住宅ローンの解説 ・住宅ローンが住宅市場にもたらす影響について			講義で配付される講義ノート#9を復習すること。		60	
第10回	住宅保有と住宅投資 ・住宅梯子 ・持家か借家か ・リバースモーゲージ			講義で配付される講義ノート#10を復習すること。		60	
第11回	住宅市場とサーチ理論 ・サーチ理論 ・住宅価格の変動			講義で配付される講義ノート#11を復習すること。		60	
第12回	土地利用規制について ・都市計画と土地利用規制 ・ゾーニングの影響			講義で配付される講義ノート#12を復習すること。		60	
第13回	不動産税制について ・不動産税制の役割 ・不動産税制が住宅市場に及ぼす影響について			講義で配付される講義ノート#13を復習すること。		60	
第14回	住宅政策について ・現金給付と現物給付 ・需要サイド政策と供給サイド政策			講義で配付される講義ノート#14を理解すること。		60	
〔授業の方法〕							
授業は講義形式で行われる。							
〔成績評価の方法〕							

平常点（授業への取り組み、小テスト（3 回行う予定））と期末試験で成績評価する。評価割合は、授業への取り組み方、小テスト、期末試験それぞれ 10%、30%、60%を原則とする。

〔成績評価の基準〕

到達目標である経済学と経営学の知識にもとづいて、土地市場・住宅市場が抱える問題を自ら発見し、その解決策を考える力を身につけることができたかどうか、その達成度にもとづいて評価する。なお、成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

ミクロ経済学，マクロ経済学，財政学，公共経済学など。

〔テキスト〕

特に指定しない。毎回講義ノートを配付する予定。

〔参考書〕

必要に応じて授業の中で紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		教育経済学					
教員名		内藤 朋枝					
科目No.	121361600	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>教育と経済学は一見結びついていないように思われるかも知れない。しかし、教育は、労働力の生産性、所得の分配、経済成長、個人の収入や生活の質に影響を与え、経済の中心的な役割を果たしている。このコースでは、教育経済学の下支えになる理論を紹介し、さらに分析手法および実証研究を紹介する。また、教育の経済学的側面を踏まえ、日本における教育制度の問題および現時点で行われている支援政策などに触れる。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1(専門分野の知識・技能)を達成するため、以下の3点の到達目標を掲げる。</p> <p>① 教育経済学の理論・実証についてを理解し、説明できる。 ② 教育効果の実証分析に用いられる測定手法について理解し、説明できる ③ 教育経済学の観点から見た、日本の教育制度における課題について理解、説明できる</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス 研究倫理について 授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 日本の教育現場の現状および教育経済学について概観する。			【予習】シラバスを確認し、予習、復習などイメージしづらい所をピックアップしておく。 【復習】キーワードの確認を行う		60	
第2回	人的資本理論1 教育を経済学の文脈で考えるにあたり重要な理論である人的資本理論(Becker[1964])について学修する			【予習】Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】重要箇所を理解・説明できるようにする。		60	
第3回	人的資本理論2 人的資本理論と教育の収益率について学修する			【予習】Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】重要箇所を理解・説明できるようにする。		60	
第4回	人的資本理論3 人的資本の蓄積のタイミングと収益率について学修する			【予習】Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】重要箇所を理解・説明できるようにする。		60	
第5回	シグナリング理論1 教育を経済学の文脈で考えるにあたり人的資本理論と並んで重要なシグナリング理論(Spence[1973])について学修する			【予習】Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】重要箇所を理解・説明できるようにする。		60	
第6回	シグナリング理論2 シグナリング理論(Spence[1973])について引き続き学修する			【予習】Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】重要箇所を理解・説明できるようにする。		60	
第7回	教育の外部性1 教育には将来への投資だけでなく、社会において収益とは別の効果があると考えられている。ここでは教育の外部性について学修する。 ※宿題レポート1の説明			【予習】Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】重要箇所を理解・説明できるようにする。		60	
第8回	教育の外部性2 教育には将来への投資だけでなく、社会において収益とは別の効果があると考えられている。ここでは教育の外部性について学修する。			【予習】Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】重要箇所を理解・説明できるようにする。		60	
第9回	教育効果測定(理論1) 教育政策の効果を測定する手法及び留意点について学修する。			【予習】Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】重要箇所を理解・説明できるようにする。		60	
第10回	教育効果測定(理論2) 教育政策の効果を測定する手法及び留意点について学修する。 ※宿題レポート2の説明 ※宿題レポート1の提出			【予習】Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】重要箇所を理解・説明できるようにする。		60	
第11回	教育効果測定(実証1) 教育政策の内、「幼児教育プログラム」について学修する。			【予習】到達度確認テストの準備を行う 【復習】重要箇所を理解・説明できるようにする。		120	
第12回	教育効果測定(実証2) 日本における実際の教育政策の内、「少人数クラス制」について学修する。			【予習】Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】重要箇所を理解・説明できるようにする。宿題レポートで要求されている基準について確認する。		60	
第13回	教育と貧困 教育と貧困の関連性および、日本における現状について資料をもとに学修する。			【予習】Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】重要箇所を理解・説明できるようにする。		60	
第14回	総復習 コース全体のまとめおよび期末レポートのガイダンスを行う ※宿題レポート2の提出			【予習】Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】期末レポートの準備を行う		120	
〔授業の方法〕							
<p>授業は講義形式でおこなう。</p> <p>学生は、必要に応じて宿題レポート等を作成し、提出することを求められる。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解に応じて取り組むこと。</p> <p>なお、各レポートの狙いは以下のとおりである。</p> <p>宿題レポート1、2：授業内容の基本的な事項の理解度を深め、自分の考えを整理する。</p> <p>期末レポート：学修内容についての基本的な理解を確認し、自分の意見を整理する。</p>							
〔成績評価の方法〕							

期末レポート、Course Power 等を用いた宿題レポート、小テストの提出など、学生の受講状況および授業進捗に応じた方法を用いて評価する。
期末レポート (45%)、課題提出(宿題レポート提出) (40%)、平常点 (授業への参加状況など) (15%) による総合評価。
なお、宿題レポート等についてグループで話し合う事は構わないが、必ず自分なりの意見・言葉でレポートを作成すること。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準 (学則第 39 条) に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕

関連科目：ミクロ経済学、計量政治学、行動経済学など

〔テキスト〕

特になし。
参考書を元に作成した資料を毎回 Course Power にアップロードします。

〔参考書〕

中室牧子 『「学力」の経済学』 ディスカヴァートウエンティワン 1600 円 ISBN : 978-4-7993-1685-6
ジェームズ・J・ヘックマン 『幼児教育の経済学』 東洋経済新報社 1760 円 ISBN : 978-4-492-31463-0
赤林英夫他 『学力・心理・家庭環境の経済分析』 有斐閣 3100 円 ISBN : 978-4-461-16473-4
末富芳 『子どもの貧困対策と教育支援』 明石書店 2600 円 ISBN : 978-4-7503-4570-3
Lovenheim, Michae

〔質問・相談方法等 (オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

科目名		環境経済学A					
教員名		山上 浩明					
科目No.	121361700	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
〔テーマ・概要〕							
<p>環境問題はさまざまな形態をとってわれわれの生活の中に存在している。粉塵・煤煙や廃棄物などの地域的環境問題から、気候変動に代表される大域的環境問題に至るまで、これらすべての問題をヒトの経済活動と切り離すことはできない。そこで本講義では、これらの環境問題を経済学（理論モデル）の観点から考察する。前半は環境経済学の基礎理論として外部性について学ぶとともに代表的な経済的手法を紹介する。後半では、具体的な環境政策立案に関する障壁となる、情報の非対称や政治的な問題についても経済学を用いて考察する。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）を実現するために、以下を到達目標とする。 ①経済学的観点から様々な環境問題について整理してとらえることができる。 ②問題の解決法について、経済学的観点から論理的に導き出すことができる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス			予習：レジュメをDLし、印刷・目を通す 復習：レジュメ内でわからない用語や概念などを調べる。		60~120分	
第2回	1. 経済学における環境問題とは？：市場の失敗			予習：レジュメをDLし、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く		60~120分	
第3回	1. 市場の効率性と市場の失敗：余剰と効率性			予習：レジュメをDLし、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く		60~120分	
第4回	2. 代表的環境政策：数量規制・課税			予習：レジュメをDLし、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く		60~120分	
第5回	2. 代表的環境政策：コースの定理			予習：レジュメをDLし、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く		60~120分	
第6回	2. 代表的環境政策：補助金			予習：レジュメをDLし、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く		60~120分	
第7回	3. ピグー税とポーモル・オーツ税：排出量モデル			予習：レジュメをDLし、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く		60~120分	
第8回	3. ピグー税とポーモル・オーツ税：政策比較			予習：レジュメをDLし、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く		60~120分	
第9回	3. ピグー税とポーモル・オーツ税：B.0. 税			予習：レジュメをDLし、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く		60~120分	
第10回	4. 排出権取引：排出量モデル			予習：レジュメをDLし、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く		60~120分	
第11回	4. 排出権取引：余剰分析と政策比較			予習：レジュメをDLし、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く		60~120分	
第12回	5. 企業の自発的社会活動			予習：レジュメをDLし、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く		60~120分	
第13回	5. 企業の自発的社会活動			予習：レジュメをDLし、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く		60~120分	
第14回	まとめ			予習：レジュメをDLし、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く		60~120分	
〔授業の方法〕							
対面形式で講義を実施する。CoursePowerを通じて資料を配布する。							
〔成績評価の方法〕							
<p>以下の2つの評価手法①、②のうち、点数が高いものを用いて成績評価を行う。 評価手法①の点数=小テスト（30%）+期末テスト（70%） 評価手法②の点数=小テスト（50%）+期末テスト（50%）</p>							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

①経済学的観点から環境問題と環境政策について整理してとらえることができる。

②問題の解決法について、経済学的観点から論理的に導き出すことができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

ミクロ経済学関連科目、環境問題に関連する科目をすでに履修済みであることが望ましい。ただし、それと同等の知識があれば履修可能である。

〔テキスト〕

講義資料を各自シラバスでダウンロード・印刷トピック毎に下記の異なる参考書を用いる。

〔参考書〕

[1]日引聡・有村俊秀（2002）『入門 環境経済学 ―環境問題解決へのアプローチ』中公新書 ISBN:4-12-1-1648-3

[2]C. D. Kolstad (1999) Environmental Economics, Oxford University Press, (日本語版：細江守紀、藤田敏之(2001)『環境経済学入門』有斐閣)

その他、講義内で紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕